

新潟県立歴史博物館年報

第24号 —令和5年度—

目次

I	管理運営の状況	1
1	沿革—開館までの経緯—	
2	施設の状況等	
3	運営方針	
4	組織図	
5	事務分掌	
6	予算	
7	令和5年度観覧者の状況	
8	ボランティア	
9	情報管理システム	
10	ホームページ	
11	メールニュース・SNS	
12	評価委員会	
13	新型コロナウイルス感染拡大防止への対応	
II	事業概要	20
1	学芸事業概要	
(1)	常設展示	
(2)	企画展示	
(3)	収集保管事業	
(4)	調査研究事業	
(5)	被災文化財の救済活動	
(6)	新潟県地域史研究ネットワーク	
2	交流普及事業概要	
(1)	講座	
(2)	体験プログラム	
(3)	視察・団体受け入れ状況	
(4)	出前授業	
(5)	職場体験	
(6)	高校生アカデミック・インターンシップ研修	
3	イベント	
4	博物館実習	
III	関係団体	73
1	新潟県博物館協議会	
2	新潟県立歴史博物館友の会	
IV	日誌抄	75
V	条例等	77
1	新潟県立歴史博物館条例	
2	新潟県立歴史博物館規則	

I 管理運営の状況

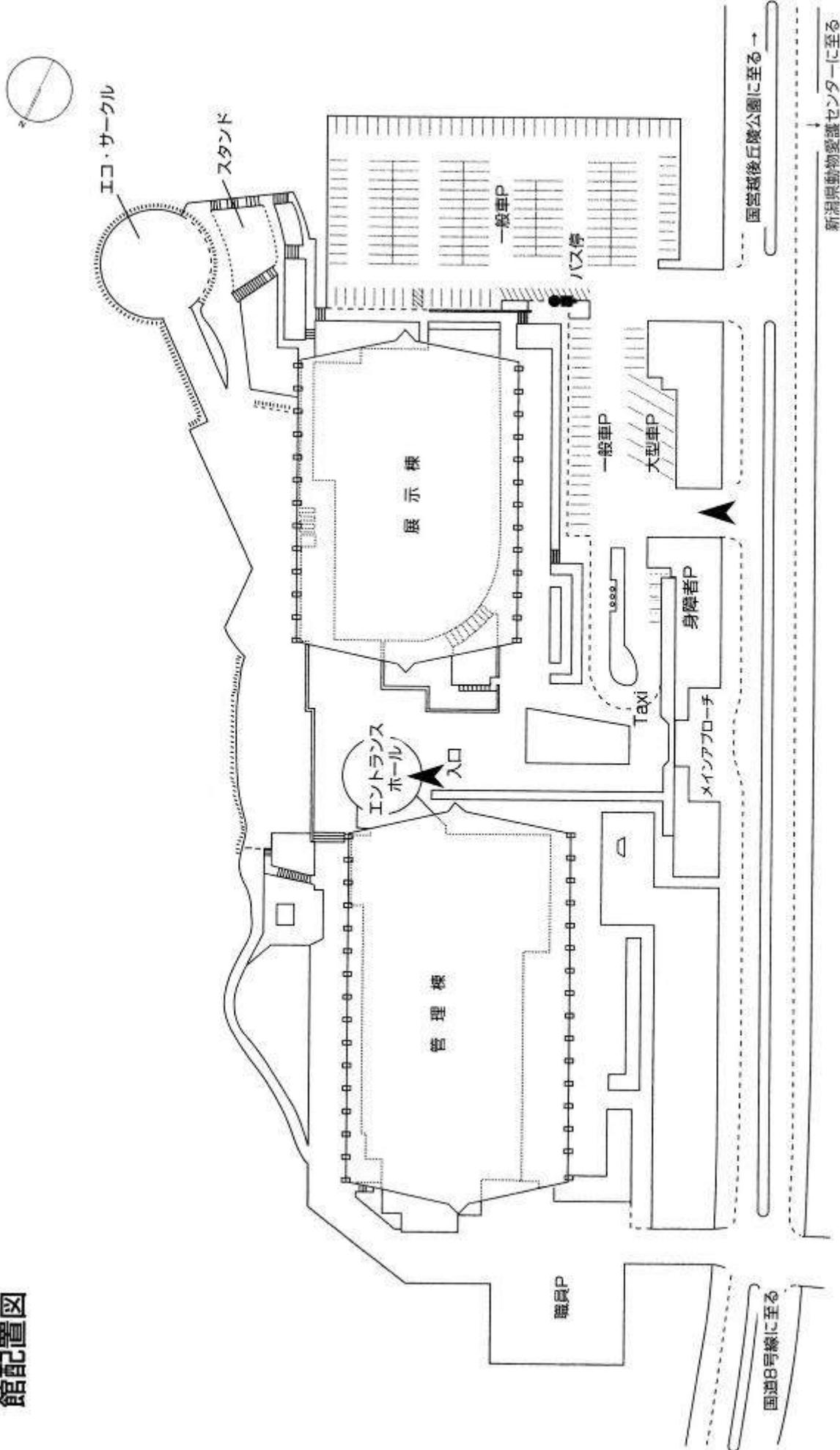
1 沿革－開館までの経緯－

- 昭和 60 年度 12 月 10 日 中越地区に社会文化施設を建設することを表明
- 昭和 62 年度 11 月 25 日 中越社会文化施設を長岡市に設置する基本方針を決定
- 昭和 63 年度 ・基本構想策定のための検討懇談会を設置
- 平成 3 年度 ・県の長期構想に掲げる「県立歴史民俗博物館」と「中越社会文化施設（縄文文化館）」の構想を一体の施設として整備する、とした基本構想を策定
- 平成 4 年度 ・基本計画検討委員会（委員 18 名）を設置
6 月 7 日 「新潟県歴史民俗文化館」（仮称）の建設基本構想を策定
- 平成 5 年度 ・展示収集委員会（委員 10 名）を設置
4 月 1 日 企画調整部企画課内に社会文化施設建設班を設置
2 月 7 日 建設地を長岡市関原町 1 丁目地内に決定
3 月 25 日 建設基本計画を策定
- 平成 6 年度 ・資料調査員（12 名）を設置
・有識者懇談会（5 名）を設置
11 月 1 日 展示基本設計契約
3 月 24 日 展示基本設計完了
3 月 31 日 建設用地の先行取得
- 平成 7 年度 4 月 20 日 建築基本設計契約
11 月 30 日 建築基本設計完了
1 月 18 日 展示実施設計委託
- 平成 8 年度 10 月 9 日 建築実施設計委託
1 月 31 日 展示実施設計完了
3 月 31 日 建築実施設計完了
- 平成 9 年度 4 月 1 日 企画調整部企画課内に社会文化施設建設室を設置
10 月 9 日 建築本体工事発注、展示制作発注
10 月 28 日 建築工事起工
- 平成 10 年度 4 月 21・23 日 県立歴史民俗文化館（仮称）の所管及び管理運営等について県三役（知事・副知事・出納長）説明
- 平成 11 年度 6 月 7 日 館の正式名称を「新潟県立歴史博物館」に決定
10 月 15 日 建築工事竣工
10 月 29 日 「博物館だより」創刊号発行
3 月 24 日 新潟県立歴史博物館条例議決
3 月 31 日 「博物館だより」第 2 号・『新潟県立歴史博物館研究紀要』創刊号発行
- 平成 12 年度 4 月 1 日 館の所管を企画調整部から環境生活部に移管
5 月 30 日 展示制作完了
7 月 20 日 「博物館だより」第 3 号発行
7 月 25 日 展示資料据え付け完了
7 月 28 日 竣工式。報道機関に公開
7 月 29・30 日 県民に対する内覧会（応募者約 2,000 名）
7 月 29 日 開館記念協賛事業として野外スペシャルコンサート「土取利行縄文鼓の世界」開催（新潟県立歴史博物館野外エコ・サークル特設ステージにて）
8 月 1 日 開館

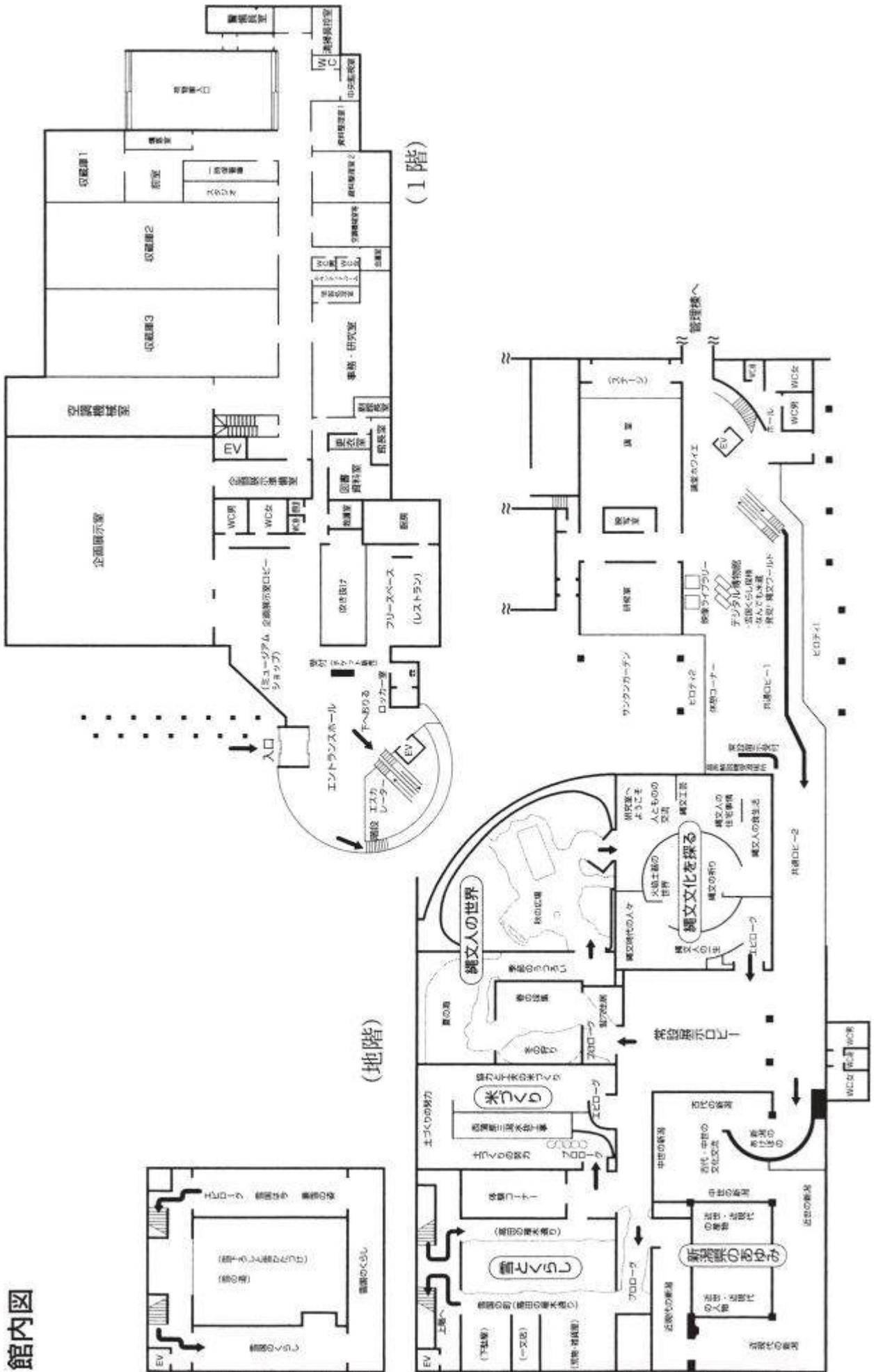
2 施設の状況等

- | | | | |
|-----------|----------|---|-------|
| (1) 施設概要 | 場 所 | 長岡市関原町1丁目字権現堂 2247 番 2 | |
| | 敷地面積 | 50,009.36 m ² | |
| | 建築面積 | 12,101.62 m ² | |
| | 延床面積 | 10,841.37 m ² | |
| | 構造・階数 | 鉄筋コンクリート造 地上1階 地下1階 | |
| | 駐 車 場 | 外来（一般） | 184 台 |
| | | 大型バス | 5 台 |
| | | 身体障害者 | 4 台 |
| 職員 | | 48 台 | |
| (2) 設 計 者 | 基本設計 | (株)日本設計 | |
| | 実施設計 | (株)日本設計・新潟県建築設計協同組合特定企業共同体 | |
| | 展示設計 | (株)ムラヤマ | |
| (3) 請負者 | 建 築 | 植木・大石・小杉特定協同企業体 | |
| | 電 気 | 近藤電気(株) | |
| | 空 調 | 朝日・新潟施設特定企業共同体 | |
| | 衛 生 | (株)長岡総合設備 | |
| | ガ ス | 北陸ガス(株) | |
| | 昇 降 機 | (株)東芝新潟支店 | |
| | 外 構 建 築 | (株)植木組 | |
| | 外 構 電 気 | 近藤電機(株) | |
| | 外 構 衛 生 | (株)長岡総合設備 | |
| | 植 栽 | (株)ニューガーデン、(株)芳樹園、(株)宮川苑、(株)日建緑地
吉茂造園(株)、北越緑化(株)、グリーン産業(株)、(株)鈴木造園 | |
| | サ イ ン | 越後観光(株) | |
| | 室 内 標 識 | (株)サン企画 | |
| | 展 示 | (株)トータル・メディア開発研究所 | |
| | (4) 総事業費 | 122 億円 | |

館配置図



館内図



3 運営方針

令和5年3月31日、「新潟県立歴史博物館の運営方針（令和5年度～9年度）」を策定した。以下、当該運営方針の本文を掲載する。

1 策定の趣旨

現在、当博物館は「新潟県立博物館の運営方針（平成29年度～令和3年度を新型コロナウイルス感染症拡大による館運営への影響を考慮して、1年延長し、令和4年度までの6年間に変更）」を定め、資料収集・保管、展示等の諸活動を行っているが、今後ともよりよい博物館づくりを目指すためには、博物館の諸活動の目的を明確化・共有化し、広く県民に提示して不断に活動の検証と改善を行っていくことが引き続き必要である。そのため、今後5年間（令和5年度～令和9年度）を計画期間とした博物館活動の指針となる新たな「運営方針」を定める。

2 当博物館活動の基盤

(1) 博物館条例

当博物館は、歴史・民俗および縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術・文化の振興に資する社会教育施設として平成12年8月に設置された。資料収集・保管、展示など様々な博物館活動を実施している。

(2) 上位計画

新潟県総合計画（令和4年4月改定）では、「住んでよし、訪れてよしの新潟県」を基本理念とし、「県民一人一人が学び、成長し、活躍できる新潟」を将来像に掲げ、「文化を通じた豊かな生活の実現」を目指している。

また、新潟県文化振興ビジョン（平成29年4月策定）では、総合計画を受け、基本目標として「文化で創る、心豊かな『ひと』、魅力ある『地域』・・・そして未来へ」掲げ、「ふれる」「つたえる」「つなぐ」の3つの施策の方向性を設定し、さまざまな施策に取り組むこととしている。また、県は専門的・広域的な推進役を果たすものと位置づけられている。

(3) 当博物館の運営体制

当館は、開館当初は県文化振興財団に管理運営委託された。平成18年度、指定管理者制度の導入に伴う管理運営形態の検討の結果、県の直営とすることとされたが、同時に「指定管理者制度と同様の創意工夫」も求められている。

平成20年度には、それまでの諸計画を統合して「博物館運営方針」を定めた。平成24年度からはこれを5か年の計画として整理した。

さらには、博物館が行う博物館の諸活動の検証・評価を行うため、平成18年度からは博物館評価委員会が設置されている。

3 当博物館を取り巻く情勢

当博物館を取り巻く情勢として、主に次のものが挙げられる。

(1) 全般的な社会情勢

- ・人口減少や経済活動の停滞による税収の減少や社会保障費の増加などで、国・地方の財政状況は厳しさを増している。
- ・訪日外国人増加や県外からの移住などの促進による交流人口の拡大への期待が広がってきている。
- ・人々の生活様式、経済活動などの広範な影響を及ぼす新たな感染症への対策と社会経済活動のバランスを図っていくことが課題となっている。
- ・本県では、全国より早いペースで少子高齢化の進展により、地域社会の維持の困難性が増すなど、県民生活への大きな影響が懸念されている。

(2) 博物館を取り巻く情勢

- ・新たな感染症拡大の影響により減少した入館者の回復が進まず、引き続き厳しい運営となっている。
- ・このような中、デジタル技術を活用した資料のアーカイブ化とインターネットを通じた鑑賞、教育活動に取り組むことが必要となってきた。
- ・博物館法の改正を踏まえ、地域の多様な主体との連携による文化観光の活動を図り、地域の活力向上に寄与することが求められている。
- ・持続可能な社会の実現（SDGs）を意識した館運営も必要となっている。
- ・本県においては、度重なる災害を経験するなかで、引き続き歴史資料を次世代へ引き継ぐ取組が求められている。

4 当博物館活動の現状

当館は、平成12年の開館以来、縄文を中心とした本県の歴史・民俗に関して、「収集・保管」、「展示」、「調査・研究」、「交流・普及」、「情報発信」の5つの機能を果たす活動を展開してきた。

具体的には、資料の収集・保存に努めるとともに、研究調査を館活動の根幹としつつ、常設展示や企画展（4回）を実施してきた。令和2年からは当館の収蔵品等を活用し、県内の歴史、民俗、出土品などに纏わる内容を紹介するテーマ展示を実施、現在は企画展とテーマ展示をそれぞれ2回ずつ実施している。また、館内での講座・体験活動や館外活動、きめ細かな団体案内・展示解説等の充実を図り、学校教育・生涯教育の一翼を担う場としても活用されている。

情報発信では、報道掲載やホームページに加え、積極的にフェイスブックやツイッターなどのSNSを活用し、当館の認知度向上に取り組んでいる。

これらの機能に加え、企画展及びテーマ展示における各種団体との共催や協力、地域史研究ネットワーク、博物館ボランティアの活発化をはじめ、様々な面で地域連携に取り組んでいる。さらには国の科学研究費等外部資金の獲得による研究等の一層の充実にも努めている。

利用者数については、これまで利用者総数（施設機能別（館内外）の利用者数合計）は年間10万人前後で推移し、また観覧者数（常設展・企画展の観覧券発行数）は近年やや漸減傾向にあり、年間5万人台から4万人台となっていた。しかしながら、令和2年度後半から新型コロナウイルス感染症の拡大による人々の行動制限や館活動の自粛の影響を受け、特に利用者総数では年間10万人前後から半分以下の4万人台まで落ち込み、いまだにその影響が継続しており回復していない状況にある。一方で来館者満足度は引き続き90%以上を確保している。

5 博物館に対する評価

外部評価委員会による直近の評価である令和4年度の館活動に対する評価報告書では、次のような評価を受けている。

~~~~~  
歴史博物館評価委員会 令和4年度評価報告書の概要  
~~~~~  
・企画展開催費をはじめとする予算削減や事務職員の削減など、厳しい環境を強いられる中、各項目において知恵と工夫で全般的によい成果を上げている。
・企画展予算が以前の4回分から2回分へと減少し、結果として館蔵品や近隣施設との連携による「テーマ展示」を企画展示室で開催して減少分を補っている。しかし限られた人員でできることには限界があり、いつまでこの状態を維持できるのか心配もある。
・コロナ禍も落ち着き、従来の多くの活動も復活し利用者数も昨年度よりは増加した。一方で懸念されるのは、令和2年度の観覧料徴収方法の変更以来、入館者が常設展か企画展のどちらかしか見ない現象が常態化しつつあることである。観覧料収入としては導入以前とほぼ同じというものの、とりわけ企画展の観覧者は10%ほど落ち込んだ。本県の歴史や民俗を伝える活動がなされているにもかかわらず、県民の目に触れる機会が減ったことは残念である。観覧料徴収方法の変更に伴って、展示という

博物館機能の中でも重要な活動が益々県民から遠ざかる現状は憂慮される。

- ・他方、館側には県民への更なる歩み寄りもあってよいかと思われる。本県の隠れた歴史や魅力を発掘し、それを平易な形で提示する努力を続けることによって、当館の活動の意義が県民にさらに伝わるのではないか。
- ・展示や講座などに対する現在のアンケート調査の方法については、再考の余地があるのではという意見が複数の評価委員から出された。

6 博物館の基本理念

(1) 基本的な考え方

- 博物館の目的は「新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与する」ことにある。

この目的をよりよく達成するためには、これまで記載した現状・評価等を踏まえ、全職員が「博物館は利用者満足が起点」であることを常に意識し、博物館の基本的活動である資料収集・保存、展示、調査・研究等を着実に進める必要がある。そしてその成果を広く還元すべく、より多くの県民にご来館いただき、あるいは様々な博物館活動に触れていただくための創意工夫に努めることが不可欠である。

- また、地域の関係機関から頼られる拠点施設としての活動を充実するとともに、地域文化を発信する観光拠点としても認知されることにより、多面的機能を有し、かつ、県内外及び国際的にも開かれた博物館としての地位を確立することが必要である。
- これらの取組を着実に推進し、厳しい財政状況の中にあっても、県民から理解され支持される存在として発展していく必要がある。

(2) 当博物館の基本理念

これらの基本的な考え方に基づき、博物館の基本理念を次のとおりとする。

○県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像*を県民とともに創造していきます。
 ○人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。
 こうした活動を通して
 『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

7 博物館活動の目標

この理念に基づいて活動を進めていくにあたっての成果指標として、博物館の利用者数、及び利用者の満足度を掲げる。

指 標

- 1 博物館利用者数
- 2 博物館利用者の満足度

指 標		現状値(令和4年度)		目 標
1 利用者数	①利用者総数 (文化振興ビジョン)	(単年度)	46,649 人	各指標を増加させる
		(前計画期間平均)	83,353 人	
	②観覧者数	(単年度)	39,836 人	
		(前計画期間平均)	47,239 人	

2 満足度 (単年度)	①来館者満足度	95%	各指標を維持・向上させる
	②企画展	91%	
	③講座等	講座・講演会 96% 体験コーナー 100%	
	④来館者対応	100%	

[各指標の数値について]

1-① 利用者総数

博物館が行う以下の活動・機能ごとの利用者を加算した数値

〔 常設展＋企画展＋講演会・講座＋体験コーナー＋その他イベント等＋
館外活動（出前講座・授業、移動・巡回展） 〕

1-② 観覧者数

常設展及び企画展のチケット販売数＋無料観覧者・視察者

2-①～④ 満足度 利用者・参加者等のアンケート回答に基づく

8 博物館の活動方針

上の目標と併せて、博物館の使命達成と基本理念の実現に向けた活動を行っていくため、当博物館が有する機能や主な取組分野ごとに以下のとおり活動方針を定める。

(1) 収集・保管

- ・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めると共に、そのデータ化を推し進める。
- ・良好な資料保存環境を維持する。

(2) 展示

◇ 常設展示

- ・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。
- ・常設展示の十分な活用を推し進める。

◇ 企画展示

- ・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。
- ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。

(3) 調査・研究

- ・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。
- ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。

(4) 教育・普及

◇ 学校教育

- ・学校教育に一層活用される博物館を目指す。
- ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。
- ・館内及び館外活動の充実を図る。

◇ 社会教育

- ・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。
- ・館内及び館外での活動の充実を図る。

(5) 連携

◇ 学術面の連携

- ・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。
- ・幅広い団体とのネットワークを強化する。

◇地域づくりに向けた連携

- ・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。
- ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。

(6) 情報発信

- ・当館の活動について、県民認知度を高める。
- ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。

(7) 管理運営

- ・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。
- ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。
- ・来館者への安全・安心の提供に努めるとともに、来館者などの関心や目線に常に注意を向ける。

9 活動方針に基づいた取組の実施・進捗管理

上記の活動方針の達成を目指した博物館活動が確実に行われるよう、取組分野ごとの今後5年間の「主な実現方策」、及び5年後の到達目標となる「評価指標」を定める。(別表)

また、各年度の具体的な取組については、今後の社会情勢の推移、県民や利用者のニーズの変化、現実の館運営体制などに応じたものとする必要があるため、本計画の「活動方針」・「主な実現方策」のもと、各年度において検討する。

こうした博物館活動の取組について、毎年度、館内での自己評価を行うとともに、評価委員会からの評価を受ける。これらを通じてPDCAサイクルによるマネジメントに取り組む。

活動の評価にあたっては、博物館の使命達成の観点から多面的に分析を行う。

10 更なる充実に向けての課題

当博物館が更なる充実した活動を行っていくには、上に掲げた活動方針の達成に併せて、次に記載するような課題に取り組んでいく必要がある。これらの課題は、外部要因に大きく依存するものや、博物館単独では解決が困難なものであるが、当館として可能な限りの進展を目指して取り組む。

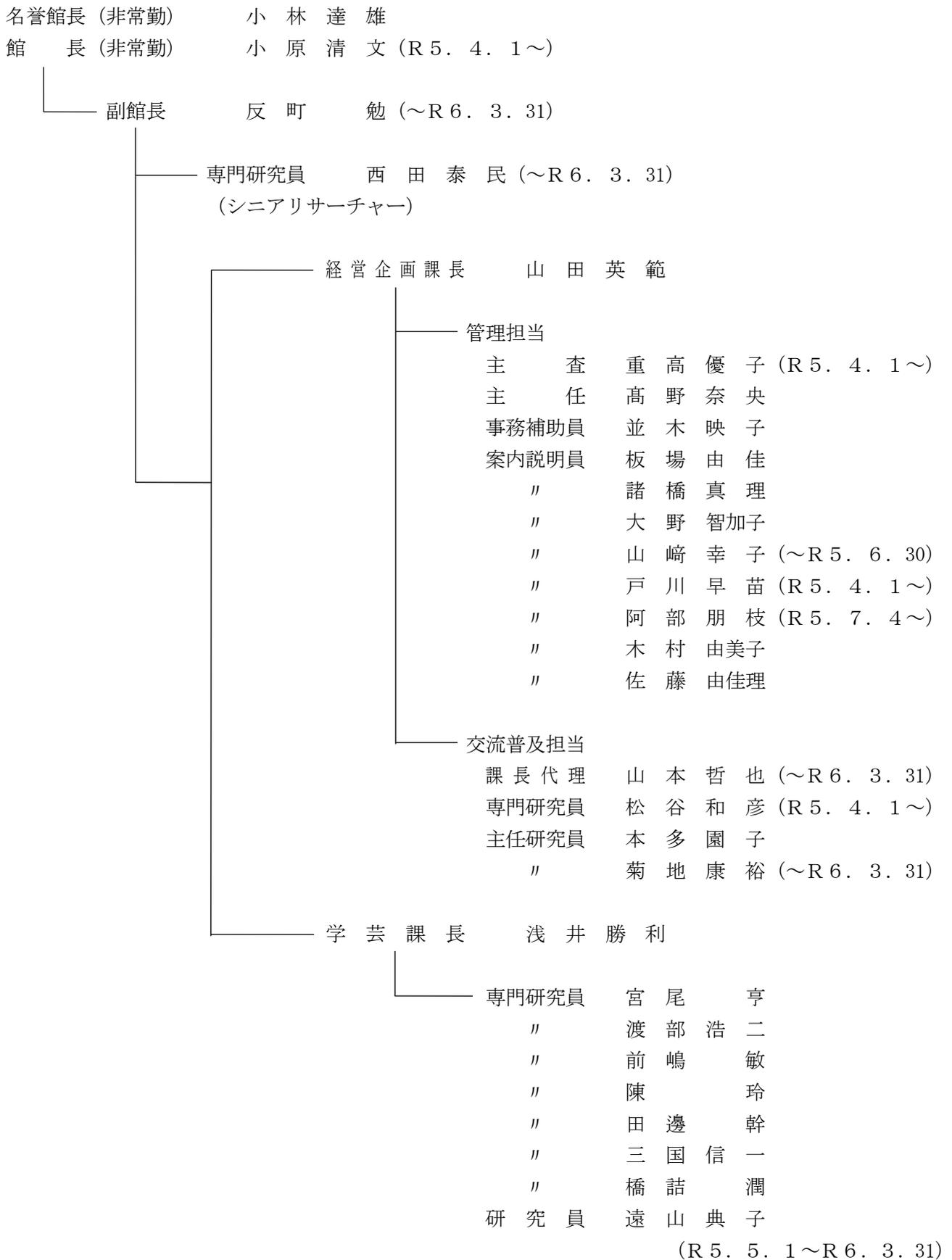
- ・博物館資料のデータベース化の推進
- ・施設・設備の大規模改修等による展示環境・資料収蔵環境の改善
- ・博物館の人事・組織体制の充実
- ・外部団体や支援者との協働推進
- ・来館者のサービス向上につながる取組の継続的な検討、実施
- ・SDGsの理念や背景を理解し、関連性を意識した館運営

新潟県立歴史博物館運営方針(令和5年度～令和9年度) 取組分野ごとの活動方針とその進捗管理

機能	取組分野	活動方針	主な実現方策	評価指標		
				項目	現状値 (R4)	目標値 (R9)
収集・保管	収集・保管	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 良好な資料保存環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 IPMによる環境管理を継続する。 	収集資料目録の刊行準備	1目録	1目録
				データベース公開数	112	300件以上
展示	常設展示	<ul style="list-style-type: none"> 設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 常設展示の十分な活用を推し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	新規展示試行回数		1件
				ワンポイント解説	676	500人
調査・研究	企画展示	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の反映や収集資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回程度の企画展の実施を目標とする。 入場者の満足度を高める。 	展示ジャンル数	3	3以上
				満足度	91%	90%以上
調査・研究	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 講座参加者の満足度を高める。 	外部研究費取得件数	12件(6)	6件
				学会発表等件数	15回	11回以上
教育・普及	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に一層活用される博物館を目指す。 新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 館内及び館外活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内小学校利用率 	論文等執筆件数	39件	55件以上
				体験活動の新プログラム導入件数	2件	1件以上
教育・普及	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 館内及び館外での活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育機関との連携に努める。 館内講座・出前講座を継続する。 ボランティアの受入の推進。 	体験コーナー参加者満足度	100%	90%
				出前講座の参加者満足度	93%	90%
連携	学術面の連携	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 幅広い団体とのネットワークを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 	館員の講座・講演会の参加者満足度	96%	90%
				ボランティアの活動延人数	258人	300人
連携	地域づくりに向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を通じた県内各地の地域づくり貢献する。 近隣の施設や様々な団体との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体との事業共催等による連携を模索する。 	地域史研究ネットワーク事業数	2件	2件以上
				地域団体の活動への参画件数	9件	15件
情報発信	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 当館の活動について、県民認知度を高める。 本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 県外客誘致のための広報に努める。 	新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数	211/110/200件	200/100/150件
				館ホームページへのアクセス件数	118,205件	100,000件
管理運営	管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 来館者への安全・安心の提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価・外部評価の実施。 評価結果の的確な反映によるPDCAサイクルの確立。 	全体収支比率	(3.5%)	(5%)
				(評価指標の達成率)	(65%)	(100%)

注1) 評価指標の目標値は、館活動に投入されている現在のリソース(予算・人員等)が、計画期間において維持されることを前提とする。
 注2) 活動の評価にあたっては、その内容面を含めて、博物館の使命に照らして多面的に分析を行う。

4 組織図



5 事務分掌（令和5年4月1日現在）

名誉館長 小林 達雄
 館長 小原 清文
 副館長 反町 勉
 専門研究員（シニアリサーチャー）
 （にぎわい創出担当） 西田 泰民

経営企画課

	事務分掌	主任	副任
1	課の総括に関する事	山田 課長	山本課長代理 松谷専門研究員
2	各課との連絡調整に関する事	〃	重高 主査 松谷専門研究員
3	人事・服務・一般研修に関する事	〃	高野 主任
4	公印の管理に関する事	〃	〃
5	課内会議に関する事	〃	松谷専門研究員
6	監査に関する事	〃	重高 主査
7	情報セキュリティに関する事	〃	高野 主任
8	館の防災・安全、避難訓練に関する事	〃	重高 主査
9	館運営に対する苦情処理に関する事	〃	高野 主任
10	臨時職員の採用に関する事	〃	〃
11	観光関連産業等との連携・広報宣伝・誘客促進等に関する事課の総括に関する事	〃	山本課長代理 松谷専門研究員

経営企画課 管理担当

	事務分掌	主任	副任
12	職員の勤務割作成に関する事	重高 主査	山田 課長
13	予算編成に関する事	〃	高野 主任
14	予算執行管理（施設・設備の維持管理を除く）に関する事	〃	〃
15	給与・報酬・報償費・旅費に関する事	〃	〃
16	事務用消耗品（切手管理を含む）の調達に関する事	〃	〃
17	科学研究費等外部資金の経理に関する事	〃	〃
18	文書管理に関する事（公文書管理システムを含む）	〃	〃
19	路線バス運行に関する事	〃	〃
20	観覧料等の減免に関する事	高野 主任	重高 主査
21	現金の出納・保管に関する事	〃	〃
22	案内説明員の研修に関する事	〃	〃
23	財産管理に関する事	〃	山田 課長
24	施設・設備の維持管理に関する事	〃	〃
25	収入（観覧料・図録販売収入・土地建物使用料等）に関する事	〃	重高 主査
26	観光券契約・精算徴収に関する事	〃	〃
27	観覧者統計に関する事	〃	〃
28	備品の管理に関する事	〃	〃
29	情報機器に関する事	〃	山田 課長
30	公用車の運行に関する事	〃	重高 主査
31	事務用消耗品の在庫管理に関する事	並木 職員	重高 主査
32	文書の收受、発送に関する事	〃	〃
33	拾得物の管理に関する事	〃	〃
34	救護室、授乳室、ロッカー室の日常点検、整理整頓に関する事	〃	高野 主任
35	収入（観覧料収入等）の財務会計入力に関する事	〃	〃
36	その他の事務補助に関する事	〃	〃
37	観覧券・図録の販売、集計に関する事	板場案内説明員	高野 主任
38	入館者の受付及び整理に関する事	諸橋案内説明員	松谷専門研究員
39	展示場における展示物等の説明及び監視に関する事展示物の操作及び	大野案内説明員	高野 主任
40	体験活動に関する事	山崎案内説明員	重高 主査
41	案内及び広報に関する事	戸川案内説明員	渡部専門研究員
42	その他博物館の展示場に関する事		

43	入館者の受付及び整理に関すること	木村案内説明員 佐藤案内説明員 阿部案内説明員	高野主任 松谷専門研究員 重高主査 渡部専門研究員
44	展示場における展示物等の説明及び監視に関すること		
45	展示物の操作及び体験活動に関すること		
46	収蔵資料の分類・整理に関すること		
47	その他の事務補助に関すること		

経営企画課 交流普及担当

	事務分掌	主任	副任
1	広報の総括に関すること	山本課長代理	松谷専門研究員 本多主任研究員
2	誘客促進の総括に関すること	〃	松谷専門研究員
3	博物館の支持・支援団体の育成に関すること	〃	重高主査
4	常設展示の利用・案内説明員研修に関すること	〃	松谷専門研究員
5	博物館協会（日本博物館協会、県博物館協議会、東北美術館会議等）等との連絡・調整に関すること	〃	菊地主任研究員
6	年報発行の計画・調整に関すること	〃	松谷専門研究員
7	他館、社会教育関係機関、団体等との連携・企画及び調整に関すること	〃	本多主任研究員
8	企画展における開場式に関すること	松谷専門研究員	山本課長代理
9	学校教育との連携・企画及び出前授業の計画・調整に関すること	〃	本多主任研究員 菊地主任研究員
10	ボランティアの受入れ及び育成に関すること	〃	菊地主任研究員 橋詰専門研究員
11	館内ガイド発行の計画・調整に関すること	〃	山本課長代理
12	刊行物の管理に関すること	菊地主任研究員	本多主任研究員
13	発送業務（企画展後援依頼を含む。）に関すること	〃	本多主任研究員
14	館内又は館外講座・教室等の企画及び調整に関すること	〃	松谷専門研究員
15	サイノカミ等地区活動に関すること	〃	山本課長代理
16	体験プログラムの運営に関すること	〃	本多主任研究員
17	教育プログラムの企画・開発に関すること	〃	山本課長代理 松谷専門研究員
18	Web情報発信（館ホームページ）に関すること	本多主任研究員 山本課長代理	松谷専門研究員
19	Web情報発信（SNS、メールニュース等）に関すること	本多主任研究員	松谷専門研究員 菊地主任研究員
20	企画展関連広報（マスコミ対応）に関すること	本多主任研究員	山田課長 菊地主任研究員
21	広報結果の集約に関すること	〃	松谷専門研究員
22	その他の情報発信（高校等）に関すること	〃	重高主査 山本課長代理 菊地主任研究員

学芸課

	事務分掌	主任	副任
1	課の総括に関すること	浅井課長	宮尾専門研究員
2	課の予算編成及び執行管理に関すること	〃	〃
3	館内の各課との連絡調整に関すること	〃	〃
4	課員の勤務割作成に関すること	〃	〃
5	リニューアルに関すること	西田専門研究員	前嶋専門研究員 山本課長代理 山田課長 高野主任
6	外部評価委員会に関すること	西田専門研究員	山本課長代理 松谷専門研究員 重高主査
7	資料収集（購入・寄託・寄贈）に関すること	三国専門研究員	田邊専門研究員
8	資料の整理及び保管に関すること	〃	〃
9	資料の貸借に関すること	〃	〃
10	資料保存環境に関すること	橋詰専門研究員	三国専門研究員
11	資料管理システムの管理・運用に関すること	宮尾専門研究員	〃

			浅井課長
12	写真・フィルム資料の整理及び保管に関すること	宮尾専門研究員	遠山職員
13	加入学会・共同図書購入に関すること	〃	〃
14	図書の整理及び保管に関すること	遠山職員	宮尾専門研究員
15	常設展示室に関すること	渡部専門研究員	宮尾専門研究員
16	常設展示ロビー・講堂研修室・映像情報コーナー・図書閲覧コーナーに関すること	〃	〃
17	常設展示室の展示替え計画に関すること	渡部専門研究員	陳専門研究員
18	常設展示室の活用に関すること	陳専門研究員	渡部専門研究員
19	個別研究・総合研究の調整に関すること	宮尾専門研究員	渡部専門研究員
20	研究活動評価に関すること	〃	〃
21	研究紀要の編集・刊行に関すること	橋詰専門研究員	〃
22	科研費等外部資金による研究事業に関すること	前嶋専門研究員	〃
23	新潟県地域史ネットワークに関すること	前嶋専門研究員	陳専門研究員
24	博物館実習の企画及び調整に関すること	〃	三国専門研究員
25	企画展・巡回展の開催計画に関すること	田邊専門研究員	橋詰専門研究員
26	企画展示室の運用と管理に関すること	〃	〃

企画展・テーマ展示担当

	事務分掌	主任	副任
27	【令和5年度】 (春・企画展) 伝える—災害の記憶	田邊専門研究員	三国専門研究員 菊池主任研究員
28	(夏・企画展) 上杉景勝その生涯	前嶋専門研究員	渡部専門研究員 本多主任研究員
29	(四県連携) 中央4県の地域交流—フォッサマグナがつなぐ先史時代の山の洲	橋詰専門研究員	宮尾専門研究員
30	(秋・テーマ展) 守れ!文化財—モノとヒトに光を灯す—	浅井課長	山本経企課長代理 宮尾専門研究員
31	(冬・テーマ展) 越後の木綿 いまむかし	陳専門研究員	三国専門研究員 遠山職員 松谷専門研究員
32	【令和6年度】 (春・企画展) 巡回展	田邊専門研究員	
33	(夏・企画展) 大佐渡	渡部専門研究員	前嶋専門研究員
34	(秋・テーマ展) ヒスイ・碧玉	橋詰専門研究員	宮尾専門研究員
35	(冬・テーマ展) 高志路90年	三国専門研究員	陳専門研究員 前嶋専門研究員

6 予算（令和5年度当初）

1 収入の部

（単位：千円）

項 目	金 額	備 考
事業収入	18,543	
歴史博物館維持管理費	183	
建物使用料	28	自動販売機建物使用料
雑入	155	自動販売機光熱水費
歴史博物館事業活動費	18,360	
歴史博物館使用料	17,692	観覧料
物品売払収入	668	図録等売払収入

2 支出の部

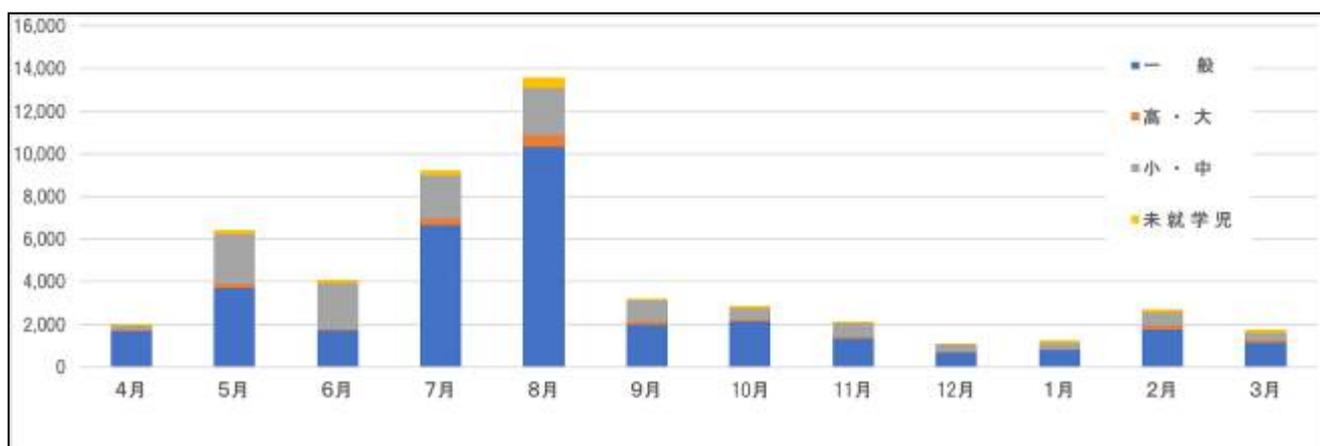
（単位：千円）

項 目（事業名）	金 額	備 考
歴史博物館事業費	167,536	
歴史博物館運営費	131,393	
人件費	21,968	館長・非常勤職員等給与費等
管理運営費	3,875	消耗品費・館リーフレット等印刷費・通信運搬費等
情報システム管理費	776	機器リース・保守料・消耗品費
維持管理費	96,799	施設設備保守管理委託・光熱水費等
資料保存管理費	7,381	資料くん蒸・環境調整
維持補修費	594	施設修繕費
歴史博物館事業活動費	33,772	
資料収集・保存事業	126	資料収集諸経費
調査研究事業	4,743	総合・個別調査研究費・基本文献整備費
常設展示事業	9,710	展示物展示替・保守点検費
企画展等展覧会開催費	19,193	企画展開催費（2回）・開催準備費
インバウンド対策充実事業	0	
歴史博物館交流普及事業費	2,371	
諸講座開催費	188	講師（謝金、旅費）・消耗品等
交流普及事業費	2,183	広告費・研究成果普及費等
歴史博物館施設設備整備費	6,961	電話設備更新

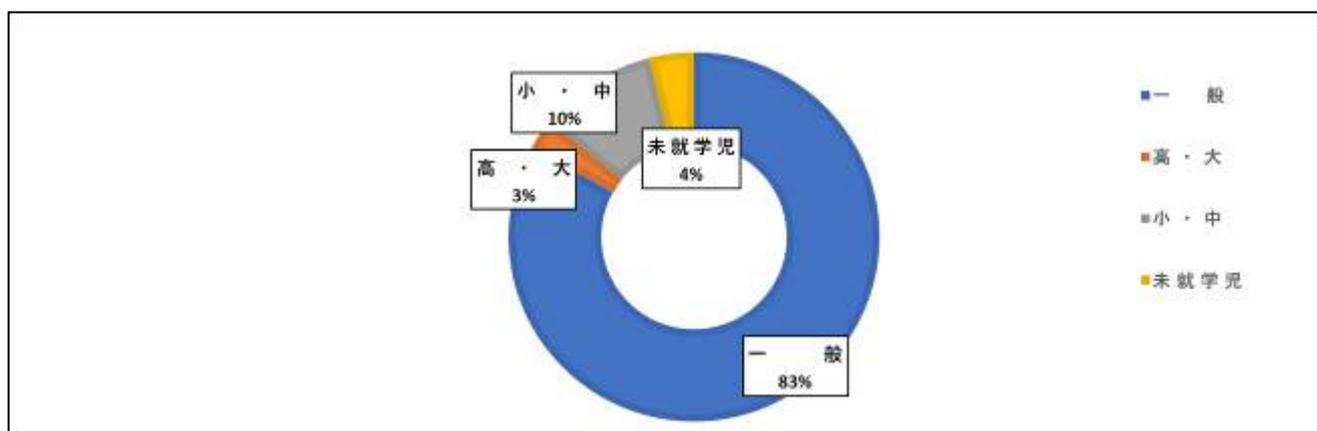
7 令和5年度観覧者の状況

(1) 月別・利用者別観覧者

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般	1,693	3,724	1,702	6,649	10,322	1,991	2,120	1,332	661	788	1,767	1,139	33,888
高・大	55	160	66	331	557	128	77	70	57	61	193	97	1,852
小・中	211	2,346	2,179	2,031	2,197	1,008	551	640	332	291	587	366	12,739
未就学児	80	204	127	198	526	100	127	103	45	102	169	163	1,944
合計	2,039	6,434	4,074	9,209	13,602	3,227	2,875	2,145	1,095	1,242	2,716	1,765	50,423



(2) 年間利用者別観覧者割合



(3) 企画展の状況

■ 春季企画展

「伝える—災害の記憶—」 4月22日(土)～6月4日(日) 観覧者数 3,915人 (103人/日)

■ 夏季企画展

「上杉景勝 その生涯」 7月15日(土)～8月27日(日) 観覧者数 11,865人 (304人/日)

■ 山の州(くに)文化財交流展

「中央日本4県 発掘が語る地域交流 —フォッサマグナがつなぐ新潟 長野 山梨 静岡—」

9月9日(土)～10月15日(日) 期間中総観覧者数 4,672人 (146人/日)

■秋季テーマ展示

「守れ！文化財～「障害」をめぐるモノとヒトに光を灯す～」

10月28日（土）～12月17日（日）観覧者数 1,670人（38人／日）

■冬季テーマ展示

「越後の木綿 いま むかし」 1月13日（土）～2月25日（日）観覧者数 2,156人（57人／日）

8 ボランティア

平成21年4月から募集、活動を開始した。令和5年度の登録数は34人。5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、活動を徐々に再開している。

【活動実績】（延べ人数）

- ・研修等（59人）
- ・展示替え、ケース移動（10人）
- ・民俗資料整理（72人）
- ・図書資料整理（57人）
- ・考古資料整理（19人）
- ・講座受付（75人）
- ・体験活動補助（80人）
- ・アンケート調査補助（3人）
- ・文書発送作業（26人）
- ・防災訓練参加（2人）
- ・案内監視業務（37人）

また、毎年夏に実施している中学生ボランティアは、応募がなかったため実施しなかった。

9 情報管理システム

クラウドによる資料管理システムでは、当館の資料管理方法に合致させるためにカスタマイズを行い、従来のシステムで作成したデータを登録した。同システムでは、インターネット上に情報を公開する機能が備えられているため、これを利用して収蔵資料検索サービスをホームページ上に設置した。

10 ホームページ

館の公式Webサイトについては、従来は館内にWebサーバを設置して公開していたが、外部にレンタルサーバを借り、ドメインについては、既に各所で周知されていることなどを考慮しこれまでと同じものを引き続き使用することとした。平成25年度にホームページをリニューアルしている。

令和5年度のアクセス数の多いコンテンツは、1企画展示、2ご利用案内、3館内のご案内、4常設展示、5歴史博物館とは、などとなっている。

令和5年度ホームページのアクセス集計

令和5年度	訪問数	ユーザー数	閲覧者 1日平均
2023年4月	10,076	8,055	269
2023年5月	12,264	9,606	310
2023年6月	14,435	11,095	370
2023年7月	15,974	16,362	528
2023年8月	13,655	14,258	460
2023年9月	7,480	7,955	265
2023年10月	6,505	7,715	249
2023年11月	6,163	7,277	243
2023年12月	4,953	5,890	190

2024年1月	6,080	7,131	230
2024年2月	6,001	6,860	237
2024年3月	7,039	6,469	209
計	110,625	108,673	296.5

11 メールニュース・SNS

平成12年度より、インターネットのメールシステムを利用して希望者に館の情報などを提供するメールニュースを送付している。現在、メールニュースの登録アドレス数は152件であり、令和5年度中に送信したメール数は18(+1)件であった。(※()は前年度比、以下同じ)

また平成26年度から公式Facebook、平成27年度から公式Twitterを開設。さらに、平成29年11月の試験運用を経て、平成30年3月からInstagramの本運用を開始した。令和5年度の投稿件数は、Facebookが430(+13)件、X(旧Twitter)が453(-41)件、Instagramが424(+9)件である。

令和2年度から広報担当(専任)が削減され、研究員の兼任により運営せざるを得なくなったが、1日平均1回は投稿し、定期的な情報配信に努めている。

12 評価委員会

令和5年度内においては、令和4年度の評価報告書作成の作業と提出、令和5年度の中途段階までの評価が実施された。

委員会構成は以下のとおり

(令和4年度評価)

- ・委員長 田中咲子氏(新潟大学教育学部 准教授)
- ・副委員長 山本未知雄氏(南魚沼市立中之島小学校 校長)
- ・委員 内藤一恵氏(内藤一恵建築設計事務所)
- ・委員 大塚清一郎氏(新潟日報 長岡支社長)
- ・委員 金山宏行氏((一社)長岡観光コンベンション協会 会長)
- ・委員 湯浅健次郎氏(新潟市會津八一記念館 学芸員)

(令和5年度評価)

- ・委員長 宍戸邦久氏(新潟大学副学長)
- ・副委員長 山本未知雄氏(南魚沼市立中之島小学校 校長)
- ・委員 内藤一恵氏(内藤一恵建築設計事務所)
- ・委員 小林啓之氏(新潟日報 長岡支社長)
- ・委員 金山宏行氏((一社)長岡観光コンベンション協会 会長)
- ・委員 湯浅健次郎氏(新潟市會津八一記念館 学芸員)

※下線は交代があった委員(令和5年11月から)

開催した評価委員会、検討会は以下のとおりである。

- 6月12日(月) 令和4年度第2回評価委員会
内容: 令和4年度評価について
- 7月24日(月) 令和4年度第2回検討会
内容: 令和4年度評価報告書について
- 12月26日(火) 令和5年度第1回評価委員会

- 内容：令和5年度評価委員会スケジュールについて、
令和5年度事業中間報告について
- 3月6日（水） 令和5年度第1回検討会
内容：令和5年度自己評価（中間）について

なお、9月21日（木）、県庁において、田中咲子委員長より観光文化スポーツ部長、文化課長および歴史博物館長に「令和4年度における館の自己点検に対する二次点検評価報告書」が提出された。

13 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応

新型コロナウイルス感染症は、令和5年度においては徐々に各種制限緩和が認められるようになったものの、引き続き感染症対策を行いつつ、活動を行った。ただし、5月8日に同感染症が「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」へと変更になり、それまでの企画展示室の人数制限、事業の規模縮小等の措置を基本的に廃止した。

ただし、以下の内容については新型コロナウイルス感染症以降の状態を継続した。

【継続の内容】

- ・ エントランス等に手指消毒機を設置。
- ・ 学校団体の受け入れは、基本として1クラス20人以上を超える場合、2グループに分けるなどの方策を採った。ただし「雪とくらし」コーナーは15人以上を超える場合とした（コロナ禍当初からの継続実施＝大人数より教育効果が高い方式として認めた故の今後の方針とした）。
- ・ 体験プログラムは、原則日曜日の13:30～15:30（15:00受付終了）の実施とした（他事業への重点化などによる措置）。

II 事業概要

1 学芸事業概要

(1) 常設展示

ア 事業主旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するため、これらについての展示を行う施設を公開して維持・管理すると共に、新たな知識の増進と資料の保護を目的として、展示更新・展示替えを随時行う。常設展示を維持・管理すると共に、資料の保護を主目的として、資料展示替えを行う。

イ 展示構成

常設展示は、歴史展示と縄文展示から構成されている。前者には「新潟県のあゆみ」「雪と暮らし」「米づくり」、後者には「縄文人の世界」「縄文文化を探る」の各展示室がある。

① 新潟県のあゆみ

古い時代から新しい時代へと時間に沿って、より良い未来をめざして努力した、新潟県の先人たちの姿を紹介する。以下の8つの項目で展示を展開している。

新潟のあけぼの	移動生活から定住へ
	米作りのはじまりと権力者の登場
古代の新潟	文字によるまつりごと
古代・中世の文化ステージ	(原則半年1回展示替)
中世の新潟	中世の新潟
	地頭と荘園
	戦国大名上杉謙信
近世の新潟	近世の越後と佐渡
近世・近現代の産物	交流する産物
	越後・佐渡産物くらべ
	現代に生きる越後・佐渡の産物
近世・近現代の人物	良寛と牧之
	新潟県が生んだ人々
近現代の新潟	近代の新潟
	新潟県的女性
	交通網の整備と大河津分水工事
	花開く文化
	戦争と県民
	地主王国新潟県
	新潟、今・未来

② 雪と暮らし

「自然との共生と克服」を視点に、雪による多大な影響を受けつつも、除雪方法・衣食住に独特の工夫をし、よりよい暮らしを確保しようと努力を続けた先人たちの姿を紹介する。1階部では、昭和30年代初頭の冬の高田（現上越市）の雁木通りと、荒物・雑貨屋と一文店、下駄屋の3軒の商店を復元している。2階部では、雪国の工夫を凝らした民具などを中心に、暮らしの様子を紹介している。

プロローグ	雪国へのいざない
雪国の町 高田の雁木通り	荒物・雑貨屋
	一文店
	下駄屋
雪国のくらし	町のくらし
	雪と民具
	雪国 点描
豪雪の姿	豪雪の町・村
	36・38 豪雪記録
雪国は今	冬の交通革新
	雪は邪魔？
エピローグ	昔の雪国と現代の雪国

③ 米づくり

「雪とくらし」展示室と同様に、「自然との共生と克服」を視点に、本来米作りに適さなかった自然条件を克服し、また1年を通して自然との共生を図りながら全国有数の米どころを実現させた人々の努力の様子を紹介している。

プロローグ	越後平野とはさ木
土づくりの努力	西蒲原三潟水抜き
	江戸時代の新田開発
	美田の誕生
協力と工夫の米づくり	米づくりの1年と祈り
	描かれた米づくり
	品種の改良
	米づくりとその周辺
	米づくりの道具
エピローグ	世界の食事風景

④ 縄文展示

世界的にも稀な、豊かな食料採集経済を営んでいた縄文人の暮らしについて、全国的・世界的な視野から紹介する。2つの展示室から構成される。「縄文人の世界」では、縄文人が四季の移り変わりに対応して、さまざまな技術を開発しながら暮らしていた様子を、実物大で復元、再現している。「縄文文化を探る」では、最新の考古学研究成果に基づき、実物資料などを用いながら縄文人の実像、その暮らしを紹介する。

プロローグ	縄文土器の文様世界
縄文人の世界	聖なる空間：竪穴住居
	冬の狩り
	春の採集
	夏の海
	秋の広場
縄文文化を探る	研究室へようこそ
	人とももの交流
	縄文工芸
	縄文人の住宅事情
	縄文人の食生活

	縄文の祈り
	火焰土器の世界
	縄文時代の人々
	縄文人の一生
	新潟県の遺跡
エピソード	自然との共生

ウ 音声解説器・ろう者用ガイド冊子

常設展示の観覧に供する音声解説器を用意し、無料で貸し出している。開館当初の総数 300 台。日本語・英語・ロシア語・中国語・韓国語の 5 カ国語があり、日本語は全台数で対応、英語・ロシア語は 180 台（A タイプ）、中国語・韓国語は 120 台（B タイプ）が対応。

令和 5 年度の音声解説器貸出件数は、4,356 件（個人利用 3,947 件、団体利用 409 件）、観覧者数 50,423 人中約 8.6%の利用率であった。

また、音声解説器の利用が困難な、ろう者を主な対象とする冊子『《音声解説器・映像の音声などを文字で読む》新潟県立歴史博物館常設展示 展示解説』を平成 25 年度末に作成（150 冊）。無料で貸し出している。令和 5 年度の貸出は 0 件であった。

エ 常設展解説アプリ「新潟レキハク」

来館者個人のスマートフォン（Android、iOS）で常設展示解説が可能になるアプリ、「新潟レキハク」を整備し令和 2 年 4 月から運用を開始した。

貸し出しを行っている音声解説器と内容は同じで、来館者の位置に応じて、音声に加え、テキストと写真が画面に表示される。

また、従来の日本語、中国語、韓国語、英語、ロシア語に加えて、スペイン語の解説を追加した。

オ 常設展示の保守点検・補修

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するに足る正確性や美観等を維持し、来館者の安全を確保するため、常設展示室（常設展示ロビー、講堂、映像情報コーナーを含む）の保守点検・軽微補修、音声解説器や照明機器の補修・補充等を行っている。

常設展示室は、来館者が展示物と至近で接触できるように設計され、展示内容を体感できることを特色としている。そのため、露出展示や通路を兼ねた実物大環境復元展示などが多数あり、消耗と破損が不可避となっている。

令和 5 年度は、7 月、2 月に総合的な点検を行い、露出展示や通路を兼ねた実物大環境復元展示などの清掃及び軽微補修を実施し、展示効果の維持と安全の確保を達成した。照明器具については、月 2 回、定期的に点検し、機器の故障や消耗に対応した。

また、縄文展示「縄文人の世界」入口のレリーフ部分の一部剥離が平成 29 年度に確認されたため、打音検査を引き続き行うとともに、接着補修を行った。

なお、音声解説器の交換部品が入手困難となり、今後故障機器の修繕は不可能になった。現在使用可能台数は A タイプ 143 台、B タイプ 100 台である。今後も使用台数が減少する可能性がある。

カ 資料展示替え

博物館の基本的機能である資料保存の観点から、年 2 回（上半期：4～9 月・下半期：10～3 月）の定期的な資料展示替えを行っている。特に展示環境の影響で劣化の進む可能性のある文書や絵画などの資料を中心に、常設展示の構成を変更しない範囲で資料展示替えを行っている。なお、文書や絵画などの資料展示では、照度環境 150lx 以下に設定し、適正な温湿度にケース内が保たれるように調整している。

令和 5 年度は、以下のコーナーで展示替えを行った。

① 新潟県のあゆみ

a 「古代の新潟」

「文字によるまつりごと」を、上半期は江向遺跡（上越市）出土銅印（複製）などで、下半期は下ノ西遺跡（長岡市）出土木簡（複製）などで構成した。

b 「古代・中世の文化・交流」

「柿崎古墓」（剥取／上越市教育委員会寄託）の他に、上半期には日蓮書状やべしみ面（いずれも実物）を、下半期には日蓮書状（複製）、一遍上人絵伝（複製）を展示した。

c 「中世の新潟」

「戦国大名上杉謙信」を、紀州本川中島合戦図屏風（複製）と上杉謙信画像（複製）などで構成し、上半期・下半期とも入れ替えた。また、上半期には信州川中島合戦記（実物）、下半期には直江状（実物）などを展示した。

d 「近世・近現代の人物・産物」

産物の展示では、佐渡金銀山絵巻（実物）の場面変更や村上木彫堆朱（実物）の入れ替えを行った。また、人物の展示では「良寛・牧之」に関して、解説グラフィックを含む展示資料を上半期と下半期に変更した。「海外を見る眼」では、上半期・下半期で北夷談（複製）や新訂坤輿略全図（実物）などの資料を入れ替えた。

e 「近現代の新潟」

北越戊辰戦争関連資料（複製）、銀行券（複製）、小作争議と農民運動関連資料（複製）、満州関連資料（実物）などを上半期・下半期とも入れ替えた。

② 雪とくらし

「雪国のくらし」では、スキー資料（実物）の入れ替えを行った。

③ 米づくり

「描かれた米づくり」では、上半期4～6月に四季耕作図屏風（実物）と農耕欄間絵（複製）を展示し、7～9月にも四季耕作図屏風（実物）の入れ替えなどを行った。下半期には四季耕作図屏風（複製）と四季耕作図絵馬（複製）を展示した。「米づくりとその周辺」では、下半期に越後平野の低湿地で利用されたキツオブネや田ゾリなどの資料（いずれも実物）を展示した。

④ 縄文文化を探る

「新潟県の遺跡」では、令和4年度に実施したヒスイ「県の石」指定記念ミニ展示の一部を継続し、ヒスイの展示を行った（いずれも実物）。

⑤ 常設展示替における資料の交換点数

令和4年度年間交換資料点数	67点
うち、新規展示資料点数	0点

キ 常設展示ロビー

常設展示室の中央に位置し、ここを基点にして「新潟県のあゆみ」「雪とくらし」「米づくり」「縄文人の世界」の4つの展示室に入ることができる。なお、平成17年度より青田遺跡出土の丸木舟（実物）を展示している。

また、上部には大型の特殊照明（ロビー映像）があり、4面の大スクリーンで縄文時代をイメージした映像ソフト等を上映している。ただし、令和2年度以降、機器の故障のため上映中止となった。

ク 映像情報コーナー

映像ライブラリー、デジタル博物館、情報検索サービスから構成される。ただし、令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、9月8日まで使用を中止していたが、それ以降は利用を再開した。

① 映像ライブラリー

2台あったDVDが、平成28年度より機器の故障により1台となっていたが、令和元年度に新機器にした。以下の映像情報を選んで見ることができる。

- a ふるさとの芸能
- b ふるさとの行事
- c ふるさとの昔話
- d 伝統の技
- e 縄文文化
- f 中越・中越沖地震
- g 展覧会

② デジタル博物館

5台のパソコンで縄文・雪・米に関わるソフトを見ることができる。

- a 発見！縄文ワールド
- b 雪国くらし体験
- c なんでも米蔵

③ 情報検索サービス

平成28年度より、新規の館収蔵資料検索用パソコン1台を導入し、操作性が向上した。これにともない従来の「新潟県の文化財」、「県内外の遺跡」の検索は廃止した。

ケ 講堂映像

以下の3本の映像を講堂で上映している。令和3年度以降通年利用可としているが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、換気時間確保のため利用があった後1時間の利用中止時間を設けて運用した。

① 「新潟県の歴史」

原始から現代にいたる新潟県のあゆみを、CGを交えた映像で紹介。 (上映時間約25分)

② 「ジオラマ縄文人の世界ができるまで」

新潟県立歴史博物館の縄文時代に関わる展示製作がどのように進められたのかをドキュメンタリー風に紹介。 (上映時間約22分)

③ 「奥三面 縄文の暮らし」

新潟県立歴史博物館縄文展示の製作に多くの指針を与えてくれた奥三面遺跡群。遺跡の様子とともに、奥三面に生きる人々の姿、豊かな自然を紹介。 (上映時間約23分)

上記3本の映像は定期上映を行っていたが、平成20年度より申し込み制に変更し、令和5年度は①「新潟県の歴史」65人、②「ジオラマ縄文人の世界ができるまで」53人、③「奥三面 縄文の暮らし」41人、延べ159人の観覧があった。

コ 常設展ワンポイント解説

常設展示室という「場」を活用し、その展示資料をきっかけに、研究員の調査研究活動による専門的知識・最新の情報をわかりやすく公開しながら、来館者との交流や新たな発見を引き出すとともに、来館者のニーズを把握して今後の展示運営に生かすために実施している(毎週土・日曜日の午後1時から)。平成28年度からは、中学生ボランティア活動及びサイノカミ活動重視の博物館としての姿勢を示すため、それぞれの活動日の解説は休止することとした。

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から実施時間を15分以内に制限し、参加者の連絡先の提出を原則としていたが、令和4年9月中旬から連絡先の提出を中止した。また令和5年5月から実施時間を従来の15分～30分程度に戻した。5月14日は、講演会開催のため休止とした。

以上のもと、令和5年度は102回実施した。参加者数は743人(平均7.3人)。

【ゲスト解説】

平成27年度より、常設展示ワンポイント解説において、他館からの学芸員など専門家によるゲスト解説を導入した。これは、利用者の興味をさらに惹く方策としての性格を与えるとともに、他館の学芸員などによる解説で、より多くの専門的知識が公開され利用者の便に資するものである。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から休止していたが、令和5年度から再開した。(詳細は以下の一覧参照)

実施日	担当	場 所		タイトル	人数
4月1日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世の新潟	高田城址公園と桜	4
4月2日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	上杉謙信の肖像画	6
4月8日(土)	山本	縄文人の世界	入口	縄文人の世界をめぐる(冬・春編)	11
4月9日(日)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代のバスケット	5
4月15日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	古代の私印	3
4月16日(日)	三国	縄文人の世界	入口	熊狩りにまつわる儀礼	8
4月22日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	ヒスイ	6
4月23日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	佐渡金銀山の産金量	9
4月29日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	四季耕作図屏風	5
4月30日(日)	橋詰	縄文人の世界	入口	縄文の常設展示で自然観察:冬と春	7
5月6日(土)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代の食糧事情	6
5月7日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	紺緋羅紗袖替陣羽織	5
5月13日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	新潟のあけぼの	長岡市内の古墳について	5
5月14日(日)	休止			講演会開催のため休止	
5月20日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近現代の新潟	朝日山の戦い	8
5月21日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	江戸時代の越後の石油	10
5月22日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近代の人物	江戸時代の刷り物文化	4
5月27日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	四季耕作図屏風②	15
5月28日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	火焰土器	5
6月3日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	新潟のあけぼの	新発見の古墳について	6
6月4日(日)	橋詰	縄文文化を探る	入口	縄文時代の狩りの道具	8
6月10日(土)	遠山	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	『武士の娘』一日米のかけはしー	11
6月11日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	磨製石斧	8
6月17日(土)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	菖蒲叩き	5
6月18日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世の新潟	正保越後国絵図	4
6月24日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	四季耕作図屏風③	2
6月25日(日)	山本	縄文人の世界	入口	縄文人の世界をめぐる(夏・秋編)	2
7月1日(土)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代の人々と動物	6
7月2日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	埋葬	9
7月8日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	行基開湯という温泉について	4
7月9日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	民俗文化財とは何か	6
7月15日(土)	渡部	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	越後・佐渡の塩づくり	6
7月16日(日)	田邊	米づくり	土づくりの努力	三潟水抜工事地主起請文	8
7月22日(土)	山本	縄文文化を探る	入口	土偶を読む	3
7月23日(日)	橋詰	縄文文化を探る	入口	常設展示で見る縄文関連世界遺産	11
7月29日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	『越後土産』を読み解く	6
7月30日(日)	遠山	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	小山正太郎の父、小山良運	7
8月5日(土)	ゲスト 1	米づくり	土づくりの努力	新潟県の水稲品種開発と優良品種あれこれ	20
8月6日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	上杉景勝と景虎	20
8月12日(土)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代の数と尺度	11
8月13日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	米づくりとその周辺	境界の祭祀とお札	3
8月19日(土)	渡部	雪とくらし	入口	高田の雁木通り	6
8月20日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	江戸時代の雪国	11
8月26日(土)	山本	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	戦災復興と博覧会	9
8月27日(土)	遠山	雪とくらし	雪中のくらしと民具	越後と雪	10
9月2日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	松田伝十郎の『北夷談』	4
9月3日(日)	山本	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	寺泊水族館の謎	4
9月9日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	六郷あいつてなんでしょう?	12
9月10日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	神仏に供えるススキ	3
9月16日(土)	渡部	新潟県のあゆみ	近世の新潟	椎谷藩	12

実施日	担当	場 所		タイトル	人数
9月17日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	越後享禄・天文の乱	3
9月23日(土)	宮尾	企画展示室	入口	発掘が語る地域交流	10
9月24日(日)	ゲスト 2	企画展示室	入口	発掘が語る地域交流	23
9月30日(土)	橋詰	企画展示室	入口	発掘が語る地域交流	12
10月1日(日)	ゲスト 3	企画展示室	入口	発掘が語る地域交流	12
10月7日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代・中世の文化・交流	柿崎古墓について	5
10月8日(日)	ゲスト 4	企画展示室	入口	発掘が語る地域交流	32
10月14日(土)	ゲスト 5	企画展示室	入口	発掘が語る地域交流	18
10月15日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	山口賢俊と民具コレクション	2
10月21日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近代の人物	新訂坤輿略全図	5
10月22日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	アクセサリーになった新潟の石	3
10月28日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	低湿地の稲刈り	8
10月29日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	直江状	4
11月4日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	下ノ西遺跡の絵画板	4
11月5日(日)	宮尾	縄文文化を探る	出口	縄文時代の装身具	2
11月11日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近代の人物	私塾・長善館	6
11月12日(日)	ゲスト 解説	企画展示室	入口	守れ！文化財～「障害」をめぐるモノとヒトに光を灯す	24
11月18日(土)	遠山	新潟県のあゆみ	近世・近代の人物	「米百俵」～戯曲と史実をめぐる～	3
11月19日(日)	山本	企画展示室	入口	「障害」をめぐるモノとヒトについて	7
11月25日(土)	陳	米づくり	協力と工夫の米づくり	「農耕絵巻」に描かれている「深田」について	6
11月26日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	大師講	2
12月2日(土)	遠山	新潟県のあゆみ	近世・近代の人物	「米百俵②」・小林虎三郎の生涯とその思想	5
12月3日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	大黒様の嫁取り	4
12月9日(土)	西田	縄文文化を探る	出口	縄文時代の食べ物を探る	6
12月10日(日)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	上杉謙信奉納願文(複製)	2
12月16日(土)	陳	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	越後の綿織物	10
12月17日(日)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	儼祭と佐渡	6
12月23日(土)	橋詰	縄文人の世界	入口	ウサギ：今年の干支をふりかえる	4
12月24日(日)	渡部	新潟県のあゆみ	近世の新潟	越後の上之山藩領	2
1月6日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	上杉謙信と毘・龍	3
1月7日(日)	遠山	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	「米百俵」パート3～米百俵前史・長岡の教育	6
1月13日(土)	陳	企画展示室	入口	越後の木綿 いま むかし	8
1月14日(日)	休止			サイノカミのため休止	
1月20日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	大河津分水と新潟県の鉄道	3
1月21日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	民具の収集保管に関する課題	6
1月27日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	佐渡国分寺	5
1月28日(日)	宮尾	縄文人の世界	入口	冬の暮らし	5
2月3日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	古代・中世の文化・交流	一遍上人絵伝	8
2月4日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	石製のアクセサリーと日本人	7
2月10日(土)	山本	新潟県のあゆみ	近世・近代の人物	高田盲学校に所在した英国点字資料	6
2月11日(日)	遠山	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	三島億二郎の浦賀探索～ペリー来航と長岡～	9
2月17日(土)	田邊	新潟県のあゆみ	近代・現代の新潟	草莽隊その後	3
2月18日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	佐渡の春祈祷	3
2月24日(土)	西田	縄文人の世界	入口	縄文時代の海の幸	10
2月25日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	火焰土器の世界	4
3月2日(土)	浅井	新潟県のあゆみ	古代の新潟	役人の服の色	4
3月3日(日)	田邊	新潟県のあゆみ	近世・近現代の産物	お金荷の輸送と江戸時代の交通	8
3月9日(土)	渡部	新潟県のあゆみ	近世の新潟	佐渡羽茂の稲こき	3
3月10日(日)	橋詰	縄文文化を探る	出口	縄文グッズになった出土品	10
3月16日(土)	宮尾	縄文文化を探る	出口	葬送儀礼と四季	5
3月17日(日)	三国	米づくり	協力と工夫の米づくり	鎧潟周辺集落の生産暦	3
3月23日(土)	前嶋	新潟県のあゆみ	中世の新潟	源頼朝地頭補任状と中条氏	5
3月24日(日)	遠山	新潟県のあゆみ	近世・近現代の人物	會津八一と奈良	7
3月30日(土)	西田	縄文人の世界	入口	縄文ジオラマと小林達雄名誉館長	12
3月31日(日)	山本	新潟県のあゆみ	入口	ユニバーサル・ミュージアム	11

ゲスト1 新潟県農業総合研究所・岩津雅和氏

ゲスト2 新潟県文化課・渡邊裕之氏

ゲスト3 新潟県文化課・小野本 敦氏

ゲスト4 新潟県文化課・荒木清花氏

ゲスト5 新潟県文化課・平山千尋氏

(2) 企画展示

ア 事業趣旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するために、研究員による調査研究活動に基づく成果等をあらゆる企画展を開催している。また、リピーターを含め多数の人々に来館してもらうため、魅力ある展覧会等を積極的、継続的に開催している。

イ 主催事業

主催事業には、当館の企画による自主企画、他機関と共同で企画し主催する共同企画、及び他機関が企画する巡回企画がある。令和5年度は以下のとおり行った。

① 春季企画展 「伝える一災害の記憶 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料」巡回企画

会 期：4月22日(土)～6月4日(日) 38日間

主 催：新潟県立歴史博物館、新潟日報社、NST新潟総合テレビ

企画制作：NHK財団

特別協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

観覧者数：3,915人

内 容：同和火災（現あいおいニッセイ同和損保）の廣瀬鉞太郎氏が収集した1400点余りの災害資料は、18世紀から20世紀初頭に日本全国で発生した各種災害をほぼ網羅しており、これらの人々の揺れ動く感情や、それを乗り越えて後世に被害を伝えようとする姿勢は、災害・疫病の続く社会を生きる現在の私たちと驚くほど重なっている。本展ではその様子を、あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料のうち約140点の資料から紹介。あわせて近世期に新潟県域で発生した災害に関する資料も紹介した。

関連事業：講演会 「災害と刷り物」

講師：矢田俊文氏（新潟大学名誉教授）

日時：5月21日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：37人



② 夏季企画展 NST 開局 55 周年 「上杉景勝没後 400 年 上杉景勝 その生涯」

会 期：7月15日(土)～8月27日(日) 39日間

主 催：新潟県立歴史博物館、上杉景勝展実行委員会、NST新潟総合テレビ、新潟日報社

観覧者数：11,865人

内 容：戦国時代末期に越後・佐渡の統一を成し遂げた上杉景勝は、弘治元年（1555）に現在の南魚

沼市に生まれた。養父謙信が没したのち、同じく養子だった景虎との争いの末、後継の座につき、天正14年(1586)には上洛して豊臣秀吉に臣従し、全国に名だたる大名へと成長しますが、関ヶ原合戦の結果として米沢へ移った。越後の戦国時代を語る上で、上杉景勝とその側近である直江兼続は欠かすことのできない存在といえる。2023年は景勝の没後400年にあたり、本展では景勝ゆかりの文化財から、その足跡を紹介した。

関連事業：講演会 「豊臣期上方における上杉家の人々」

講師：片桐昭彦氏（新潟大学人文学部准教授）

日時：8月20日(日) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：131人

講座「上杉家伝来資料について」

講師：前嶋敏（当館専門研究員）

日時：7月22日(土) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：74人

夏休みスペシャルイベント「ミッション中!!2023」

期日：7月15日(土)～8月27日(日)

会場：常設展示室・企画展示室

参加者数：1,651人（コンプリート数＝記念品数）

家族DE わいわいミュージアム（武将隊イベント）

期日：8月1日(火) 13:00～15:00

会場：常設展示ロビー

参加者数：60人



ウ テーマ展示

令和元年度より、「拡大常設展」という位置づけによって企画展示室を活用した展覧会活動を行っている。令和5年度は以下の3件実施。

- ① 山の洲(くに)文化財交流展「発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ新潟 長野 山梨 静岡」
会 期：9月9日(土)～10月15日(日) 32日間
期間中常設展示総観覧者数：4,672人
主 催：静岡県、山梨県、長野県、新潟県
共 催：信濃川火焰街道連携協議会
内 容：日本列島の中央に位置し、フォッサマグナや糸魚川 - 静岡構造線で地理的につながる新潟、

長野、山梨、静岡の4県は、中央日本4県サミット開催にあたって、文化交流事業を進めている。本展では、旧石器時代から古墳時代にわたる各県選りすぐりの埋蔵文化財を通じて、3万年以上にわたって続く4県の交流を紹介した。あわせて交流をものがたる文化財の代表格として、令和4年に新潟県の「県の石」に指定された翡翠（ヒスイ）を大きく取り上げ、その歴史的経緯・文化的価値を県内外に発信した。

関連事業：講演会「縄文時代の地域交流」

講師：水之江和同氏（同志社大学教授）

日時：9月24日（日） 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：99人



② 秋季テーマ展示「守れ!文化財～「障害」をめぐるモノとヒトに光を灯す～」

会 期：10月28日（土）～12月17日（日） 44日間

主 催：「守れ!文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会

期間中常設展示総観覧者数：1,670人

内 容：全国の障害に関わる歴史資料について、「モノ」と「ヒト」に焦点をあて展示した。特に、博物館外に存在する資料群の保存のために、「障害」の当事者や当事者団体だけでなく、社会的な認知を広めることを目的とし、「障害者」の歴史ではなく、「障害」とどのように向き合ってきたのかというテーマで、「障害」があらゆる地域や組織、個人にとって関係があることを示した。

関連事業：記念講演会「盲教育資料はどう活かされてきたか、そして今後は？」

講師：岸博実氏（日本盲教育史研究会事務局長）

日時：11月11日（土） 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：25人

講演会「聴導犬と共に生きる」

講師：安藤美紀氏、安藤一成氏（NPO法人MAMIE）

日時：11月12日（日） 13:30～15:00

参加者数：46人

関連イベント「ほじょ犬のひろばinながおか」

講師：日本盲導犬協会、日本介助犬協会

日時：11月12日（日）

会場：企画展示ロビー

参加者数：64人



③ 冬季テーマ展示「越後の木綿 いまむかし」

会 期：1月13日(土)～2月25日(日) 38日間

期間中常設展示総観覧者数：3,629人（テーマ展のみ観覧者数：2,156人）

主 催：新潟県立歴史博物館、新潟日报社、NST新潟総合テレビ

内 容：暖かく加工しやすい木綿は、江戸時代以降、布団や綿入れ・仕事着に広く用いられ、各地で特徴のある衣生活が生み出された。また、江戸時代後期以降、自家用だけでなく、各地に綿織物の産地が形成され、東北地方や北海道にも販路が広がられた。当展示では、綿織物の見本帳や仕事着など、県内各地の資料館や博物館が所蔵する資料から、木綿と越後の人びとのかかわりを紹介した。あわせて、近年、越後の綿織物の再評価に取り組む人々の活動を紹介した。

関連事業：トークセッション「再考・越後の綿織物」

コーディネーター：陳 玲（当館専門研究員）

三国 信一（当館専門研究員）

パネラー：藍野 かおり 氏（新潟市歴史博物館 学芸員）

加藤 穂乃佳 氏（長岡市立科学博物館 学芸員）

田中 真理 氏（見附市まちづくり課 文化係 学芸員）

伊藤 秀和 氏（加茂市教育委員会 社会教育課 課長補佐）

コメンテーター：三井田 忠明 氏（新潟県民具学会 会長）

日時：2月24日(日) 13:30～15:30

会場：講堂

参加者数：89人

講 座 「越後の仕事着のカタチ・ワザ・地コトバー越後・佐渡の仕事着を読み解く」

講師：陳玲（当館専門研究員）

日時：2月3日(土) 13:30～15:00

会場：講堂

参加者数：66人



エ 移動展覧会

移動展覧会は、館外にて当館の館蔵資料等を公開すべく開催先等とともに企画するもの。令和5年度は以下の展覧会を行った。

① アカデミック・インターンシップ研修成果展「五感」

会場・会期：新潟県立柏崎翔洋中等教育学校 10月31日(火)～11月8日(水)
 新潟県立長岡向陵高等学校 11月9日(木)～11月17日(金)
 新潟県立村上高等学校 11月20日(月)～12月1日(金)

主催：新潟県立歴史博物館

内容：新潟県教育委員会の主催事業「高校生アカデミック・インターンシップ研修」として、4人の高校生が参加。長野県出身の画家、原田泰治氏のピエゾグラフ（高精細複製画）をもとに展示内容の企画・製作した成果を、研修生の通学校でも公開。



各高等学校での展示の様子

② 幕末から明治期の窯跡調査結果 三光焼出土品の地元展示会

会場・会期：蔵のある古民家「雅蔵」 10月14日(土)～11月12日(日)

主催：上三光清流の会・新潟県立歴史博物館

協力：たけまた地域再生プロジェクト

内容：令和5年5月に発掘調査を行った新発田市上三光、白土鉦山跡の三光焼窯跡の出土品を整理分類し移動展として展示。



展示会のチラシと展示の様子

オ 共催事業

他機関が主催する展覧会に当館が共催するものである。令和5年度は以下のとおり行った。

① 新潟県立歴史博物館友の会展覧会「第20回マイ・コレクション・ワールド」

会 期：3月9日(土)～3月31日(土) 20日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：2,319人

内 容：市民コレクターからそのコレクションを出品していただき、広くコレクションという世界をご覧いただく展覧会。歴史などの題材による創作活動の成果も展覧。

【出品内容】タイトル50音順

- ・AKIRA コレクション
- ・いろんな空き缶コレクション
- ・ウルトラ怪獣フィギュア
- ・古地図
- ・震災関連新聞
- ・ちいかわグッズ
- ・ちぐらいろいろ
- ・長岡土器造り同好会作品
- ・ニャンコ先生グッズ
- ・猫グッズ
- ・博物館がデザインされた宝くじ
- ・花火フレーム切手
- ・復興記念館
- ・マイコレチラシ20回
- ・身近な考古学
- ・ミュシャ（複製）コレクション



② kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展

会 期：3月9日(土)～3月31日(日) 20日間

会 場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主 催：kid's 考古学研究所

共 催：NPO 法人むきばんだ応援団

観覧者数：1,164人

内 容：WEBサイト【全国子ども考古学教室】の実施する

「kid's考古学新聞コンクール」の入賞作品を展覧。
長岡市の小学3年生の作品がチャレンジの部の
最優秀賞に選ばれている。



(3) 収集保管事業

ア 寄贈資料

寄贈者	件数	分野	資料名	点数
佐藤隆一	1	歴史	金ヶ崎焼 火鉢	1
浜崎真弓	1	民俗	ソリ	1
			雪切鋸	1
			雪下駄	3
			日和下駄	1
			高歯下駄	1
(個人)	1	民俗	尺八	3
			楽譜	1
浅井タミエ	1	民俗	請待膳 (嘉永4年)	1
			請待膳 (安政3年)	1
			掛軸 (山内大学書状)	1
渡邊ますみ	1	歴史	岩室1号窯表採資料	71
加藤かづ江	1	歴史	小島藤松 日章旗寄せ書き	1
			小島藤松 軍隊手帳	1
			当世早割新撰塵劫記 (明治10年版)	1
地濃清美	1	歴史	長部公雄満蒙開拓義勇軍関係資料 一式	1
木沢洋子	1	歴史	木澤泰二従軍関係資料 一式	1
長谷川新一	1	民俗	スキー板 一式	1
			コスキ	1
			雪割	1
高野悦子	1	歴史	小林貫一 日章旗寄せ書き	1
			アルバム	2
内山満	1	歴史	刀剣	3
			鍔	3
合計	11			103

イ 寄託資料

寄託者	件数	分野	資料名	点数
齋藤康平	1	歴史	徴古墨寶 (乾・坤)	2
			色部氏文書	1
高橋真介	1	歴史	高橋竹之介関係資料	115
合計	2			118

ウ 購入資料

資料名	点数
『佐渡金銀山圖志』 (全3冊)	3
『越後国刈羽郡柏崎御陣屋並御長屋絵図』	1

エ 資料貸出

貸出先	件数	資料名	点数	目的
津南町教育員会	1	美々4遺跡 動物形土製品 複製	1	「農と縄文の体験実習館なじもん」の春・夏企画展松山賢展「火がつくる文様 絵画と野焼彫刻 - 縄文文化との接点 -」に展示するため
		十腰内遺跡 イノシシ形土製品 複製	1	
十日町市博物館	1	千葉県南羽鳥中岫第一遺跡 人頭型土製品 複製	1	秋季特別展「縄文人の喜怒哀楽」に展示するため
		山梨県中谷遺跡 耳飾りをつけた土偶 複製	1	
		青森県三内周辺 十字型土偶	1	
		出土地不詳 壊れた土偶	1	
米沢市上杉博物館	1	重要文化財「越後文書宝翰集」毛利安田氏氏文書 巻4	1	特別展「上杉景勝と関ヶ原合戦」への出展、および印刷物などへの掲載のため
		重要文化財「越後文書宝翰集」大見安田氏氏文書	1	
柏崎市立博物館	1	太刀 銘弘次	1	夏季企画展「日本刀 その技と美と歴史」に展示するため
合計	4		9	

オ 資料特別利用

利用者名	件数	資料名	点数	目的
畑有紀	1	「料理活用」、「越后酒造家一覧」、「東講商人鑑」	3	近世期の越後における食文化の調査研究のため
片桐昭彦	1	「三浦和田黒川氏文書」2巻～5巻所収文書	4	新潟大学の授業「日本史演習」で用いる文書の調査のため
南魚沼市教育委員会教育長	1	坂戸城絵図 画像	1	「NST 開局 55 周年 上杉景勝没後 400 年 上杉景勝その生涯展」の図録において上記資料の画像を掲載するため
テレビ朝日映像株式会社	1	御寿影（堀直寄公寿像）	1	フジテレビ「今夜はナゾトレ」というクイズ番組において、上野大仏を説明する際に、堀直寄の肖像画を使用するため
長塚美奈子	1	越之風車	5	学術研究のため
株式会社エディキューブ	1	縄文カレンダー	1	「TJMBOOK 人類史の『謎』を読み解く」（仮題）に掲載するため
編集室 青人社	1	鉄黒漆塗紺糸威異製最上胴具足 画像	1	『歴史学・歴史遺産学への招待』に掲載するため
株式会社コミュニティネット	1	上杉謙信像 画像	1	『2023年版 錦絵・日本合戦名場面カレンダー（仮称）』（監修：小和田泰経氏）の解説部分に上記資料画像を挿図として利用するため
株式会社 Jbpress	1	上杉房能安堵状 画像	1	『歴史を読む どうする戦国合戦編』（仮題）（乃至政彦 Jbpress 発行）の誌面内の挿図として画像を利用する

上越市立歴史博物館	1	越後名所誌	1	上越市立歴史博物館令和5年度企画展パンフレット「頸城油田の盛衰ー日本ーの手掘り技術ー」に掲載するため。あわせて同企画展でのパネル展示の利用のため
長谷川孝	1	色部氏年中行事正月料理、色部氏年中行事秋の祭礼 映像	2	講話「岩船の伝統文化を語る」（7月5日13:00～15:00）において上記映像を利用するため
株式会社日企 ザ！鉄腕！DASH!!	1	常設展「縄文人の世界」画像（夏の海）	1	日本テレビ「ザ！鉄腕！DASH!!」放送内での使用のため
外ヶ浜町教育委員会教育長 五十嵐義人	1	今津遺跡出土三足土器	1	外ヶ浜町で建設中の大平山元遺跡のガイダンス施設で展示するため（模型製作のための型取り）
長岡郷土史研究会	1	諸手控（上山藩七日市陣屋関係資料）	1	古文書解説講座「古文書に見る長岡のすがた」のテキストとして使用するため
株式会社ブックス	1	直江状 画像	1	テレビ朝日「博士ちゃん」内において上記画像を利用するため
株式会社 偕成社	1	常設展「縄文人の世界」画像（夏の海 魚の干物を作っているところ）	1	偕成社発行 児童向け図書〈海からいただく日本のおかず（全3巻）〉①巻『干物』に掲載するため
佐渡市長 渡辺竜五	1	西三川砂金山稼方図 （「佐州金銀山之図」のうち）	1	国史跡佐渡金銀山遺跡 西三川砂金山跡の解説サインに使用するため
(有)ホワイト	1	常設展「縄文人の世界」（夏の海）、「縄文文化を探る」画像（縄文人の食生活）	3	三重テレビ 番組名 NINJA～忍び者の生きる道～ 第五巻において縄文時代の食に関する説明の際に利用
株式会社日本国際放送	1	佐州金銀山之図	1	NHKワールド/jibtvで2023年9月29日に放送する番組「CATCH JAPAN」内の佐渡島特集で使用。放送終了後はWebサイトおよびYouTube等で公開するため。
NHK新潟放送局 コンテンツセンター	1	笹川勇吉氏旧蔵絵はがきコレクション 「（湯沢温泉）温泉通りヲ望ム」	1	NHK「小さな旅」番組内における関川村・湯沢集落の歴史についての紹介のため
NPO 法人山本元帥景仰会	1	故山本元帥御分骨奉迎御写真帳写真（長岡の歴史を伝える会寄託資料）	2	山本五十六記念館特別企画展『五十六の死と郷里の人びと』に写真パネルとして展示するため。当該資料の写真を広報用媒体に利用するため
株式会社イストリアス	1	「山本五十六と堀悌吉」肖像 画像	1	宮野澄著『不遇の提督 堀悌吉』の電子書籍化・電子出版にあたり、電子書籍版のオリジナル収録画像として同電子書籍の口絵に収録するため
株式会社 エヂカラ	1	大河津分水の候補地の絵図（大川津悪水抜掘割場所絵図）	1	新潟テレビ21「新潟 水の末裔たち」にて放送するため

合同会社カラボックス	1	鉄黒漆塗紺糸威異製最上胴具足 画像、上杉早虎書状 撮影映像	2	BS11「偉人 敗北からの教訓」#20 上杉謙信編に上記資料画像を利用するため
株式会社 吉川弘文館	1	上杉謙信画像（林泉寺所蔵資料）、（弘治3年）4月21日長尾景虎書状（永禄4年）9月13日上杉政虎感状	3	村石正行『検証川中島の戦い（仮題）』（吉川弘文館）に挿図として上記資料の画像を利用するため
新潟市歴史博物館	1	田舟	9	博物館講座のパワーポイント上映資料に利用するため
渡邊朋和	1	正保越後国絵図 画像（原本：新潟市立歴史図書館所蔵）	1	新潟地域史研究のため
奈良文化財研究所企画 調整部国際 遺跡研究室	1	ヒスイ大珠（出土地不詳／縄文時代）画像、イローナ・バウシュ氏撮影画像	7	クバプロより刊行予定の書籍『海外からみた日本考古学の魅力』に掲載（詳細別紙）するため
新潟県立文書館	1	笹川コレクション絵葉書	6	令和5年度新潟県立文書館特別企画展「絵葉書が語る近代－明治・大正・昭和の新潟－」
田辺悠馬	1	笹川コレクション絵葉書	57	大学の卒業論文に使用するため
阿部哲人	1	（慶長5年）6月10日上杉景勝書状 画像	1	第10回小山評定講演会講演「家康迎撃～上杉景勝の関ヶ原合戦」内のスライドとして上記資料の画像を利用するため
河合塾	1	北越雪譜	1	大学受験用テキストに掲載のため。 2024年度（高校・高卒生対象）日本史写真資料集
明治大学文学部 高橋 一樹	1	羽黒氏文書	1	矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 中条氏文書・羽黒氏文書・大輪寺文書』（新潟県立歴史博物館）刊行準備のための調査として、資料を熟覧するため
神奈川大学大学院 歴 史民俗資料科学研究科 黒木祐香	1	イッポンゾリ 画像	1	『歴史民俗資料科学研究』第29号に掲載するため
奈良文化財研究所企画 調整部国際 遺跡研究室	1	ヒスイ大珠（出土地不詳／縄文時代）画像、イローナ・バウシュ氏撮影画像	7	令和5年10月5日付け歴博第175号にて許可した資料掲載の書籍『海外からみた日本考古学の魅力』PDFの奈良文化財研究所リポジトリにおける公開のため
奥村康紀	1	山下遺跡出土 深鉢形土器 火焰型土器、俣沢遺跡出土 深鉢形土器 王冠型土器、出土地不詳 深鉢形土器 王冠型土器 画像	3	新潟の縄文時代をテーマにしたボードゲーム「DOKI（仮称）」の制作のため、ボードやタイルに画像データを加工したものを印刷して使用するため
株式会社スリーリングス	1	山男図 「北越奇談」巻之四、伊夜日子 妙多羅天の事 「越之風車」巻之三	2	CS フジテレビ「実話怪談倶楽部」内のVTR「全国怪談行脚」にて、新潟県の心霊スポットを紹介する際に、新潟県とは

				どんなところかを紹介する部分にて使用
国際基督教大学 マット・ギラン	1	尺八、御寿影（堀直寄公寿像）	3	大森宗勲と堀直寄の関係について研究調査するため
河合塾	1	北越雪譜	1	大学受験用テキストに掲載のため。河合塾マナビス（高校生対象）日本史写真資料集（2024）
株式会社 スタジオタッククリエイティブ	1	常設展「縄文人の世界」画像（夏の海、秋の広場、冬の狩り）	4	児童書「楽しく学べる歴史図鑑 土偶」への掲載のため
「いのち・愛・人権」小千谷展実行委員会	1	「人体解剖絵図」（部分写真）寄託資料	1	「いのち・愛・人権」小千谷展で展示パネルに写真を掲載するため
NHK 大阪放送局 コンテンツセンター第三部	1	（慶長5年）6月10日 上杉景勝判物画像利用	1	NHK番組「歴史探偵」北の関ヶ原 直江兼統と伊達政宗にて画像を利用するため。（歴博第176号で許可したものの再放送）
清瀬市経営政策部参事 木原雄嗣	1	北条氏照書状（齋藤康平氏所蔵色部氏文書） 上杉憲当書状（渡邊正英氏所蔵文書）	4	『清瀬市史』編さんに係る調査として、原本の熟覧並びに撮影を実施するため
上原誠一郎	1	「東講商人鑑」	1	研究調査（先祖の稼業について）のため
株式会社 スタジオタッククリエイティブ	1	常設展示「縄文人の世界」（夏の海）画像	1	テレビ番組「ネイチャーワールド高知 奇跡の美食学」での使用のため
北谷町教育委員会 教育長 原田利明	1	ヒスイ製大珠 画像（伝東北地方北部、伝茨城県出土、伝東北地方北部出土）	3	児童書「楽しく学べる歴史図鑑 土偶」への掲載のため
株式会社エヂカラ	1	滑稽旅鳥 初編 画像	1	新潟テレビ21「新潟 水の末裔たち」番組内にて使用するため
株式会社コミュニティネット	1	上杉謙信像 画像	1	『①万年暦 合戦図譜 31 日めくりカレンダー(仮称)』 監修：小和田泰経氏、 ② 学習ツール『戦国国家紋カード トランプ(仮称)』 挿図として利用する。
久間英樹	1	佐州金銀山之図3巻(西三川砂金山稼方図)	1	「金山史研究(2024)」(甲斐黄金村・湯之奥金山博物館発行予定)に執筆する佐渡金銀山西三川砂金山に関する研究論文に掲載するため
新潟日報社	1	「佐州金銀山之図」、「佐渡金銀山稼方之図」、「佐渡国金銀山図」、「諸国名所百景 佐渡金山奥穴の図」、「諸国六十八景 佐渡金やま」	5	新潟日報社が発行するブックレット「輝ける島へ」掲載し、読者に佐渡金銀山の歴史と文化、技術を紹介するため
知事政策局広報広聴課長	1	越後国奥山荘与荒川保堺相論和与絵図、上杉謙信像、越後文書宝翰集(全体像)画像	3	「新潟県のすがた2024」への画像掲載 発行方法：電子データ(PDF形式)を県ホームページに掲載するため https://pref.niigata.lg.jp/sec/kouhou/sugata.html
吉川弘文館	1	常設展示「縄文人の世界」冬の狩り 画像	1	書籍『Q&Aで読む縄文時代入門(仮)』に挿図として掲載するため

加須市教育委員会	1	六十間筋兜 画像	1	騎西城兜パンフレット（仮称）に掲載するため
横浜市教育委員会	1	小机城跡発掘調査時の西郭断面 画像 （奥田直栄氏所蔵資料のうち）	1	横浜市港北区小机城跡 令和3・4年度 小机城跡埋蔵文化財試掘調査報告書への掲載
実教出版株式会社	1	「二十四輩順拝図会」巻之四 画像（「草水の油」の頁）	1	『地学基礎 新訂版』（高等学校理科における科目「地学基礎」の検定教科書）に掲載のため
テレビ朝日	1	常設展示「縄文人の世界」夏の海 画像	3	テレビ朝日「ナスD大冒険TV」で「干物の歴史」について紹介その際の参考画像にするため
(株)テレパック	1	直江状 画像	1	BS11(イレブン)「偉人・敗北からの教訓」#37 上杉景勝編 徳川家康の会津征伐経緯の説明において上記資料の画像を放映するため
株式会社かみゆ	1	上杉政虎感状（色部勝長宛） 画像	1	戦国バトルシリーズ『戦国10番勝負（仮）』（Gakken 発行）の本編に挿図として上記資料の画像を掲載するため
メルバー・琢磨	1	山本五十六関係資料（国葬関係文書・勲記勲章）一式	1	山本五十六についての調査・研究のため
佐渡博物館	1	常設展「縄文文化を探る」グラフィックパネル（縄文カレンダー）画像、「縄文人の世界」画像（夏の海）	2	佐渡博物館常設展 考古コーナー解説パネルにおいて使用するため
株式会社 PHP 研究所	1	上杉謙信并二臣像 画像	1	乃至政彦著『謙信と信長』カバー及び帯に掲載するため
本田秀生	1	『新潟県歴史博物館研究紀要第21号』 「館蔵民俗資料テゴ（手籠）の整理ノート」掲載のテゴ 及び新潟県歴史博物館収蔵資料中の籠類	32	籠類の調査研究のため
合計	62		212	

カ 資料保管環境

① 生物調査

館内での文化財害虫の生息、館内への侵入状況を調べるため、館内各所に粘着トラップを 250 箇所、フェロモントラップを計 17 箇所（タバコシバンムシ用「ニューセリコ」10 箇所、ジンサンシバンムシ用「パシニウム」3 箇所、ヒメマルカツオブシムシ用「ヒメマルカツオブシムシルアー」3 箇所、ノシメマダラメイガ用「ガチョン」1 箇所）、ライトトラップを 5 箇所設置し、毎月調査を行った。通年での調査結果は下記の通りである。

発見月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
昆虫目	シミ目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ゴキブリ目	1	0	0	3	5	6	4	1	0	0	0	0	20
	シロアリ目	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
	バッタ目	3	13	3	3	16	79	137	55	27	95	4	0	435
	チャタテムシ目	27	175	29	16	9	93	123	74	38	78	28	7	697
	甲虫目 カツオブシムシ	0	4	1	0	5	6	0	3	6	10	0	2	37
	甲虫目 キクイムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲虫目 ヒョウホンムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲虫目 シバンムシ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	甲虫目 その他	2	4	22	16	22	8	6	8	3	1	2	1	95
	ハチ目	1	1	30	33	20	18	4	0	0	0	1	0	108
	ハエ目 ユスリカ・蚊等	93	140	63	96	160	43	23	57	41	182	47	33	978
	ハエ目 コバエ等	34	28	37	60	23	46	27	20	66	30	12	4	387
	チョウ目	1	0	3	14	4	18	7	3	3	6	2	0	61
昆虫網その他	5	8	16	12	8	1	1	14	1	5	11	14	96	
唇脚網	オオムカデ目	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	ゲジ目	5	8	15	11	12	12	17	18	16	5	2	1	122
	唇脚網その他	2	0	3	7	0	0	0	0	2	3	0	1	18
蜘蛛型網	クモ目	49	40	71	31	12	15	23	32	18	55	20	25	391
	ダニ目	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	クモ型網その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ほか	その他ダンゴムシなど	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
		224	422	332	303	297	346	372	285	221	470	129	88	3489

令和 5 年度の調査結果を下記のとおり総括する。

通年捕獲実績の害虫種別に見ると、文化財加害害虫としては、(1) チャタテムシ目、(2) コウチュウ目カツオブシムシ、(3) ゴキブリ目、(4) シロアリ目が主要種としてあげられる。その他の不快害虫としては、(1) ハエ目、(2) バッタ目（カマドウマ・コオロギ）、(3) クモ目、(4) ゲジ目が主要種としてあげられる。捕獲数で最も多いグループは、ハエ目、次いでバッタ目であった。

本年度は昨年度に比べ総数で 660 匹減の 3489 匹の捕獲数となった。これは令和 4 年度に収蔵庫 2 で 1,488 匹捕獲されたチャタテムシが、令和 5 年度には 44 匹と大きく減少した影響が大きい。収蔵庫 2 でのチャタテムシ捕獲数の変動や、収蔵庫内の状況の監視を続けているが、現在までに文化財への影響も確認されていない。一方で、収蔵庫 2 以外では本年度は 653 匹捕獲され、昨年度の 279 匹から増加した。これは、体長 1 mm 程度と非常に小さいため、見逃されてしまうことの多いチャタテムシへの注意が高まったことも影響した可能性がある。今後も経過を観察し、状況に応じ適切に対応する予定である。

カツオブシムシについては、出入り口付近などで捕獲され、日常の目視点検においては成虫が主に出入り口付近の窓の下で発見されている。ただし、いずれも外部からの影響を受けやすい場所における発見であり、成虫出現時期にほぼ限定され、外部からの侵入と考えられる。目視点検で発見される度、閉館後に殺虫剤の散布を行った。

ゴキブリ目については、出入り口付近などで捕獲されており、施設や文化財への影響は確認されなかった。

シロアリ目については、有翅虫発生時期に屋外で発生した有翅虫が出入り口周辺に侵入している状況であり、6月に回収したモニタリングトラップでのみ捕獲が確認されている。季節的な侵入であり施設や文化財への影響はなかった。

バッタ目については、主にカマドウマであり、例年秋・冬の寒冷時期に越冬のために館内に侵入し、捕獲が増加する季節性の害虫であった。そのため、それらの害虫駆除を主な目的として、12月末に館内殺虫作業を行った。

ゲジ目・ハエ目・ハチ目（オオクロアリ・ヒメアリなど）・クモ目・その他（ダンゴムシ、ゴミムシなど）は、捕獲されるポイントが出入り口周辺にほぼ限定されていて、大きな問題とはならなかった。

なお、ノシメマダラメイガについては、令和1年度頃まで常設展示室内で成虫が捕獲されるなどしてきたため、文化財に影響を与えうる害虫としてフェロモントラップを用いたモニタリングを継続している。結果として、昨年度に続き本年度も館内での捕獲は確認されなかった。

② 空中浮遊菌（真菌）調査・付着菌調査

②-1 空中浮遊菌調査

特別収蔵庫及び収蔵庫2・3の空中浮遊菌（真菌）を調査するため、ピンホールサンプラーで各室内空気を200L吸引し、PDA培地・M40Y培地で培養して真菌数を調査した。M40Y培地は乾燥を好むカビに適した培地である。PDA培地・M40Y培地ともに、5月・8月・12月の調査において特別収蔵庫前室の菌数がやや多かった。また、8月の調査での菌数が最も多い。いずれも扉の開閉時に廊下から空気が流入したためと考えられ、人や物の出入りや、庫外での季節的な菌数の増減による影響がうかがわれる。

②-2 付着菌調査

特別収蔵庫および収蔵庫2・3の付着菌を調査するため、100 cm²の床面を綿棒で拭き取り、それをPDA培地・M40Y培地で培養して真菌数を調査した。PDA培地・M40Y培地ともに、特別収蔵庫および収蔵庫2・3のいずれにおいても確認されないか、発見されても極わずかな菌数であった。季節による大きな変動も確認されなかった。

以上のように、特別収蔵庫前室の空中浮遊菌調査の結果以外は、年間を通じて少ない菌数である。また、付着菌の調査結果を見る限り、収蔵庫2においても浮遊菌が落下し床に定着するような状況にはないと推定できる。こうした点から比較的良好な収蔵環境が維持されていると言える。調査結果は下記の通りである。

令和5年度 空中浮遊菌（真菌）調査・付着菌調査結果

PDA培地

測定箇所	5月8日		8月7日		12月11日	
	200L吸引培地	1 m ² あたりの真菌数	200L吸引培地	1 m ² あたりの真菌数	200L吸引培地	1 m ² あたりの真菌数
特別収蔵庫前室	7	35	45	225	0	0
特別収蔵庫	0	0	0	0	0	0
収蔵庫2	0	0	0	0	0	0

収蔵庫 3	3	15	1	5	1	5
-------	---	----	---	---	---	---

M40Y 培地

測定箇所	5月8日		8月7日		12月11日	
	200L 吸引培地	1 m ³ あたりの真菌数	200L 吸引培地	1 m ³ あたりの真菌数	200L 吸引培地	1 m ³ あたりの真菌数
特別収蔵庫前室	17	85	60	300	6	30
特別収蔵庫	0	0	1	5	0	0
収蔵庫 2	0	0	0	0	0	0
収蔵庫 3	1	5	0	0	0	0

付着菌

採取箇所	5月8日		8月7日		12月11日	
	PDA培地	M40Y培地	PDA培地	M40Y培地	PDA培地	M40Y培地
特別収蔵庫前室	0	0	0	0	2	0
特別収蔵庫	0	0	0	0	0	1
収蔵庫 2 (1階右側)	0	0	0	0	0	0
収蔵庫 2 (1階左側)	0	0	0	0	1	0
収蔵庫 2 (2階)	0	0	0	0	0	0

③ 薬剤使用状況、館内殺虫、資料殺虫殺菌処理状況

館内及び資料から文化財害虫・菌を除去するため、以下のとおり館内殺虫および資料の殺虫殺菌処理を行った。

処理作業名	作業日	使用薬剤等	目的等
燻蒸室内燻蒸処理	4月10～13日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤 (エキヒュームS)	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
展示室殺虫作業	6月12日	ピレスロイド炭酸製剤 (ブンガノン)	展示室の什器・備品・環境復元展示の殺虫のため
燻蒸室内燻蒸処理	7月18～20日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤 (エキヒュームS)	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
燻蒸室内燻蒸処理	10月10～13日	酸化エチレン・フルオロカーボン製剤 (エキヒュームS)	新規収蔵資料および一時外に出していた資料を収蔵庫に収蔵するに際して、資料自体の虫害の防止、収蔵庫の環境維持のため殺虫・殺カビ処理を行う。
館内殺虫作業	12月29日	ピレスロイド炭酸製剤 (ミラクンGX)	共用部の什器・備品の殺虫のため

④ 温湿度管理

館内の収蔵庫および企画展示室の温湿度について、各室の収蔵品や使用目的にあわせ、適正になるように努めた。とりわけ特別収蔵庫は年間を通して温度 21～23 度前後に制御し、湿度は 60%になるように留意した。企画展示室は、調湿剤を使用しながら展示資料によって適正な設定温湿度を調整した。

⑤ 館内の空気環境管理

a イオンクロマトグラフ法空気環境測定

8月28日に収蔵庫1・収蔵庫2のイオンクロマトグラフ法(IC法)による測定分析を行った。その結果、文化財に影響を与える酢酸、ギ酸、アンモニウムのイオン成分は問題なかった。収蔵庫2については、令和2年度までの調査では、ギ酸が東京文化財研究所の推奨値をわずかに越えていることが判明していた。しかし、令和3年度、令和4年度に続き本年度の調査でも推奨値より低い数値であることが確

認められた。今後も経過を観察し、状況に応じ適切に対応する予定である。

令和5年度 イオンクロマトグラフ測定結果一覧（8月28日）

測定箇所	酢酸 ppb	ギ酸 ppb	アンモニア ppb
特別収蔵庫 1階中央	26.3	5.93	9.17
特別収蔵庫 1階左奥	30.4	7.13	10.41
特別収蔵庫 1階吸込口	31.8	7.29	10.23
特別収蔵庫 2階吹出口	34.1	6.75	10.26
収蔵庫2	35.4	9.40	16.90

b 活性炭フィルター交換

特別収蔵庫、収蔵庫2、収蔵庫3および企画展示室の適切な空気環境を維持するため、7月に活性炭フィルターを交換した。

(4) 調査研究事業

ア 事業主旨

新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の文化的・学術的活動を支援するため、全国的・世界的視野から総合的に、資料に関する技術的及び専門的な研究を行っている。

なお、本事業は他事業と関連し、博物館事業全体を支えるものである。他事業に結実した成果は各項目を参照していただきたい。

イ 総合研究

博物館の事業活動に寄与するため、博物館内外の人材を集め、総合的な研究目的を掲げて行う研究である。令和5年度には、以下のとおり行った。

① 越後文書宝翰集の総合的研究（3年計画の1年目）

代表者：前嶋 敏

新潟県の中世史を研究する上においてきわめて重要な資料である当館所蔵の国指定重要文化財「越後文書宝翰集」全44巻727通のうち、三浦和田氏文書・河村氏文書・小田切氏文書の刊行を目指して、史料の見直しを行う。

当該年度は3年計画の1年目にあたり『越後文書宝翰集 中条氏文書・羽黒氏文書・大輪寺文書』（矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編）を刊行した。

② 近世産業絵巻の研究（3年計画の3年目）

代表者：渡部浩二

近世以降に新たに誕生した「産業絵巻」（農耕、林業、捕鯨・水産、鉱山などの産業に関する一連の工程を描いた絵巻）の所在と概要を把握するとともに、制作の意図や受容者、社会背景などを明らかにし、それらを日本の絵巻文化史全体のなかに位置付ける。

本年度は産業絵巻成立事情を探り、近世の産業そのものに対する関心の高まる時期と、それに付随して制作された書物や絵画などに関する調査を行い、絵巻史料論の検討を進めた。なお、本研究の研究成果の一部は、令和4年度秋季企画展に反映されている。

ウ 個別研究

専門的業務に従事する研究員が日常的に研鑽を積み、また、博物館の事業活動に寄与するため、個別の研究目的を掲げて行う研究である。令和5年度には、各自の日常的な研鑽・調査とともに、以下のテーマ研究を行った。

① 新潟県域近世近代窯業址の悉皆調査（西田泰民）

新潟県域における近世・近代以降の窯跡について、丸山窯（新潟市西蒲区峰岡）、山部窯（上越市板倉）現地踏査を行い、採集遺物の同定を進めた。また深谷窯（新発田市上三光）推定地の発掘調査を行った。発掘調査によって、幕末から明治中期にかけて、焼酎徳利が県内、新発田市域で大量に生産されていたことを初めて明らかにした。

② 7世紀の東アジア情勢と磐舟柵の研究（浅井勝利）

軍事的目的で築造、修復された施設である西国山城を検討し、所在地論争などに決着していない越後の淳足柵、磐舟柵について新たな視点を提供した。

③ 博物館における「障害者」の表象—差異および効果—（山本哲也）

博物館が「障害者」を表象する際に生じる差異が、それぞれどのような効果を持つのかを評価する調

査を進めた。また、実践的活動のひとつとして令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した博物館創造活動支援事業）を得て、「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業（実行委員会中核館＝新潟県立歴史博物館）を実施した。

④ 考古資料の選択的利用における造形的特色の研究（宮尾亨）

現代社会の中で考古資料が用いられる場面を検討するために、考古学研究以外の場面で用いられる考古資料に関するデータベース構築を行っている。そのデータベース更新を進めるとともに、現代社会の中で考古資料が用いられる場面や状況にみられる一定の傾向について、その造形的特色に着目し、ディープラーニングを活用した検討を進めた。

⑤ 越後平野の資料館・博物館が所蔵する「縞帳」関連資料のアーカイブと活用法についての研究（陳玲）

越後平野における衣料づくりのニーズ、生産と流通の実態を各地の資料館・博物館が所蔵する「縞帳」関連資料と聞き取り調査に基づいて明らかにした。

⑥ 佐渡金銀山の鉱山用語の研究（2）（渡部浩二）

前近代の鉱山用語は「山ことば」とも言われ、特殊で難解なものが多く、まとまった用語解説書の作成が課題となっている。そこで、佐渡金銀山の鉱山技術書群を翻刻し、集成した鉱山用語（選鉱関係）の解説に努めた。

⑦ 中条氏文書の研究（前嶋敏）

当館所蔵の国指定重要文化財「越後文書宝翰集」（全44巻、727通、国指定重要文化財）は、越後地域に盤踞した18の武将の家に伝来した一大古文書群である。新潟県中世史研究の深化を推し進めるために、そのうち、中条氏文書（1巻12通）について検討を行った。

⑧ 弥彦神社徴古館の構想における西蒲原郡の知識人ネットワークに関する研究（田邊幹）

弥彦神社所蔵資料を通して、「越佐徴古館」が地域の知識人ネットワークとの関連の中でどのように構想されていったのかを検討した。

⑨ 新潟県民俗学会旧蔵コレクションと山口賢俊関係資料の関連性に関する研究（三国信一）

新潟県民俗学会旧蔵コレクションに欠けている情報について、新潟市北区郷土博物館所蔵の山口賢俊関係資料の調査を進めた。

⑩ 先史時代における岩石資源利用の研究（2）（橋詰 潤）

県の石に指定されたヒスイを中心に、地域の歴史にかかる文化と、地学的成り立ちや自然とを総合し、地域それぞれの「地球でここだけの特別な物語」を構築するための基礎的研究を進めた。

エ 科学研究費補助金等による研究

研究員それぞれの自由かつ柔軟な発想に基づく学術研究を、科学研究費補助金（以下、科研費と記す）等を得て公務として行っている。令和5年度に採択された研究課題は、以下のとおりである。

1 近世産業絵巻の基礎的研究

科研費 基盤研究C1(19K00969) 平成31-34年度（令和元-4年度）令和5年度まで延長
研究代表者：渡部浩二

- 2 佐渡金銀山技術書群の分析に基づく鉱山資料の集成と鉱山社会史の解明
科研費 基盤研究 C1 (22K00886) 令和 4 - 7 年度
研究代表者：渡部浩二

- 3 史資料原本調査を中心とした中世文書群の伝来に関する研究
科研費 基盤研究 C1 (20K00953) 令和 2 - 5 年度
研究代表者：前嶋敏

- 4 「越佐徴古館」構想の復元を通じた「横田切れ」水害被災地の復興
科研費 基盤研究 C1 (20K01133) 令和 2 - 5 年度
研究代表者：田邊 幹

- 5 本州中央部の大規模遺跡の再検証に基づく更新世終末の動物資源利用行動の評価
科研費 基盤研究 C (20K01101) 令和 2 - 5 年度
研究代表者：橋詰 潤

- 6 土器制作技術と植物混和材
科研費 学術変革 A (20H05812) 令和 2 - 6 年度
研究分担者：西田泰民
(研究代表者：阿部昭典 千葉大学大学院人文科学研究院 准教授)

- 7 越後縄文人の食性変化と多雪化の関係を明らかにする研究
科研費 基盤研究 B1 (20H01344) 令和 2 - 5 年度
研究分担者：宮尾亨
(研究代表者：吉田邦夫 東京大学 総合博物館)

- 8 須恵器 3D-RGB データの深層学習クラスター解析による型式・年代分類基準の検証
科研費 基盤研究 B1 (22H00744) 令和 4 - 6 年度
研究分担者：宮尾亨
(研究代表者：藤田晴啓 新潟国際情報大学)

- 9 型式学と AI を融合したデータ駆動型研究基盤への挑戦
科研費 挑戦的研究 (萌芽) (23K17520) 令和 5 ~ 7 年度
研究分担者：宮尾亨
(研究代表者：藤田晴啓 新潟国際情報大学)

- 10 更新世末の北海道における尖頭器製作・使用行動に関する総合的研究
科研費 基盤研究 B (23H00688) 令和 5 ~ 9 年度
研究分担者：橋詰 潤 (研究分担者)
(研究代表者：高倉 純 北海道大学)

- 11 更新世末から完新世初頭における先史狩猟採集民の生態資源利用をめぐる研究
科研費 基盤研究 B (23H00713) 令和 5 ~ 9 年度
研究分担者：橋詰 潤 (研究分担者)
(研究代表者：山岡 拓也 静岡大学)

- 12 地域における歴史意識の形成過程に関する研究—由緒関係文書の原本調査を踏まえて—
 科研費 基盤研究 B1 (21H00570) 令和3-5年度
 研究協力者：前嶋敏
 (研究代表者：坂田聡 中央大学文学部教授)

オ 自主企画の学術研究出版物 (図録・紀要・報告書等)

- 1 『新潟県立歴史博物館研究紀要』第25号 (令和6年3月25日) A4判124頁 モノクロ1,200部
 編集 新潟県立歴史博物館
 発行 新潟県立歴史博物館
 [目次]

【研究ノート】

越後の木綿栽培とその需要の諸相	(陳 玲)	1～14頁
新潟県内近世近代窯業址について (4)	(西田 泰民)	15～20頁
新発田市深谷窯発掘調査概報	(西田 泰民)	21～36頁
新潟県内の水族館に関する覚書 (5)		
- 柏崎に所在した天然水族館・その3 -	(山本 哲也)	37～46頁
守れ!文化財:学校資料の保存活用とその継承を考える		
- 京都府立豊学校における自立的で継続的な資料活用のための試み -	(佐藤 優香)	47～58頁
守れ!文化財:手による鑑賞と盲学校資料の鑑賞を考える		
- ワークショップ「手から味わうお茶会」の実践から -	(佐藤 優香)	59～66頁
越後の鬼伝説を考える		
- 蝦夷から鬼へ・まつろわぬモノと仏教 -	(遠山 典子)	105～124頁

【報告】

令和5年度山の洲文化財交流展の開催報告		
- 発掘が語る地域交流フォッサマグナがつなぐ新潟 長野 山梨 静岡 -	(橋詰 潤)	67～84頁

【文献目録】

2023年新潟県地域史関係文献目録 (新潟県地域史研究ネットワーク事務局)		85～104頁
---------------------------------------	--	---------

- 2 『越後文書宝翰集 中条氏文書・羽黒氏文書・大輪寺文書』(令和6年3月)

A4判93頁 カラー 750部

編集 矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館 (前嶋敏)

発行 新潟県立歴史博物館

[目次]

はじめに

目次

凡例

図版編

中条氏文書書 8頁

羽黒氏文書 第一巻 18頁

羽黒氏文書 第二巻 22頁

大輪寺文書 24頁

解説編

中条氏文書・羽黒氏文書・大輪寺文書の伝来 (前嶋 敏) 32頁

各文書翻刻・解説 41頁

主要参考文献一覧	90 頁
執筆・編集者一覧	94 頁

3 『上杉景勝 その生涯』展 NST 開局 55 周年・上杉景勝没後 400 年 図録 (令和 5 年 7 月 15 日)
A 4 判 126 頁 カラー 1,500 部 (前嶋 敏)

〔目次〕

ごあいさつ	1 頁
目次	2 頁
凡例	3 頁
「上杉景勝と越後・佐渡」前嶋 敏	5 頁
第 1 章 上杉景勝とその周辺	11 頁
第 1 節 景勝と父・母	12 頁
第 2 節 城と寺院	17 頁
第 3 節 景勝を支えた人びと	21 頁
第 2 章 御館の乱	25 頁
第 1 節 上杉謙信の死と争乱の勃発	26 頁
第 2 節 上杉景虎の滅亡と争乱の終焉	29 頁
第 3 節 御館の乱と出土遺物	32 頁
第 3 章 豊臣秀吉の全国統一と上杉景勝	35 頁
第 1 節 新発田重家の乱と織田信長・豊臣秀吉	36 頁
第 2 節 上洛	42 頁
第 3 節 景勝と本庄氏	51 頁
第 4 節 佐渡平定と金山	55 頁
第 5 節 奥羽仕置	62 頁
第 6 節 権中納言景勝	66 頁
第 4 章 会津と米沢	69 頁
第 1 節 会津移封	70 頁
第 2 節 徳川家康と直江状	74 頁
第 3 節 米沢城	79 頁
第 5 章 文化財の伝来と上杉家	81 頁
資料編	95 頁
展示資料解説	96 頁
展示資料翻刻	112 頁
展示資料一覧	122 頁
主な参考文献	124 頁
謝辞・協力者一覧	144 頁

4 中央日本 4 県 令和 5 年度 山の洲文化財交流展 展示パンフレット

『発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長野 山梨 静岡』(令和 5 年 9 月 8 日)
A 4 判 32 頁 カラー 3,000 部 (橋詰 潤・宮尾 亨)

〔目次〕

フォッサマグナと中央日本 4 県	1 頁
1 地域文化の競演：各県のイチ推し!!	2 頁
2 フォッサマグナと中央日本 4 県のつながり	6 頁
3 交流のはじまり：旧石器時代	10 頁
4 中央日本 4 県の縄文文化	14 頁

5 中央日本4県の弥生文化
6 古墳時代以降の中央日本4県

22 頁
26 頁

カ 専門書・専門誌への論文等その他年間執筆一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
西田泰民	記録と保存と	考古学ジャーナル 9月号	ニューサイエンス社	令和5年8月	
西田泰民	新発田市上三光所在近代陶磁器窯の調査	新潟県考古学会連絡紙 第139号	新潟県考古学会	令和6年2月1日	4頁
西田泰民	新潟県内近世近代窯業址について4	新潟県立歴史博物館研究紀要第25号	新潟県立歴史博物館	令和6年3月25日	15-20頁
西田泰民	新発田市上三光所在深谷窯発掘調査概報	新潟県立歴史博物館研究紀要第25号	新潟県立歴史博物館	令和6年3月25日	21-36頁
西田泰民	庵地焼旗野窯の建築についての調査	長岡造形大学研究紀要			
浅井勝利	集落の境界をめぐる祭祀—新潟県の民俗例から考える—	佐々木虔一・笹生衛・菊地照夫編『古代の交通と神々の景観—港・坂・道—』	八木書店	令和5年5月26日	265-283頁
浅井勝利	新潟県地方史研究の動向	信濃 75巻7号	信濃史学会	令和5年7月20日	3頁
山本哲也	久米邦武が見た博物館の真実—『米欧回覧實記』の記述から—(前編)	美術の窓 No. 478	生活の友社	令和5年6月20日	156-157頁
山本哲也	博物館とトイレ	博物館研究 第58巻第7号	日本博物館協会	令和5年6月25日	6-10頁
山本哲也	博物館と学校との連携の理想を追求する	初等教育資料 2023年7月号	東洋館出版社	令和5年7月15日	66-67頁
山本哲也	久米邦武が見た博物館の真実—『米欧回覧實記』の記述から—(後編)	美術の窓 No. 479	生活の友社	令和5年7月20日	132-133頁
山本哲也	新潟県内の水族館に関する覚書(5) - 柏崎に所在した天然水族館・その3 -	新潟県立歴史博物館研究紀要第25号	新潟県立歴史博物館	令和6年3月25日	37-46頁
宮尾 亨	(国際縄文フォーラム火焔街道往来2023の概要・参加記) 世界遺産と日本遺産をつなぐ ストーンヘンジと縄文文化そして佐渡金山	新潟県考古学会連絡紙 第136号	新潟県考古学会	令和5年4月28日	2-3頁
宮尾 亨	中期縄文土器3D-RGBデータを用いた深層学習クラスタ解析に向けて	新潟県考古学会連絡紙 第139号	新潟県考古学会	令和6年2月1日	5頁
宮尾 亨	縄文土器3D深層学習クラスタ解析に向けたVoxel解像度差の影響評価	日本情報考古学 第47回大会講演集 Vol. 27 (通巻47号)	日本情報考古学会	令和6年3月31日	
陳 玲	「越後の木綿栽培とその需要の諸相」	新潟県立歴史博物館研究紀要第25号	新潟県立歴史博物館	令和6年3月25日	1-14頁
陳 玲	妻有地方の寝具事情をめぐる - 夜着布団と牧之のカルチャーショック -	津南学 第12号 (津南町教育委員会編)	ほおずき書籍株式会社	令和6年3月31日	126-135頁
渡部浩二	新潟県地方史研究の動向	信濃 75巻7号	信濃史学会	令和5年7月20日	5-7頁
渡部浩二	文献・絵画史料からみる佐渡金銀山の鉱山道具〜坑内で使用される道具を中心に〜	石見銀山遺跡テーマ別調査研究報告書6 国内・国外鉱山と石見銀山との比較研究	島根県教育委員会	令和6年3月	35-42頁
前嶋 敏	(編著書)	『上杉謙信』前嶋敏編	戎光祥出版	令和6年3月8日	1-416頁
前嶋 敏	上杉謙信に関する研究の現状と展望	『上杉謙信』前嶋敏編	戎光祥出版	令和6年3月8日	6-42頁
前嶋 敏	(編著書)	矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 中条氏文書・羽黒氏文書・大輪寺文書』	新潟県立歴史博物館	令和6年3月	1-94頁
前嶋 敏	中条氏文書・羽黒氏文書・大輪寺文書の伝来	矢田俊文・片桐昭彦・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 中条氏文書・羽黒氏文書・大輪寺文書』	新潟県立歴史博物館	令和6年3月	32-40頁
田邊 幹	企画展『国葬と分骨』に寄せて	清風 (山本元帥景仰会機関紙) 第39号	特定非営利活動法人山本元帥景仰会	令和5年4月18日	4-5頁
田邊 幹	新潟県立歴史博物館における「連携」と「拠点」文化財レスキューを中心に	国立歴史民俗博物館研究報告第246集 [共同研究] 地域における歴史文化研究拠点の構築	国立歴史民俗博物館	令和6年3月29日	219頁-228頁
三国信一	(書誌紹介) 岩野笙子著 室谷—新潟県東蒲原郡上川村「かみたに」のくらし—	日本民俗学 第317号	日本民俗学会	令和6年2月29日	149頁
橋詰 潤	国際黒曜石会議遠征大会2023 (International Obsidian Conference Engaru 2023) 開催報告	資源環境と人類 14号	明治大学黒曜石研究センター	令和6年3月19日	97-108頁
橋詰 潤	令和5年度山の洲文化財交流展の開催報告—発掘が語る地域交流フォッサマグナがつなぐ 新潟 長野 山梨 静岡—	新潟県立歴史博物館研究紀要第25号	新潟県立歴史博物館	令和6年3月25日	67-84頁
遠山典子	「郷土再発見」—高校教育と日本史	長岡郷土史 第60号	長岡郷土史研究会	令和5年5月	2頁
遠山典子	『塵壺』九州編—長崎への道—	長岡郷土史 第60号	長岡郷土史研究会	令和5年5月	10頁
遠山典子	越後の鬼伝説 - 蝦夷から鬼へ・まつりわぬモノと仏教 -	新潟県立歴史博物館研究紀要第25号	新潟県立歴史博物館	令和6年3月25日	105-124頁

キ 調査報告書・辞典・参考書等への年間執筆一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
浅井勝利	発掘された古代人名録(女性編)	新潟県埋蔵文化財センター 2023年企画展I『発掘された 名前』(展示図録)	新潟県埋蔵文化財セ ンター・公益財団法 人新潟県埋蔵文化財 調査事業団	令和5年4月20日	10-13頁
宮尾 亨	(再編集・注補遺)	『縄文論理空間』小林達雄著	NPOジョーモネスク ジャパン	令和5年4月30日	
宮尾 亨	(再編集・注補遺)	『縄文の力 縄文の心』対談・鼎 談記録	NPOジョーモネスク ジャパン	令和5年7月30日	
宮尾 亨	第V章 まとめ 2 転堂遺跡から出土した三角形土製品について	長岡市埋蔵文化財発掘調査報 告書 転堂遺跡	長岡市教育委員会	令和5年10月31日	31-34頁、写真図 版31-32
宮尾 亨	(編著書、橋詰潤と連名)	中央日本4県 令和5年度 山の洲 文化財交流展 発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長 野 山梨 静岡	新潟県立歴史博物館	令和5年9月8日	
宮尾 亨	(編著書、橋詰潤と連名)	中央日本4県 令和6年度 山の洲 文化財交流展 発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長 野 山梨 静岡	山梨県立考古博物	令和5年12月	
宮尾 亨	(編著書、橋詰潤と連名)	中央日本4県 令和7年度 山の洲 文化財交流展 発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長 野 山梨 静岡	静岡県埋蔵文化財セ ンター	令和6年2月	
前嶋 敏	発掘された中世文字資料から見えたもの	新潟県埋蔵文化財センター 2023年企画展I『発掘された 名前』(展示図録)	新潟県埋蔵文化財セ ンター・公益財団法 人新潟県埋蔵文化財 調査事業団	令和5年4月20日	18-21頁
前嶋 敏	(編著書)	『上杉景勝 その生涯展』 (展示図録)	上杉景勝実行委員 会	令和5年7月15日	1-126頁
前嶋 敏	上杉景勝と越後・佐渡	『上杉景勝 その生涯展』(展示 図録)	上杉景勝実行委員 会	令和5年7月15日	5-10頁
橋詰 潤	(編著書、宮尾亨と連名)	『中央日本4県 令和5年度 山の洲 文化財交流展 発掘が語る地域交 流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長野 山梨 静岡』	新潟県立歴史博物館	令和5年9月8日	
橋詰 潤	(編著書、宮尾亨と連名)	『中央日本4県 令和6年度 山の洲 文化財交流展 発掘が語る地域交 流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長野 山梨 静岡』	山梨県立考古博物	令和5年12月	
橋詰 潤	(編著書、宮尾亨と連名)	『中央日本4県 令和7年度 山の洲 文化財交流展 発掘が語る地域交 流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長野 山梨 静岡』	静岡県埋蔵文化財セ ンター	令和6年2月	
橋詰 潤	「大鹿窪遺跡」「大平山元I遺跡」「陥し穴」「ガーシャ遺跡」「ク ローヴィス文化」「グロマトゥーハ遺跡」「出現期土器」「墨古沢 遺跡」「田名向原遺跡」「投槍器」「鳥浜貝塚」「日向洞窟遺跡」 「ピリカ遺跡」「フォルサム遺跡」「前田耕地遺跡」「室谷洞窟遺 跡」「本ノ木・田沢遺跡群」「柳又遺跡」「有舌尖頭器」「ガー シャ遺跡」	『最新 地学事典』	平凡社	令和6年3月	

ク 一般書・一般雑誌・新聞等への年間寄稿一覧

氏名	タイトル	出典	発行	発行日	頁
西田泰民	歴史と文化をリアルに体感できる、新潟県立歴史博物館	JTRA magazine 第5号	一般社団法人日本 ツーリズム推進協議 会	令和5年6月	
宮尾 亨	雪国・魚沼は火焰型土器の国だった	文化観光ガイドブック 新潟 県 魚沼	新潟県 観光文化ス ポーツ部文化部	令和5年10月1日	45頁
陳 玲	豪雪地にも木綿栽培の記録を発見	そいがあて 長岡歴史散歩	新潟日報・長岡販 売店グループ	令和6年2月15日	3面
渡部浩二	手島組の宗門改帳	越佐歴史資料調査会会報 Vol.47	越佐歴史資料調査会	令和5年8月26日	5頁
前嶋 敏	御館の乱と中越	そいがあて 長岡歴史散歩	新潟日報・長岡販 売店グループ	令和5年7月15日	3面
前嶋 敏	展覧会へようこそ「上杉景勝 その生涯展」	新潟日報	新潟日报社	令和5年7月21日	25面
田邊 幹	三条地震と長岡	そいがあて 長岡歴史散歩	新潟日報・長岡販 売店グループ	令和5年5月14日	3面
田邊 幹	展覧会へようこそ「伝える一災害の記憶」	新潟日報	新潟日报社	令和5年5月2日	18面
三国信一	皆で思いを分かち合う郷見産感謝祭	山古志木籠ふるさと便り55号	山古志木籠ふるさと会	令和5年12月3日	
橋詰 潤	先史時代の新潟ブランド「ヒスイ」	そいがあて 長岡歴史散歩	新潟日报社	令和5年6月15日	3面
橋詰 潤	展覧会へようこそ「発掘が語る地域交流」	新潟日報	新潟日报社	令和5年9月26日	
遠山典子	三島億二郎の浦賀探索～『扇浦日記』より～	そいがあて 長岡歴史散歩	新潟日报社	令和6年3月15日	3面

ケ 学会発表等一覧

氏名	タイトル	学会・講演会名	会場	期日	備考
西田泰民	熱ルミネッセンス法による新潟県内近世近代窯跡の年代解明に向けて	日本文化財科学会第40回大会	なら文化芸術村	令和5年10月21日	下岡順直・長友恒人
山本哲也	守れ！文化財展一何をどう守るのか？ー	近畿民具学会第292回例会	(一財)奄美文化財団 ギャラリーA.I	令和6年3月17日	武井二葉
宮尾 亨	中期縄文土器の造形芸術作品としての感覚印象因子構造に関する分析	考古文化財ディープラーニング研究会（第4回）	新潟県立歴史博物館	令和5年7月22日	藤田晴啓， Simon Kaner， 佐々木宏之
宮尾 亨	大湯ストーンサークル日時計状組石の CycleGANs による画像復元	考古文化財ディープラーニング研究会（第4回）	新潟県立歴史博物館	令和5年7月22日	藤田晴啓，板垣正敏
宮尾 亨	Archaeomaterial image restoration of Oyu stone circle's sundial-shaped stones, by CycleGANs	SAS8	北京大学（オンライン参加）	令和5年8月13日	Fujita Haruhiro, Itagaki Masatoshi, Miyao Toru, Hanami Yoshito, Akasaka Tomomi, Kinouchi Ryo, Primitiva Bueno Ramirez, Yamamoto Ryo, Kawano Kazutaka
宮尾 亨	Analyses of sensory impression factor structures of middle Jomon potteries as formative artistic works	SAS8	北京大学（オンライン参加）	令和5年8月13日	Fujita Haruhiro, Miyao Toru, Simon Kaner
宮尾 亨	The history and spread of Jomon stone monuments	STONE CIRCLES ACROSS EURASIA, A one-day international conference in conjunction with exhibition CIRCLES OF STONE: STONEHENGE AND PREHISTORIC JAPAN	St John's Place, Lower Road, Bemerton, Salisbury SP2 9NP, UK	令和5年8月29日	English Heritage and Sainsbury Institute for the Study Japanese Arts and Cultures
宮尾 亨	縄文土器3D深層学習クラスタ解析による個体間関係性の評価	考古文化財ディープラーニング研究会（第5回）	新潟県埋蔵文化財センター	令和6年3月17日	
宮尾 亨	縄文土器点群-キャプション生成モデルの試作	考古文化財ディープラーニング研究会（第5回）	新潟県埋蔵文化財センター	令和6年3月17日	中田豊久、近山英輔、藤田晴啓
宮尾 亨	縄文土器の説明文生成AIの評価データ作成システム	考古文化財ディープラーニング研究会（第5回）	新潟県埋蔵文化財センター	令和6年3月17日	近山英輔、中田豊久、藤田晴啓
宮尾 亨	考古・文化財画像の復元におけるCycleGANの評価基準についての考察	考古文化財ディープラーニング研究会（第5回）	新潟県埋蔵文化財センター	令和6年3月17日	板垣正敏、藤田晴啓、河野一隆
宮尾 亨	縄文土器3D深層学習クラスタ解析の展望 - 部位分割Voxel解析の試行 -	日本情報考古学会第49回大会	オンライン	令和6年3月30日	南雲彩花、藤田晴啓、板垣正敏、市川健太、河野一隆
陳 玲	越後の木綿の諸問題をめぐって一移入品の木綿類と木綿栽培を中心に」	新潟県民具学会	新潟市立中央図書館	令和5年6月11日	
渡部浩二	佐渡金銀山のタガネと関連道具	資源・素材学会2024年度春季大会	千葉工業大学	令和6年3月19日	
橋詰 潤	長野県岡谷丸山遺跡出土の縄文草創期石器群：打製石器の検討	2023年度 日本旧石器学会 第21回総会・研究発表・シンポジウム	東京都埋蔵文化財センター	令和5年6月24日	池谷信之・中村由克・山田武文との共同発表
橋詰 潤	岡谷丸山遺跡出土石器の検討：草創期石器の抽出とその評価にむけて	第9回 信州黒曜石フォーラム	オンライン	令和5年7月16日	

コ 高等教育機関（大学等）への年間講師派遣一覧

氏名	科目名	出講先
西田泰民	技術から見た歴史探究	長岡技術科学大学
西田泰民	文化財学概論	長岡造形大学
西田泰民	博物館資料論	長岡造形大学
浅井勝利	博物館情報・メディア論	長岡造形大学
浅井勝利	地域から文化を考える	新潟大学
浅井勝利	歴史と文化	長岡崇徳大学
浅井勝利	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
山本哲也	博物館教育論	長岡造形大学
山本哲也	博物館教育論	新潟産業大学
山本哲也	博物館学史特論	國學院大學大学院
渡部浩二	技術からみた歴史探究	長岡技術科学大学
渡部浩二	近世越後諸地域の歴史と社会	新潟大学
渡部浩二	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
前嶋 敏	技術からみた歴史探究	長岡技術科学大学
前嶋 敏	文化財学概論	長岡造形大学
前嶋 敏	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
田邊 幹	地域文化論	長岡造形大学
田邊 幹	長岡学	長岡造形大学
田邊 幹	歴史と文化	長岡崇徳大学
田邊 幹	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
三国信一	日本の伝統芸能	新潟産業大学
三国信一	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
三国信一	文化財学概論	長岡造形大学
橋詰 潤	新潟の風土と歴史	新潟薬科大学
遠山典子	新潟の歴史	長岡大学

サ ホームページによる研究内容の公開

浅井勝利：個別研究成果（新潟県内出土文字資料データベース）を公開

<http://member.nbz.or.jp/asai/index.html>

西田泰民：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究B「日本における稲作以前の主食植物の研究」の成果を公開

<http://www.asahi-net.or.jp/~zh4y-nsd/starchhp/stitle.html>

宮尾 亨：文部科学省科学研究費補助金 基盤研究C「博物館における縄文食プログラム策定の基礎資料収集及び新分析手法の開発」の成果を公開

<https://ameblo.jp/niigatarekihaku/>

<http://sites.google.com/site/torum01/jomon-foods>

シ 編集に参画した学術研究出版物（図録・紀要・報告書等）

- 中央日本4県 令和5年度 山の洲文化財交流展 展示パンフレット
『発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長野 山梨 静岡』
発行：山梨県立考古博物館
- 中央日本4県 令和5年度 山の洲文化財交流展 展示パンフレット
『発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ 新潟 長野 山梨 静岡』
発行・静岡県埋蔵文化財センター

ス 研究協力等一覧

協力者	協力事業	協力先	期間	期間
西田泰民	「文化財科学」編集委員	日本文化財科学会		
西田泰民	長岡市文化財保護審議会委員	長岡市教育委員会		
浅井勝利	金屋遺跡出土墨書土器調査	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	令和5年10月	令和5年10月
山本哲也	博物館研究編集委員	日本博物館協会		
山本哲也	國學院大學博物館共同研究員	國學院大學博物館		
宮尾 亨	史跡整備調査指導委員会	津南町教育委員会	令和5年度	令和5年度
渡部浩二	歴史の道八十里越調査保存整備委員会	只見町教育委員会	令和5年4月1日～令和7年3月31日	令和5年4月1日～令和7年3月31日
渡部浩二	世界遺産室客員研究員（石見銀山遺跡調査研究）	島根県教育委員会	令和3年4月1日～令和6年3月31日	令和3年4月1日～令和6年3月31日
渡部浩二	日本鉱業史研究会理事	日本鉱業史研究会		
前嶋 敏	中央史学会評議員	中央史学会		
田邊 幹	地域における歴史文化研究拠点の構築	人間文化研究機構		
三国信一	新潟県民具学会事務局	新潟県民具学会		
三国信一	新潟県民俗学会理事	新潟県民俗学会		
三国信一	出雲崎大祭調査	出雲崎町教育委員会	令和5年12月～	令和5年12月～
橋詰 潤	新潟県考古学会役員	新潟県考古学会		
橋詰 潤	日本ジオパーク委員会委員	日本ジオパーク委員会		
橋詰 潤	白滝ジオパーク推進協議会国際黒曜石会議学術運営部会委員	白滝ジオパーク推進協議会	令和2年6月～令和6年3月	令和2年6月～令和6年3月
橋詰 潤	最新 地学辞典、項目選定、執筆担当者	地学団体研究会	令和4年4月～令和6年3月	令和4年4月～令和6年3月
橋詰 潤	糸魚川ジオパーク協議会アドバイザー	糸魚川ジオパーク協議会	令和6年1月～	令和6年1月～

セ 展示等協力

協力者	協力事業	協力先	期間
浅井勝利	「陰陽師とは何者か」	国立歴史民俗博物館	令和5年
西田泰民	信州やきもの紀行	長野県立歴史館	令和5年10月7日～11月27日
山本哲也	備前焼狛犬修復	出雲崎町教育委員会	
山本哲也	プラネタリウム100周年記念事業	日本プラネタリウム協議会	
山本哲也	時の記念日特別企画 天文時計の世界	明石市立天文科学館	令和5年6月9日～6月11日
山本哲也	特別展「プラネタリウム展」	明石市立天文科学館	令和5年10月21日～12月3日
宮尾 亨	山下遺跡の歴史的意義を考える	長岡市山通コミュニティセンター	令和5年7月～3月
田邊 幹	山本五十六記念館展示企画委員	特定非営利活動法人山本元帥景仰会	令和3年4月19日～令和5年4月18日
田邊 幹	阪之上小学校伝統館運営委員	阪之上小学校	令和4年4月1日～令和5年3月31日
三国信一	歴史資料室準備事業	四郎丸小学校	
橋詰 潤	歴史資料室準備事業	四郎丸小学校	
田邊 幹	長岡戦災資料館展示企画アドバイザー	長岡市	

ソ 講演等一覧

講演者	講演タイトル	講座名等	会場	期日
西田泰民	村松焼について	まぼろしの村松焼（村松お城の会）	新瀧（五泉市）	令和5年10月27日
浅井勝利	発掘された古代人名録（女性編）	新潟県埋蔵文化財センター講演会	新潟県埋蔵文化財センター	令和5年6月25日
山本哲也	博覧会と博物館	阿賀野市立吉田東伍記念博物館友の会25周年記念市民文化講演会2023	安田交流センター風とびあ	令和5年11月23日
宮尾 亨	柿町山下遺跡	地域活動連合総会講演	長岡市山通コミュニティセンター	令和5年6月24日
宮尾 亨	ヒスイがつなぐ新潟・長野・山梨・静岡 パネルトークパネル	山の洲文化財交流展 記念講演会	静岡県立美術館 講堂	令和6年3月2日
渡部浩二	歴史の道 八十里越	令和5年度博物館講座 魚沼の歴史を学ぶ	十日町市博物館	令和5年6月10日
渡部浩二	「椎谷藩」ロマン探訪…資料から椎谷藩を知る	かしわざき市民大学	柏崎市市民プラザ	令和5年10月5日
渡部浩二	世界に誇る佐渡金銀山絵巻	新潟文化財観賞会	クロスバルにいがた	令和5年10月29日
渡部浩二	出羽国上山藩越後支領の成立と七日市陣屋の建設	古文書に見る長岡のすがた	長岡市歴史文書館	令和5年11月8日
前嶋 敏	中世越後の信仰と石造物	2023年度新潟県石仏の会公開講演会	新潟県立歴史博物館	令和5年5月14日
前嶋 敏	発掘された中世文字資料から見えたもの	新潟県埋蔵文化財センター講演会	新潟県埋蔵文化財センター	令和5年8月27日
前嶋 敏	上杉謙信の合戦	戒光祥ヒストリカルセミナー vol.38	エッサム神田ホール2号館	令和6年3月16日
田邊 幹	長岡藩の一兵士の日記にみる北越戊辰戦争	シニアカレッジ新潟	パストラル長岡	令和6年5月19日
田邊 幹	長岡藩の一兵士の日記にみる北越戊辰戦争	歴史講座	柏崎市高田コミュニティセンター	令和5年7月7日
田邊 幹	北越戊辰戦争と会津藩	第四北越銀行会津若松支店親睦会 講演会	ホテルニューパレス	令和5年8月23日
田邊 幹	長岡藩銃卒の出陣日誌からみた長岡城攻防戦	長岡郷土史研究会・長岡市歴史文書館古文書解説講座「古文書に見る長岡のすがた」	長岡市歴史文書館	令和5年11月24日
橋詰 潤	ヒスイがつなぐ新潟・長野・山梨・静岡	山の洲文化財交流展 記念講演会	静岡県立美術館 講堂	令和6年3月2日
遠山 典子	河井継之助の友 小山良運	神田コミセン歴史講座	神田コミュニティセンター	令和5年7月3日
遠山 典子	米百俵と長岡の人材教育	長岡学カフェ	まちなかキャンパス長岡	令和5年7月14日
遠山 典子	米百俵と小林虎三郎	長岡市ガイドボランティア入門講座	まちなかキャンパス長岡	令和5年10月25日
遠山 典子	長岡藩の腑分（人体解剖） 一近代医学の誕生に立ち会った人びと	長岡学カフェ	まちなかキャンパス長岡	令和6年1月30日

(5) 被災文化財の救済活動

ア 中越大震災・中越沖地震

平成16年10月23日の中越大震災以降、当館では地域貢献の一環として災害復興への一翼を担うべく、各市町村教育委員会や新潟歴史資料救済ネットワークと連携して、地域の資料の救済（一時預かり）を行っている。

新潟県中越大震災

所蔵者	資料	状態
(個人)	屏風・軸装品・古文書・焼物・漆器	一時預かり継続中
薬師堂(野田)	薬師如来像、薬師堂関連写真(乾板含)、薬師堂建築部材等	一時預かり継続中

新潟県中越沖地震

所蔵者	資料	状態
二田物部神社	狛犬、徳川朱印状ほか 約700点	一時預かり継続中
超願寺	古文書19通、什器13件	一時預かり継続中

イ 新潟・福島豪雨

平成23年7月の新潟・福島豪雨により、南魚沼市雲洞の雲洞庵が被災した。雲洞庵からの依頼により、古文書等を一時預かり、新潟歴史資料救済ネットワークと連携して吸水乾燥・クリーニングなどの処置を実施していた。これらの処置が終了し、令和5年11月に雲洞庵に返却した。

(6) 新潟県地域史研究ネットワーク

県内歴史研究のセンター的役割を果たすため、県内の地域史関係者及び郷土史研究団体のネットワーク形成と、それに伴う関連情報の集約と発信を担う組織として、平成 22 年度末に「新潟県地域史研究ネットワーク」を立ち上げた。

令和 5 年度は、趣旨に賛同する 25 団体の協力を得て、以下の事業を事務局として実施した。

- ・ SNS (Facebook、Twitter 等) による情報の発信。
- ・ 「新潟県地域史研究ネットワークニュース」の発行 (毎月、新潟県地域史に関する研究情報等を集約し、会員各団体に送付。)
- ・ 「新潟県地域史関係文献目録」 (『研究紀要』に 1 年間の地域史研究に関する文献目録を掲載。)
- ・ IPM 研修会 (4 月、新潟県立歴史博物館)

※令和 4 年度、「越後国郡絵図」を用いた授業実践研修会 (新潟県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会の主催、当館および地域史研究ネットワークの共催、令和 4 年 11 月)

2 交流普及事業概要

(1) 講座

当館研究員の「調査・研究」活動の成果を広く県民に普及する場として、また、県民の多様なニーズに即した生涯学習の場とするため、講座を開講している。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、人数制限等をなくして実施した。

館内講座・出前講座を合わせ、合計で1,899人の参加を得た。

① 館内講座

以上のもと、講演会・講座・体験型講座を計41回開催した。内容及び担当者・参加人数は下表のとおりであり、合計で1,265人の参加を得た。

	月 日	曜日	内容	担当者	人数
1	5月20日	土	国際博物館の日記念「ICOM、そして日本の博物館法」	山本 哲也	15
2	5月21日	日	災害と刷り物	矢田 俊文 氏 (新潟大学名誉教授)	37
3	5月27日	土	はじめてのくずし字	本多 園子	17
4	6月10日	土	飛び道具と人類	橋詰 潤	18
5	6月17日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」①	田邊 幹	26
6	6月24日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」②	田邊 幹	36
7	7月1日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」③	田邊 幹	31
8	7月8日	土	古文書講座「古文書読解のツボ」④	田邊 幹	33
9	7月22日	土	上杉景勝ゆかりの伝来資料について	前嶋 敏	74
10	7月22日	土	十日町市博物館 布ツアー	陳 玲	8
11	7月29日	土	博物館のうらがわ探検ツアー	三国 信一	7
12	8月5日	土	自分の指のレプリカを作ろう①	山本 哲也	10
13	8月5日	土	自分の指のレプリカを作ろう②	山本 哲也	0
14	8月19日	土	作ってみよう「本格まが玉」夏の部①	山本 哲也	6
15	8月19日	土	作ってみよう「本格まが玉」夏の部②	山本 哲也	11
16	8月20日	土	豊臣期上方における上杉家の人々	片桐 昭彦 氏	131
17	8月26日	土	動画を読み解く・地蔵祭と子ども	三国 信一	13
18	9月9日	土	新潟県内の式内社を探る	浅井 勝利	32
19	9月16日	土	石器鑑賞入門3「新潟県の石 ヒスイ」	橋詰 潤	45
20	9月24日	日	縄文時代の地域交流	水ノ江 和同 氏 (同志社大学教授)	99
21	9月30日	土	土偶の鑑賞	宮尾 亨	43
22	10月7日	土	たかが土器、されど土器(1回目)	西田 泰民	20
23	10月14日	土	たかが土器、されど土器(2回目)	西田 泰民	18
24	10月21日	土	佐渡金銀山の採鉱技術	渡部 浩二	14
25	10月28日	土	新潟県内の式内社を探る(2回目)	浅井 勝利	25
26	11月4日	土	越後の鬼伝説を考えるーまつろわぬモノと仏教ー	遠山 典子	33
27	11月11日	土	盲教育資料はどう活かされてきたか、そして、今後は?	岸 博実 氏 (日本盲教育史研究会事務局長)	25

28	11月11日	土	江戸時代を探る（前編）	渡部 浩二	27
29	11月12日	日	聴導犬と共に生きる	安藤美紀氏・安藤一成氏	46
30	11月18日	土	江戸時代を探る（後編）	渡部 浩二	28
31	11月25日	土	横文字古文書を読む	西田 泰民	19
32	12月2日	土	博物館を知る講座「プラネタリウムの過去、現在、未来」	山本 哲也	11
33	12月9日	土	『源氏物語』の基礎知識	浅井 勝利	32
34	12月16日	土	古文書講座～越後文書宝翰集を読み解く～前編	前嶋 敏	36
35	12月23日	土	古文書講座～越後文書宝翰集を読み解く～後編	前嶋 敏	20
36	1月20日	土	火焰土器の突起をつくる	宮尾 亨	15
37	2月3日	土	木綿のカタチ・ワザ・地コトバ～越後・佐渡の仕事着を読み解く～	陳 玲	66
38	2月17日	土	縄をつくる・縄文をつくる	宮尾 亨	15
39	2月24日	土	再考・越後の綿織物	陳 玲	89
40	3月16日	土	越後地域近世近代窯跡の調査	西田 泰民	22
41	3月30日	土	作ってみよう「本格まが玉」（春の部）	山本 哲也	12

② 出前講座

令和5年度は、12の市町村で計32回にわたり開催した。内容及び担当者・参加人数は下表のとおりであり、合計で634人の参加を得た。

	月 日	曜日	会場	内容	担当者	人数
1	4月28日	金	見附市中央公民館	新潟の裂き織と刺子の話	陳 玲	16
2	5月20日	土	聖籠町市民会館	考古学から探る女の力	宮尾 亨	7
3	6月3日	土	有田地区公民館	江戸時代の越後の石油と天然ガス	渡部 浩二	11
4	6月14日	水	山通コミュニティセンター	新潟の縄文文化	宮尾 亨	8
5	6月15日	木	出雲崎町公民館	北前船が運んだもの	田邊 幹	20
6	6月29日	木	新潟市生涯学習センター	縄をつくる	宮尾 亨	23
7	7月4日	火	ふぁみりあ	女性天皇の歴史	浅井 勝利	23
8	7月7日	金	青葉台コミュニティセンター	アンギンと越後上布・小千谷縮の話	陳 玲	16
9	7月14日	金	七葉コミセン	年中行事と人々の認識	三国 信一	12
10	7月22日	土	阿賀町公民館	小瀬ヶ沢、室谷洞窟と新潟県の縄文文化のはじまりをめぐる研究	橋詰 潤	31
11	7月25日	火	燕市中央公民館	縄文時代の数	西田 泰民	21
12	8月4日	金	見附市中央公民館	作ってみよう（本格まが玉作り）	山本 哲也	18
13	8月17日	木	越路総合福祉センター	井上円了の妖怪学	田邊 幹	8
14	8月31日	木	大島コミセン	近現代の災い～信濃川の洪水～	田邊 幹	18
15	9月5日	火	三条市栄公民館	お菓子和新潟～江戸時代を中心に～	渡部 浩二	26
16	9月9日	土	見附市中央公民館	武器商人スネル関係文書を読む	西田 泰民	21
17	9月20日	水	大潟コミュニティプラザ	旅してきた石たち	橋詰 潤	27
18	9月21日	木	嵐南公民館	世界の中の北越戊辰戦争	田邊 幹	25
19	10月6日	金	宮内コミセン	直江兼統とその時代	前嶋 敏	10
20	10月14日	土	西川地区公民館	直江兼統とその時代	前嶋 敏	29
21	10月17日	火	オーレンプラザ	古代の人と温泉	浅井 勝利	29
22	10月18日	水	アミューズメント佐渡	動画を読み解く・新潟県の盆行事	三国 信一	56
23	10月21日	土	豊浦地区公民館	呪いの古代史	浅井 勝利	4
24	10月28日	土	ネーブルみつけ	武士の家系図	前嶋 敏	15
25	11月11日	土	葛巻地区ふるさとセンター	氷河期末のハンターたち	橋詰 潤	18
26	11月12日	日	深才コミセン	年中行事と人々の認識	三国 信一	26
27	11月16日	木	大島公民館	年中行事と人々の認識	三国 信一	19
28	11月18日	土	三和地区公民館	直江兼統とその時代	前嶋 敏	12
29	11月30日	木	新津図書館	お菓子和新潟～江戸時代を中心に～	渡部 浩二	15
30	2月10日	土	新発田市立歴史図書館	明治英文旅行ガイドに見る新潟	西田 泰民	40
31	3月2日	土	胎内市美術館	お菓子和新潟～江戸時代を中心に～	渡部 浩二	14
32	3月16日	土	北谷公民館	新潟の裂き織と刺子の話	陳 玲	16

③ サイノカミ

開館した平成12年度より、関原町サイノカミ有志の会と協働で、毎年小正月の時期の日曜日に新潟県の冬の民俗行事「サイノカミ」を実施している。これまでの実施期日、参加者数は以下のとおりである。

年度	期日	参加者数	年度	期日	参加者数
H12年度	H13年1月14日	230人	H24年度	H25年1月13日	750人
H13年度	H14年1月13日	750人	H25年度	H26年1月12日	500人
H14年度	H15年1月12日	620人	H26年度	H27年1月11日	500人
H15年度	H16年1月11日	520人	H27年度	H28年1月17日	650人
H16年度	H17年1月16日	800人	H28年度	H29年1月15日	500人
H17年度	H18年1月15日	760人	H29年度	H30年1月14日	600人
H18年度	H19年1月14日	780人	H30年度	H31年1月13日	700人
H19年度	H20年1月13日	800人	R1年度	R2年1月12日	800人
H20年度	H21年1月11日	500人	R2年度	R3年2月28日	200人
H21年度	H22年1月17日	700人	R3年度	R4年1月16日	240人
H22年度	H23年1月16日	500人	R4年度	R5年1月15日	380人
H23年度	H24年1月15日	750人	R5年度	R6年1月14日	600人



令和5年1月14日のサイノカミ

(2) 体験プログラム

令和5年度、実施した体験プログラムの内容・日時等は下記のとおりである。51回実施し、総計で1,330人の参加を得た。

- ① まが玉作り（6回、計170人）
滑石を削り、縄文時代～古墳時代の人々が身につけていたまが玉を作る体験。
- ② 「なまず絵」缶バッジを作ろう！（3回、133人）
企画展「災害の記憶」にあわせ、展示資料の画像を使用して缶バッジを作る体験。
- ③ クルリンまといスティックを作ろう（4回73人）
企画展に合わせ、江戸のヒーローだった町火消たちが使ったまとい風の、くるくる回るレインボースティックを体験。
- ④ 昔の遊び道具を体験しよう！（4回、計71人）
けん玉、コマ、お手玉など、昔の遊び道具を体験。
- ⑤ ミニ灯籠作りに挑戦（3回、計52人）
灯籠流しで使用するサイズよりも小さめの灯籠を作る体験。
- ⑥ 謙信・兼続に変身（3回、計124人）
上杉謙信や直江兼続の鎧（※模造品）を身に付けて、戦国武将に変身する体験。
- ⑦ 紙芝居読み聞かせ（1回、23人）
企画展「大・佐渡島」にあわせて紙芝居「こがねの山」や、8月1日の長岡空襲にあわせて「長岡空襲 みちこのいのち 長岡空襲体験者・七里アイさんの証言より」と「かわいそうなぞう」の読み聞かせ。
- ⑧ 花押を作ろう（3回123人）
上杉家に関する花押の石のハンコを作る体験。
- ⑨ 縄文模様コロコロ体験！（3回、計59人）
縄文文様をオープン粘土につけて加熱し、土器のミニチュアを作る体験。
- ⑩ ヒスイ色の飾り—縄文時代の「大珠」を作ろう（4回、計130人）
シリコン型に、4色のオープン粘土を混ぜ合わせヒスイ色を再現して縄文時代の「大珠」型の製品を作る体験。
- ⑪ 点字メッセージカードを作ろう（4回、計98人）
点字器を使って、カードにメッセージを打つ体験。
- ⑫ 切り紙で正月飾り（2回、計43人）
切り紙で干支などが描かれた型紙を切り抜き、正月飾りを作る体験。
- ⑬ 平安貴族に変身（3回、計57人）
桂・狩衣を着る体験。
- ⑭ さき織りでコースター作りに挑戦（3回、計67人）
古い布を裂き、新たに糸とし、新しい布を織るという伝統文化の「さき織り」の体験。
- ⑮ 亀田縞くるみボタンを作ろう（3回135人）
亀田縞の布でくるみボタンを作る体験。
- ⑯ 投扇興をやってみよう（3回、計86人）
扇子で蝶（的）に当て、その落ちた形などで点数を付けて競う、いにしへの遊びの体験。
- ⑰ 夏休み特別体験「刺し子に挑戦」「まが玉を作ろう」「花火玉貯金箱作り」「魔鏡」（4回、計69人）
夏休みの4日限定で行う体験。1日目は「まが玉を作ろう 1回、21人」2日目は「刺し子に挑戦 1回、11人」、3日目は「花火玉貯金箱作り 1回、17人」、4日目は「魔鏡 1回、20人」だった。なお、「刺し子に挑戦」と「魔鏡」は、歴博ボランティア企画として実施したものである。

月 日	曜日	体験プログラム	参加人数
4月2日	土	まが玉を作ろう	15
4月9日	土	まが玉を作ろう	15
4月16日	日	まが玉を作ろう	26
4月23日	日	「なまず絵」缶バッジを作ろう	28
4月30日	日	「なまず絵」缶バッジを作ろう	56
5月7日	日	「なまず絵」缶バッジを作ろう	49
5月14日	日	クルリンまといスティックを作ろう	16
5月21日	日	クルリンまといスティックを作ろう	17
5月28日	日	クルリンまといスティックを作ろう	10
6月4日	日	クルリンまといスティックを作ろう	30
6月11日	日	昔の遊び道具を体験しよう！	23
6月18日	日	昔の遊び道具を体験しよう！	10
6月25日	日	ミニ灯籠作りに挑戦	15
7月2日	日	ミニ灯籠作りに挑戦	18
7月9日	日	ミニ灯籠作りに挑戦	19
7月16日	水	「謙信・兼統に変身」	29
7月23日	日	「謙信・兼統に変身」	39
7月25日	火	夏休み特別体験「まが玉を作ろう」	21
7月26日	木	夏休み特別体験「刺し子に挑戦」	11
7月27日	金	夏休み特別体験「花火玉貯金箱作り」	17
7月28日	日	夏休み特別体験「魔鏡」	20
7月30日	日	「謙信・兼統に変身」	56
8月6日	日	紙芝居読み聞かせ	23
8月13日	水	花押を作ろう	53
8月20日	木	花押を作ろう	35
8月27日	日	花押を作ろう	35
9月3日	日	縄文文様コロコロ体験	14
9月10日	日	縄文文様コロコロ体験	15
9月17日	日	縄文文様コロコロ体験	30

月 日	曜日	体験プログラム	参加人数
9月24日	日	ヒスイ色の飾り ー縄文時代の大珠ーを作ろう	23
10月1日	日	ヒスイ色の飾り ー縄文時代の大珠ーを作ろう	17
10月8日	日	ヒスイ色の飾り ー縄文時代の大珠ーを作ろう	42
10月15日	日	ヒスイ色の飾り ー縄文時代の大珠ーを作ろう	48
10月22日	日	まが玉を作ろう	28
10月29日	日	点字メッセージカードを作ろう	13
11月5日	日	点字メッセージカードを作ろう	22
11月12日	日	点字メッセージカードを作ろう	40
11月19日	日	点字メッセージカードを作ろう	23
11月25日	日	切り紙で正月飾りを作ろう	20
11月26日	土	切り紙で正月飾りを作ろう	23
12月3日	日	平安貴族に変身	22
12月10日	日	平安貴族に変身	22
12月17日	日	平安貴族に変身	13
12月24日	日	昔の遊び道具を体験しよう！	11
1月7日	日	昔の遊び道具を体験しよう！	27
1月21日	日	さき織でコースター作りに挑戦	18
1月28日	日	さき織でコースター作りに挑戦	25
2月4日	日	さき織でコースター作りに挑戦	24
2月11日	日	亀田縮くるみボタンを作ろう	45
2月18日	日	亀田縮くるみボタンを作ろう	33
2月25日	日	亀田縮くるみボタンを作ろう	57
3月3日	日	投扇興をやってみよう	15
3月10日	日	投扇興をやってみよう	11
3月17日	日	投扇興をやってみよう	6
3月24日	日	まが玉を作ろう	27
3月31日	日	まが玉を作ろう	59

(3) 視察・団体受け入れ状況

観覧料等免除申請書（新潟県立歴史博物館規則第9条第1項に基づく第4号様式）や視察依頼書等、または電話により受け入れた視察・団体について、小学校（延べ113校5,537人）中学校（延べ30校1,620人）高校（延べ5校107人）特別支援学校（延べ22校216人）大学等（延べ18校248人）、幼稚園・保育園（延べ4園162人）その他（延べ160団体1,895人）に分けて表に示す。人数はできる限り実際の数値としたが、実数が確認できず、申請書等の記載によるものも含まれる。なお、職場体験で館内見学・作業等を実施した学校団体を含む。

令和5年度分
(小学校)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	解器	鑑蔵	体験	備考
1	4月27日	木	文京区立小学校実施踏査	31						下見
2	4月27日	木	長岡・四郎丸小職員	1						下見
3	5月2日	火	柏崎・剣野小6年	67	○	○			○	まが玉
4	5月9日	火	燕・燕西小6年	101	○	○			○	まが玉
5	5月23日	火	柏崎・北鯖石小6年	25	○	○			○	火起こし
6	5月24日	木	柏崎・枇杷島小6年	27	○	○			○	まが玉
7	5月25日	木	柏崎・田尻小6年	66	○	○			○	まが玉
8	6月1日	木	長岡・四郎丸小6年	73	○	○				
9	6月6日	火	長岡・栲尾南小6年	45	○	○				
10	6月7日	水	長岡・前川小6年	40	○	○			○	まが玉
11	6月7日	水	小千谷・南小6年	17	○	○			○	まが玉
12	6月7日	水	文京区立誠之小6年	142	○	○			○	まが玉
13	6月8日	木	佐渡・高千小・金泉小6年	21	○	○				
14	6月8日	木	佐渡・赤泊小6年	11	○	○			○	まが玉
15	6月8日	木	佐渡・河崎小6年	22	○	○			○	まが玉
16	6月8日	木	十日町・吉田小6年	21	○	○				
17	6月9日	金	長岡・下埴小5・6・年	17	○	○			○	まが玉
18	6月14日	水	文京区立窪町小6年	144						
19	6月14日	水	小千谷・和泉小6年	11	○	○				
20	6月15日	木	刈羽小6年	53	○	○			○	まが玉
21	6月15日	木	文京区立大塚小6年	61	○	○				
22	6月15日	木	柏崎・二田小6年	23	○	○				
23	6月16日	金	長岡・日越小6年	87	○	○			○	まが玉
24	6月16日	金	長岡・新組小6年	15	○	○				
25	6月20日	火	長岡・桂小5・6年	12	○	○				
26	6月20日	火	長岡・和島小6年	27	○	○			○	まが玉
27	6月20日	火	文京区立小日向台町小6年	91	○	○			○	まが玉
28	6月21日	水	柏崎・内郷小6年	23	○	○			○	まが玉
29	6月21日	水	文京区立籠籠町小6年	66	○	○				
30	6月21日	水	文京区立本郷小6年	119	○	○			○	まが玉
31	6月22日	木	佐渡・七浦小6年	11	○	○				
32	6月22日	木	燕・燕南小6年	34	○	○			○	まが玉
33	6月23日	金	佐渡・加茂小6年	36	○	○			○	まが玉
34	6月27日	火	長岡・才津小6年	27	○	○			○	まが玉
35	6月27日	火	長岡・川崎小3年	60	○	○			○	昔遊び
36	6月27日	火	長岡・関原小6年	83	○	○			○	火起こし
37	6月28日	水	上越・上杉小6年	23	○	○				
38	6月28日	水	長岡・日吉小6年	10	○	○			○	まが玉
39	6月28日	水	文京区立青柳小6年	83					○	まが玉
40	6月29日	木	新潟・浜浦小6年	25	○	○			○	まが玉
41	6月29日	木	柏崎・荒浜小6年	33	○	○			○	火起こし
42	6月29日	木	文京区立汐見小6年	64	○	○			○	まが玉
43	6月30日	金	柏崎・柏崎小6年	76	○	○			○	火起こし
44	7月4日	火	南魚沼・城内小6年	47	○	○			○	まが玉
45	7月4日	火	長岡・石坂小3~6年	17	○	○				
46	7月5日	水	三条・大崎学園6年	99	○	○			○	まが玉
47	7月5日	水	長岡・日吉小3・4年	16	○	○			○	昔遊び
48	7月5日	水	文京区立金富小6年	78						
49	7月6日	木	長岡・太田小5・6年	9	○	○			○	まが玉
50	7月7日	金	柏崎・北条小6年	20	○	○			○	まが玉
51	7月7日	金	長岡・中島小6年	43	○	○			○	まが玉
52	7月11日	火	長岡・栲尾東小6年	58	○	○				
53	7月12日	水	長岡・浦瀬小6年	12	○	○			○	まが玉
54	7月12日	水	文京区立柳町小6年	85	○	○				
55	7月12日	水	文京区立指ヶ谷小6年	62						
56	7月12日	水	文京区立林町小6年	112	○	○				
57	7月13日	木	柏崎・榎原小6年	23	○	○			○	火起こし
58	7月14日	金	長岡・脇野町小6年	45	○	○			○	まが玉
59	7月14日	金	三条・長沢小6年	18	○	○				

60	7月19日	水	出雲崎小6年	19	○	○			○	火起こし
61	7月19日	水	群馬県・玉村町立玉村小5年	72	○	○				
62	7月20日	木	魚沼・宇賀地小6年	8	○	○			○	まが玉
63	7月20日	木	群馬県・玉村町立上湯小5年	59						
64	7月20日	木	柏崎・日吉小6年	24	○	○			○	まが玉
65	7月21日	金	群馬県・玉村町立玉村南小5年	62			○			
66	8月1日	火	伊勢崎市立宮郷第二小5年	112						
67	8月29日	火	見附・葛巻小6年2組	36	○	○			○	まが玉
68	8月31日	木	長岡・信条小5・6年	17	○	○				
69	8月31日	木	見附・葛巻小6年1組	35	○	○			○	まが玉
70	9月1日	金	長岡・栖吉小6年	66	○	○			○	火起こし
71	9月6日	水	文京区立明化小6年	57	○	○			○	まが玉
72	9月6日	水	魚沼・広神西小6年	20	○	○			○	まが玉
73	9月8日	金	文京区立湯島小6年	108	○	○			○	まが玉
74	9月13日	水	長岡・越路西小6年	25	○	○				
75	9月14日	木	新潟・葛塚小6年	108	○	○				
76	9月20日	水	武蔵野市立第一小5年	18						
77	9月21日	木	長岡・大河津小6年	21	○	○			○	まが玉
78	9月21日	木	長岡・川崎東小3年	58	○	○			○	昔遊び
79	9月22日	金	三条・嵐南小6年①	64	○	○			○	まが玉
80	9月27日	水	文京区立関口台町小6年	78	○	○				
81	9月27日	水	文京区立根津小6年	56	○	○			○	まが玉
82	9月27日	水	文京区立千駄木小6年	125	○	○			○	まが玉
83	9月28日	木	三条・嵐南小6年②	65	○	○			○	まが玉
84	9月30日	土	武蔵野市立第三小5年	78	○	○			○	まが玉
85	10月11日	水	南魚沼・城内小3年	37					○	雪道具
86	10月12日	木	長岡・豊田小6年	82	○	○			○	まが玉
87	10月26日	木	南魚沼・大崎小1年	29						
88	11月7日	火	長岡・下川西小6年	13	○	○			○	まが玉
89	11月8日	水	柏崎・半田小6年	50	○	○			○	まが玉
90	11月8日	水	見附・田井小6年	18	○	○				
91	11月14日	火	長岡・希望が丘小3年	57	○	○			○	昔遊び
92	11月17日	金	十日町・松代小4年	13	○	○				
93	11月22日	水	長岡・中島小職員	1						下見
94	11月24日	金	長岡・千手小3年	56	○	○				
95	11月24日	金	三条・保内小6年	23	○	○				
96	11月28日	火	長岡・大島小3年	95	○	○			○	
97	12月1日	金	長岡・上組小3年	61	○	○			○	昔遊び
98	12月7日	木	長岡・宮内小3年	88	○	○				
99	12月13日	水	長岡・表町小3年	25	○	○			○	雪道具
100	12月15日	金	長岡・中島小3年	38	○	○			○	雪道具
101	12月19日	金	長岡・柿小3・4年	39	○	○				
102	1月19日	金	長岡・栖吉小3年	85	○	○			○	雪道具
103	1月23日	火	長岡・才津小3年	18	○	○			○	雪道具
104	1月26日	金	小千谷・片貝小6年	28	○	○				
105	1月30日	火	出雲崎小3年	31	○	○			○	雪道具
106	1月31日	水	小千谷・千田小3年	29	○	○			○	雪道具
107	2月1日	木	小千谷・片貝小3年	20	○	○			○	雪道具
108	2月7日	水	長岡・岡南小3年	12	○	○			○	雪道具
109	2月9日	金	新潟大学附属長岡小3年	70	○	○			○	雪道具
110	2月15日	木	長岡・日越小3年	81	○	○			○	昔遊び
111	2月21日	水	長岡・上川西小3年	91	○	○			○	雪道具
112	2月22日	木	長岡・越路小2年	105					○	まが玉
113	3月13日	水	三条・裏館小6年	83			○			
合計				5537	98	98	2	2	71	

(中学校)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	解器	鑑蔵	体験	備考
1	4月29日	土	長岡・越路中職員	1						下見
2	5月12日	金	足立区第十四中1年	290						
3	5月16日	火	足立区鹿浜菜の花中1年	156						
4	5月18日	木	長岡・宮内中特別支援学級	12	○					
5	5月19日	金	長岡・越路中1年	132						

6	5月25日	木	三条・本成寺中1年	75				○		○	まが玉
7	5月30日	火	足立区立第十二中1年	96						○	まが玉
8	6月2日	金	足立区立新田学園7年生	194							
9	6月28日	水	関原中職場体験	2							
10	6月28日	水	かやま子どもの村中学校	19							
11	6月29日	木	関原中職場体験	2							
12	6月30日	金	関原中職場体験	2							
13	6月30日	金	関原中特別支援学級	3							
14	7月4日	火	三島中職場体験	1							
15	7月4日	火	長岡・三島中1年	61	○	○				○	まが玉
16	7月5日	水	長岡・堤岡中職場体験	2							
17	7月6日	木	長岡・三島中職場体験	1							
18	7月6日	木	長岡・堤岡中職場体験	2							
19	7月6日	木	燕中等教育学校中等部1年	74	○	○					
20	7月25日	火	長岡・青葉台中職場体験	3							
21	7月26日	水	長岡・青葉台中職場体験	3							
22	9月15日	金	足立区立加賀中1年	55						○	まが玉
23	9月20日	水	長岡・西中職場体験	2							
24	9月21日	木	長岡・大島中職場体験	5							
25	9月22日	金	長岡・大島中職場体験	5							
26	9月22日	金	長岡・西中職場体験	2							
27	10月1日	日	足立区立第四中1年	206							
28	10月17日	火	長岡・宮内中1年	8	○	○					
29	11月28日	火	足立区立第十三中1年	191							
30	3月19日	火	柏崎・第五中2年	15							
合計				1620	4	3	1			4	

(高等学校)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	觸器	聴覚	体験	備考
1	8月6日	日	鹿島学園高等学校	3						
2	8月17日	木	アカデミーインターシッブ	4						
3	8月18日	金	アカデミーインターシッブ	4						
4	2月22日	木	三条高等学校	83	○	○				
5	2月22日	木	清心女子高等学校	13			○			
合計				107	1	1	1			

(特別支援学校等)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	觸器	聴覚	体験	備考
1	4月20日	木	長岡市高等特別支援教職員	1						下見
2	4月26日	水	江南高等特別支援学校川岸分校	21	○					
3	5月19日	金	見附・見附特別支援学校	6					○	まが玉
4	5月30日	火	三条・月ヶ岡特別支援学校	2						下見
5	6月2日	金	長岡市立総合支援学校中等部	28						
6	6月29日	木	東新潟特別支援学校	24	○	○				
7	7月6日	木	月ヶ岡特別支援学校	31	○	○			○	昔遊び
8	7月27日	木	新潟市立西蒲特別支援教職員	4						下見
9	7月27日	木	村上特別支援学校教職員	3						下見
10	7月28日	金	長岡高等総合支援学校教職員	3						下見
11	8月22日	火	小出特別支援学校教職員	2						下見
12	8月24日	木	上越特別支援学校教職員	4						下見
13	8月25日	金	新潟市立東蒲特別支援教職員	4						下見
14	9月21日	木	長岡高等総合支援学校	11						
15	10月17日	火	新潟特別支援学校のまぐ分校	3						下見
16	10月19日	木	上越特別支援学校中学校部	9					○	まが玉
17	10月20日	金	新潟市立西蒲特別支援学校中学校部3年	20					○	まが玉
18	10月24日	火	吉川高等支援学校	1						下見
19	10月28日	土	吉田特別支援学校	4						
20	11月1日	水	新潟特別支援学校のまぐ分校	10						
21	11月2日	木	小出特別支援学校	10					○	昔遊び
22	11月21日	火	吉川高等特別支援学校	15						
合計				216	3	2			5	

(大学等)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	觸器	聴覚	体験	備考
1	5月4日	木	駒澤大学職員	1						下見
2	5月6日	土	長岡造形大学	3						取材
3	5月10日	水	長岡造形大学	2						取材
4	7月7日	金	明治大学職員	1						下見
5	7月12日	水	崇徳大学	70				○		
6	7月12日	水	長岡造形大学	3						取材
7	7月29日	土	長岡造形大学	23						
8	9月6日	水	国際大学日本語プログラム	40	○	○			○	まが玉
9	9月21日	木	大正大学	4	○	○				
10	10月13日	金	長岡造形大学	26						
11	10月20日	金	駿河台大学	1						

12	11月16日	木	ダラム大学	2	○					
13	11月19日	日	上越教育大学社会コース	3	○	○				
14	11月19日	日	中央大学	6	○	○				
15	12月16日	土	法政大学	1						
16	2月7日	水	札幌大学ウレシバクラブ	21	○	○	○			
17	2月28日	水	長岡工業高等専門学校	10				○		
18	3月14日	木	長岡工業高等専門学校	31				○		
合計				248	6	5	3	1	1	

(幼稚園・保育園)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	觸器	聴覚	体験	備考
1	5月19日	金	長岡・明幸幼稚園	56						
2	6月16日	金	長岡・長峰幼稚園	60				○		
3	8月10日	木	希望ヶ丘保育園	17						
4	3月21日	木	長岡・悠みどり子ども園	29				○		
合計				162				2		

(その他)

No	月日	曜	団体	人数	案内	質問	觸器	聴覚	体験	備考
1	4月5日	水	放課後デイサービス	13						
2	4月8日	土	みのわの里	11						
3	4月14日	金	新潟県警察学校①	69	○					
4	4月15日	土	クラブツーリズム関西	25	○	○				
5	4月15日	土	一時支援オハナ	19						
6	4月16日	日	日博協	1						
7	4月22日	土	企画展取材	1						取材
8	4月23日	日	企画展取材(NHK)	1						取材
9	4月25日	火	新潟県警察学校②	67	○					
10	4月25日	火	企画展取材(NST)	1						取材
11	4月25日	火	あいおい同友会	1						下見
12	4月26日	水	クラブツーリズム関西	20	○	○				
13	4月27日	木	小平工業株式会社	2						下見
14	4月27日	木	企画展講演会講師	2						下見
15	5月4日	木	雲洞庵	8						
16	5月6日	土	グリーンピア津南	1						下見
17	5月9日	火	福島県立博物館	2						
18	5月10日	水	長岡市教育センター	7	○					
19	5月10日	水	新潟日報	1						取材
20	5月11日	木	新潟県職員退職者の会	18						
21	5月11日	木	FM ながおか	1						取材
22	5月14日	日	日本イスラエル学術協会	12						
23	5月16日	火	越後丘陵公園職員	5						
24	5月18日	木	長岡高専同級会	13	○					
25	5月19日	金	伊勢崎市教育委員会	31	○					下見
26	5月24日	水	クラブツーリズム関西	15	○	○				
27	5月24日	水	あいおい同友会	8						
28	5月25日	木	JTB ガイアレック	25						
29	5月25日	木	長岡市長	2						
30	5月26日	金	NHK 財団、あいおい損保	2						
31	5月31日	水	MEG トラベル	2						下見
32	6月2日	金	さくらの会	14						
33	6月6日	火	MEG トラベル	19				○		
34	6月6日	火	ビルドプラス	12						
35	6月10日	土	西淀川経営改善研究会	9	○	○				
36	6月14日	水	クラブツーリズム関西	14	○	○				
37	6月16日	金	令和5年県総務局報告会	10						
38	6月20日	火	モロロジー道徳教育財団	14	○					
39	6月22日	木	新発田市民生委員	16				○		
40	6月22日	木	能生地区赤十字奉仕団	13						
41	6月30日	金	小千谷留学生支援協議会	13						
42	7月2日	日	銀河子ども会	9	○	○			○	まが玉
43	7月5日	水	魚沼市観光協会	1						下見
44	7月8日	土	クラブツーリズム関西	14	○	○				
45	7月8日	土	ハビネス古正寺	22						
46	7月13日	木	わけいどう	2						
47	7月14日	金	NST	3						取材
48	7月14日	金	(株) ウェッジ	4						
49	7月16日	日	ソラヒト日和	19	○					
50	7月16日	日	南魚沼観光協会	2						下見
51	7月17日	月	常慶院	29	○	○				
52	7月17日	月	日本経済新聞	1						下見
53	7月20日	木	楽遊会	7						
54	7月20日	木	新潟県職員	4						視察
55	7月22日	土	みのわの里	10						
56	7月23日	日	長岡・王番子ども会	19	○	○			○	まが玉
57	7月23日	日	村上・大穴幸町子ども会	45					○	まが玉

(4) 出前授業

県内の小学校・高等学校から出前授業の要請があり、延べ17校において下表のように実施した。

	実施日	時間	学校名	学年	人数	担当	内容等
1	4月27日	14:30~15:15	長岡・南中学校	1	151+8(職員)	山本・菊地・本多	火おこし体験
2	5月19日	10:00~11:00	長岡・青葉台中学校	1	42+4(職員)	山本・松谷	丘陵公園にて火おこし体験
3	5月23日	14:45~15:45	南魚沼・栢窪小学校	3~6	10+1(職員)	松谷・菊地	まが玉
4	5月24日	9:00~15:00	長岡・阪之上小学校	5	42+3(職員)	田邊	前嶋神社、朝日山古戦場にて戊辰戦争解説
5	9月4日	13:40~14:40	長岡・千手小学校	4	48(児童) +43(保護者) +3(職員)	山本・菊地	PTA親子行事にて、まが玉を制作
6	9月9日	9:00~12:00	長岡・千手小学校		27(児童) +7(保護者)	本多・松谷	図書館開放イベントにてまが玉を制作
7	11月7日	13:30~15:30	長岡・四郎丸小学校	3	65(児童) +68(保護者) +2(職員)	橋詰	PTA親子行事にて、ヒスイ大珠を制作
8	11月28日	13:25~15:15	十日町総合高等学校	1	24(生徒)	本多	「歴史資料を読み解く」というテーマで授業を2コマ開催
9	12月12日	13:30~15:00	南魚沼・蕨神小学校	3	13	菊地・松谷	雪道具体験
10	1月19日	10:25~11:10	長岡・中島小学校	3	33(児童) +1(職員)	三国・松谷	昔の道具について
11	1月22日	9:50~11:50	新潟県立巻高等学校	3	15(生徒)	本多	歴史教養、まが玉体験
12	1月23日	10:35~12:10	出雲崎・出雲崎小学校	6	19(児童) +1(職員)	本多	北前船の歴史
13	1月26日	10:30~11:15	長岡・富曽亀小学校	3	93(児童) +3(職員)	三国・松谷	昔の道具について
14	1月29日	9:50~11:50	新潟県立巻高等学校		15(生徒)	本多	歴史教養、小判作り
15	2月5日	10:35~11:20	南魚沼・三用小学校	3	6(児童) +1(職員)	三国、松谷	昔の道具について
16	2月8日	9:30~10:15	長岡・青葉台小学校	3	37(児童) +1(職員)	三国、松谷	昔の道具について
17	2月29日	9:30~11:20	出雲崎・出雲崎小学校	6	19(児童) +1(職員)	本多	まが玉

(5) 職場体験

県内の中学校より依頼があり、希望する生徒を受け入れた。受け入れた期日・学校・人数は下記のとおり、6校、延べ32名だった。

No.	期 日	学校名 (学年)	人数	体験内容
1	6月28日(水)	長岡・関原中2年	2名	講義、見学、体験準備、SNS体験
2	6月29日(木)	長岡・関原中2年	2名	体験準備・片付、監視体験、体験用具準備
3	6月30日(金)	長岡・関原中2年	2名	体験用具準備、土器洗浄体験、バックヤード見学
4	7月4日(火)	長岡・三島中2年	1名	体験用具準備、体験準備・片付
5	7月5日(水)	長岡・堤岡中2年	2名	体験用具準備、体験準備・片付、監視体験
6	7月6日(木)	長岡・三島中2年	1名	講義、バックヤード見学、SNS体験
7	7月6日(木)	長岡・堤岡中2年	2名	講義、バックヤード見学、SNS体験
8	7月25日(水)	長岡・青葉台中2年	3名	講義、体験準備、拓本体験
9	7月26日(木)	長岡・青葉台中2年	3名	SNS体験、体験用具準備、監視体験
10	9月20日(水)	長岡・西中2年	2名	講義、体験用具準備、監視体験
11	9月21日(木)	長岡・大島中2年	5名	講義、バックヤード見学、体験片付
12	9月22日(金)	長岡・西中2年	2名	拓本体験、SNS体験、監視体験
13	9月22日(金)	長岡・大島中2年	5名	拓本体験、SNS体験、監視体験

※7月6日、9月22日はそれぞれ2校一緒に活動を実施。

(6) 高校生アカデミック・インターンシップ研修

新潟県教育委員会の主催事業として平成30年度から実施している当事業に、平成31年度から当館も参加し、令和5年度は4名の生徒を受け入れた。詳細は以下のとおりである。

- ・目的 大学等進学希望の生徒に「大学等の向こうにある社会」を意識させ、大学研究室や研究機関などと連携し、将来進む可能性のある学問分野に関連した研究活動等を体験し、大学等への視野を広げ、学習意欲や進路意識を高め、探究する力・課題解決能力等を身につける。
- ・実施日 8月17日(木)～18日(金)
- ・参加者 県立村上高等学校(普通科)2年1名、県立長岡向陵高等学校(普通科)2年2名、
県立柏崎翔洋中等教育学校(普通科)4年1名
- ・内容 「学芸員の仕事を通して、博物館の役割を考える」をテーマに、学芸員とは何か、博物館の意義とは何かを理解してもらうことをめざし、研修プログラムを作成した。具体的な研究実践は、プレゼンテーション「博物館のチカラ～モノを守り、ココロを守る～」の講義に始まり、バックヤードの見学等を通じて博物館の役割を認識してもらった上で、展示企画、展示制作を実践してもらった。展示候補の原田泰治氏のピエゾグラフ(高精細複製画)の作品をもとに、企画書を各自で作成し(原田泰治作品は本来、春・夏・秋・冬・香川シリーズの構成であるが、それを敢えて崩し、テーマ設定により作品の見方に発見をもたらすことを意図している)、それを4人で1本企画書に再編、検討を進めた。
その上でテーマにふさわしい4点を選出し、それをどのように展示するのが効果的か、意見を出し合いながら展示計画をたて、実際に展示作業を行った。最終的に「五感」というタイトルを決定。パネルの執筆・作成を行い、企画展示室前ロビーの壁面に、作品位置の決定からピクチャーレールへのフックの取り付け、ワイヤーの設置と作品の吊り下げ、キャプション、パネルの設置等、基本的にすべて研修生の手にて展示を完成させた。
- ・成果 研修成果の発表として、当館の企画展示室前ロビーにて8月18日(金)～9月18日(月・祝)展示した。また、県立柏崎翔洋中等教育学校にて10月31日(火)～11月8日(水)、県立長岡向陵高等学校にて11月9日(木)～11月17日(金)、県立村上高等学校にて11月20日(月)～12月1日(金)、同作品を移動展覧会として展示した。
研修生は12月26日(火)に新潟県自治会館で行われた事後報告会で研究の成果を発表し、個人の研修成果は『令和5年度高校生アカデミック・インターンシップ研修報告書』(新潟県教育委員会発行)に掲載された。



展示作業の様子

3 イベント

[主 催]

(1) 夏休みスペシャルイベント「ミッション中!!2023」

期日：7月15日(土)～8月27日(日)

会場：常設展示室・企画展示室

参加者数：1,651人

内容：常設展示室からスタートし、最後は企画展示室（夏季企画展ロビー）に至る各所にミッションを設け、計5つのミッションをクリアするとオリジナルグッズ（オリジナル缶バッジ・クリアファイル）を手に入れることができるイベントを開催。



[共 催]

(1) 講演会「中世越後の信仰と石造物」

期日：5月14日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 講堂

主催：新潟県石仏の会

参加者数：57人

内容：石仏の歴史や文化に親しみをもってもらうことを目的にため年1回開催する催し。令和5度は前嶋敏氏（新潟県立歴史博物館専門研究員）を講師として講演会を開催した。

(2) 福島しあわせ運べるように「福島・山古志交流会 ミニコンサート」

期日：8月6日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 講堂

主催：子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団

共催：新潟県立歴史博物館友の会

参加者数：55人

内容：福島しあわせ運べるように合唱団は、東日本大震災の後新潟に来県し、子どもに音楽を贈る会主催で、新潟県立歴史博物館などでコンサートを開催してきた。このたび、改めて来県して子どもたちの姿を見ていただく機会とした。

(3) 子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団写真展「福島の今展」

期日：8月6日(日)～9月18日(月・祝)

会場：新潟県立歴史博物館 講堂脇

主催：子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団

共催：新潟県立歴史博物館友の会

内容：福島しあわせ運べるように合唱団のメンバーが福島の今を撮影した写真を展示し、震災の記憶を新たに思い起こす機会とした。

(4) 新潟県石仏の会創立30周年記念写真展「寄り添う神に誘われてー新潟県の双体道祖神ー」

期日：9月20日(水)～10月15日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室前ロビー・地下ロビー・講堂脇

主催：新潟県石仏の会

内容：新潟県石仏の会創立 30 周年事業として開催した、県内の双体道祖神の歴史や地域的特色を紹介する写真展。

(5) 第 27 回石仏フォーラム

期日：10 月 1 日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 講堂

主催：新潟県石仏の会

参加者数：60 人

内容：写真展「寄り添う神に誘われてー新潟県の双体道祖神ー」の開催にあわせて、講演会のほか、新潟県石仏の会会員の研究発表、座談会によるフォーラムを開催した。

(6) 呈茶席

期日：2 月 24 日(土)～2 月 25 日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 エントランスロビー

主催：表千家 われもこう

参加者数：271 人

内容：冬季テーマ展示「越後の木綿 いま むかし」開催記念として、来館者にお茶及び菓子を無料で振る舞う。

(7) 展覧会「第 20 回マイ・コレクション・ワールド」

期日：3 月 9 日(土)～3 月 31 日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主催：新潟県立歴史博物館友の会

観覧者数：1,323 人

内容：友の会会員や一般市民コレクターから募ったコレクションを展示するもの（津南町なじよもん友の会の交流展示もあり）。計 16 件の出品を得た。

(8) kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展

会期：3 月 9 日(土)～3 月 31 日(日) 20 日間

会場：新潟県立歴史博物館 企画展示室

主催：kid's 考古学研究所

共催：NPO 法人むきばんだ応援団

観覧者数：1,323 人

内容：WEBサイト【全国子ども考古学教室】の実施する「kid's 考古学新聞コンクール」の 2023 年度の第 4 回入賞作品を展覧。

(9) 映画「生きる 大川小学校 津波裁判を闘った人たち」上映会

期日：3 月 10 日(日)

会場：新潟県立歴史博物館 講堂

主催：新潟県立歴史博物館友の会

参加者数：177 人

内容：東日本大震災で多くの犠牲者を出した大川小学校に関する裁判の経過を追ったドキュメンタリー映画の上映会を実施。

[協力]

(1) 信濃川火焰街道連携協議会

期日：令和5年度

内容：長岡市・十日町市・津南町・新潟市・三条市・魚沼市で構成する地域おこしを目的とした協議会への協力。小林達雄名誉館長が顧問となっている。

[参加]

(1) にいがたぐるっとミュージアム！

期日：6月30日（金）～2月28日（金）

企画：新潟県

主催：にいがたぐるっとミュージアム！事務局

内容：新潟県内61の美術館・博物館・偉人顕彰館等を、無料または割引料金で入場できる周遊パスポートを発行し（大人1,000円、中学生以下500円）、各館の利用を促した。

(2) 長岡まつり「観光ふれあい広場」

期日：8月2日（水）

会場：アオーレ長岡 アリーナ

主催：(一社)長岡観光コンベンション協会

内容：来場者に投扇興を体験してもらい、蝶（的）を落とした方に招待券やクリアファイルをプレゼントした。

4 博物館実習

9月25日(月)から10月5日(木)まで、博物館実習生を受け入れた。受入大学及び人数は、金沢学院大学(1人)、大正大学(1人)、長岡造形大学(2人)、米沢女子短期大学(1人)、立命館大学(1人)の5大学6人である。

内容は以下のとおり。

- 9月25日(月) オリエンテーション、防災訓練参加、館の概要、企画書に関する検討・提案(課題提示)、博物館と情報(課題提示)、博物館の役割・学芸員の業務(講義)
- 9月26日(火) 館内案内、資料保存(IPM)、課題調査
- 9月27日(水) 展示の設計と設営、考古資料について(資料の取り扱い・点検)、課題調査
- 9月28日(木) 民俗資料について(資料の取り扱い・点検)、文化財レスキューについて、課題調査
- 9月29日(金) 歴史資料について(資料の取り扱い・点検)、課題調査
- 9月30日(土) 休日(自主調査日)
- 10月1日(日) 博物館教育について(体験プログラムの開発)、体験プログラム実践、体験プログラム運営・観覧者行動調査
- 10月2日(月) 常設展示・資料展示替え
- 10月3日(火) キャプション・解説パネル作成、AV機器の取り扱い、課題調査
- 10月4日(水) 周辺施設について(経営・連携など)＝馬高縄文館、博物館教育について、課題調査・発表最終調整
- 10月5日(木) 課題発表(情報・企画書)、実習まとめ

Ⅲ 関係団体

1 新潟県博物館協議会

平成12年8月1日加盟。県内の博物館の連絡体であって、博物館の健全な発展を図り、もって教育・学術及び文化の発展に寄与することを目的に研修会、研究紀要の発行等の事業を実施している。令和5年度においては当館・小原清文館長が副会長を務めている。

2 新潟県立歴史博物館友の会

平成12年8月1日の新潟県立歴史博物館の開館と同時に発足。

役員は、令和5年度現在、会長：鈴木重彦氏、副会長：小林昌二氏、星野紀子氏、川口伊麻里氏、近藤道弥氏、理事8人、監事2人で構成。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度に中止となった北海道の研修旅行を実施した。

(1) 展覧会

「第20回マイ・コレクション・ワールド」

期日：3月9日（土）～3月31日（日）

会場：新潟県立歴史博物館企画展示室

入場者数：1,323人



(2) 研修旅行

①「北海道の縄文文化を満喫する」

期日：5月30日（火）～6月1日（木）

訪問地：北斗市郷土資料館、史跡大船遺跡（展示館）、函館市縄文文化交流センター／垣ノ島遺跡、森町遺跡発掘調査事務所、ピリカ旧石器文化館、入江・高砂貝塚館、だて歴史文化ミュージアム

ジウム、史跡北黄金貝塚・情報センター、ウポポイ（国立アイヌ民族博物館）、美々貝塚、キウス周提墓群、千歳市埋蔵文化財センター

参加者数：15人

②「101年目の大河津分水を訪ねる」

期日：9月24日（日）

訪問地：にとこみえ〜る館、信濃川大河津資料館

参加者数：33人

その他：信濃川大河津資料館友の会との交流会を実施

（3）映画上映会

「生きる 大川小学校 津波裁判を闘った人たち」

期日：令和6年3月10日（日）

会場：新潟県立歴史博物館講堂

参加者数：177人

（4）博物館整備事業（芝刈り）

第1回 6月24日（土）

第2回 7月22日（土）

第3回 8月26日（土）

第4回 9月30日（土）

（5）会報の発行

No.22 8月31日

No.23 10月20日

No.24 1月31日

No.25 3月30日

（6）20周年記念誌の編集

（7）理事会の開催

3月29日（金）

V 日誌抄

令和5年

- 4月22日(金) 春季企画展「伝えるー災害の記憶 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料」
開場式・内覧会実施
- 4月23日(土) 春季企画展開幕(於:企画展示室、～6月4日)
- 5月14日(日) 新潟県石仏の会主催講演会「中世越後の信仰と石造物」開催(於:講堂)
- 5月18日(木) 国際博物館の日記念無料観覧日
- 5月21日(日) 春季企画展記念講演会「災害と刷り物」開催(於:講堂)
- 6月12日(月) 令和3年度第2回評価委員会(於:まちなかキャンパス長岡)
- 6月13日(火) 常設展示室燻蒸作業により臨時休館
- 6月26日(月) 防災訓練実施
- 6月30日(金) にいがた ぐるっとミュージアム!参加(～2月28日)
- 7月14日(金) 夏季企画展「上杉景勝 その生涯展」開場式・内覧会実施
- 7月15日(土) 夏季企画展開幕(於:企画展示室、～8月27日)
夏休み特別イベント「ミッション中!! 2023」開催
(於:常設展示室・企画展示室前ロビー、～8月27日)
- 7月16日(日) 「歴博DE婚活」イベント
(ソラヒト日和主催、7月30日、9月10日、12月3日、2月25日にも実施)
- 7月25日(火) 夏休み特別体験「まが玉作り」開催
- 7月26日(水) 夏休み特別体験「刺し子に挑戦」開催
- 7月27日(木) 夏休み特別体験「花火玉貯金箱作り」開催
- 7月28日(金) 夏休み特別体験「魔鏡」開催
- 8月1日(火) 親子ふれあいデー「家族deわいわいミュージアム」開催
- 8月2日(水) 長岡まつり「観光ふれあい広場」参加
- 8月6日(日) 「福島しあわせ運べるように『福島・山古志交流会 ミニコンサート』」開催(於:講堂)
子どもに音楽を贈る会 福島しあわせ運べるように合唱団主催「福島の今展」開催
(於:講堂脇、～9月18日)
- 8月17日(木) 高校生アカデミック・インターンシップ研修(～8月18日)
- 8月18日(金) 高校生アカデミック・インターンシップ研修展示「五感」
(於:企画展示室前ロビー、～9月18日)
- 8月20日(日) 夏季企画展記念講演会「豊臣期上方における上杉家の人々」開催(於:講堂)
- 9月8日(金) 山の洲文化財交流展「発掘が語る地域交流 フォッサマグナがつなぐ新潟 長野 山梨 静岡」
開場式・内覧会実施
- 9月9日(土) 山の洲文化財交流展開幕(～10月15日)
- 9月20日(水) 新潟県石仏の会主催展覧会「寄り添う神に誘われてー新潟県の双体道祖神ー」開催
(於:企画展示室前ロビー、講堂脇ほか、～10月18日)
- 9月24日(日) 山の洲文化財交流展記念講演会「縄文時代の地域交流」開催(於:講堂)
- 9月25日(月) 博物館実習(～10月5日)
防災訓練実施
- 10月1日(日) 新潟県石仏の会主催「第27回石仏フォーラム」開催(於:講堂)
- 10月14日(土) 移動展覧会「三光石とやきもの」(於:新発田市上三光・蔵のある古民家「雅蔵」、～11月12日)
- 10月27日(金) 秋季テーマ展示「守れ!文化財 「障害」をめぐるモノとヒトに光を灯す～」
開場式・内覧会実施

- 10月28日(土) 秋季テーマ展示開幕(～12月17日)
- 10月31日(火) 移動展覧会「アカデミック・インターンシップ研修成果展『五感』」
(～11月9日、於：柏崎翔洋中等教育学校)
- 11月9日(木) 移動展覧会「アカデミック・インターンシップ研修成果展『五感』」
(～11月20日、於：長岡向陵高等学校)
- 11月11日(土) 秋季テーマ展示記念講演会「盲教育資料はどう活かされてきたか、そして、今後は？」
開催(於：講堂)
- 11月12日(日) 秋季テーマ展示関連イベント「ほじょ犬のひろば in ながおか」開催
(於：企画展示室前ロビー、講堂ほか)
- 11月20日(月) 移動展覧会「アカデミック・インターンシップ研修成果展『五感』」
(～12月4日、於：村上高等学校)
- 12月26日(火) 令和5年度第1回評価委員会(於：研修室)

令和6年

- 1月12日(金) 冬季テーマ展示「越後の木綿 いま むかし」開場式・内覧会実施
- 1月13日(土) 冬季テーマ展示開幕(～2月25日)
- 1月14日(日) サイノカミ実施
- 2月13日(火) 防災訓練実施
- 2月24日(土) 冬季テーマ展示関連トークセッション「再考・越後の綿織物」実施(於：講堂)
冬季テーマ展示開催記念呈茶席開催(於：エントランスロビー)
- 3月9日(土) 友の会主催展覧会「第20回マイ・コレクション・ワールド」開幕(～3月31日)
「Kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」開幕(～3月31日)
- 3月10日(日) 友の会主催「生きる 大川小学校 津波裁判を闘った人たち」映画上映会(於：講堂)
- 3月25日(月) 『新潟県立歴史博物館年報』第23号—令和4年度— 発行
(PDFデータをホームページ上で公開)
- 3月25日(月) 『新潟県立歴史博物館研究紀要』第25号発行

VI 条例等

1 新潟県立歴史博物館条例

(平成12年3月31日)
新潟県条例第10号

(設置)

第1条 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立歴史博物館（以下「博物館」という。）を長岡市関原町1丁目字権現堂に設置する。

(事業)

第2条 博物館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する資料（以下「資料」という。）の収集、保管及び展示を行うこと。
- (2) 資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 資料に関する情報の提供を行うこと。
- (4) 資料の利用に関し必要な説明、助言等を行うこと。
- (5) 新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する講演会、講習会、研究会等の開催その他の交流及び普及に関する活動を行うこと。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、博物館の設置の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第3条 博物館の常設展示室に展示されている資料を観覧しようとする者は、別表第1に掲げる観覧料（以下「観覧料」という。）を納めなければならない。

(特別観覧料)

第4条 展覧会その他の特別の催しを観覧しようとする者は、知事が別に定める特別観覧料（以下「特別観覧料」という。）を納めなければならない。

第5条 削除

(平19条例81)

(研修室等の使用の許可)

第6条 博物館の研修室又は講堂を使用しようとする者は、知事の許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、研修室又は講堂の使用を許可しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあると認めるとき。
- (2) 博物館の施設又は設備を損傷するおそれがあると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、博物館の管理上支障があると認めるとき。

3 知事は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

(使用許可の取消し等)

第7条 知事は、前条第1項の許可を受けた者（以下「施設使用者」という。）が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その許可を取り消し、又はその使用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) 不正の手段により使用の許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項各号のいずれかに該当するに至ったとき。
- (3) 前条第3項の規定により使用の許可に付した条件に違反したとき。
- (4) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(施設使用料)

第8条 施設使用者は、別表第2に掲げる施設使用料（以下「施設使用料」という。）を納めなければならない。

2 施設使用料は、前納とする。ただし、知事は特別の理由があると認めるときは、後納させることができる。

(観覧料等の免除)

第9条 知事は、必要があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は施設使用料の全部又は一部を免除することができる。

(平19条例81・一部改正)

(観覧料等の不還付)

第10条 既に納めた観覧料、特別観覧料及び施設使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平19条例81・一部改正)

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

(平17条例72・旧第12条繰上)

附 則

この条例は、平成12年8月1日から施行する。

附 則(平成17年条例第72号)

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成19年条例第81号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成26年条例第16号)

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第2の規定は、この条例の施行の日以後に使用の許可を受ける者について適用し、同日前に使用の許可を受けている者については、なお従前の例による。

附 則(平成28年条例第24号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成31年条例第10号)

(施行期日)

1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の別表第2の規定は、この条例の施行の日以後に使用の許可を受ける者について適用し、同日前に使用の許可を受けている者については、なお従前の例による。

別表第1(第3条関係)

(平19条例81・平26条例16・平28条例24・平31条例10・一部改正)

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体 (20人以上の団体に限る。)
高等学校の生徒 中等教育学校の後期課程の生徒 大学の学生 高等専門学校 その他これらに類する者	200 円	1 人につき 160 円
その他(学齢に達しない者並びに小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び中学部の児童及び生徒を除く。)	520 円	1 人につき 410 円

別表第2（第8条関係）

（平26条例16・平31条例10・一部改正）

区 分		使用時間	施設使用料
研修室	全面使用	午前9時から正午まで	3,970円
		午後1時から午後5時まで	5,340円
		午前9時から午後5時まで	9,320円
	半面使用	午前9時から正午まで	1,990円
		午後1時から午後5時まで	2,670円
		午前9時から午後5時まで	4,650円
講 堂	午前9時から正午まで	11,200円	
	午後1時から午後5時まで	15,000円	
	午前9時から午後5時まで	26,200円	

2 新潟県立歴史博物館規則

(平成 12 年 7 月 18 日)
(新潟県規則第 129 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、新潟県立歴史博物館条例（平成 12 年新潟県条例第 10 号。以下「条例」という。）の施行に伴い、新潟県立歴史博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第 2 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分（研修室及び講堂については、午前 9 時）から午後 5 時までとする。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次に掲げる日とする。

(1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「祝日」という。）に当たるときは、その直後の平日（日曜日及び祝日以外の日をいう。))

(2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 3 日までの日

(開館時間又は休館日の変更)

第 4 条 前 2 条の規定にかかわらず、知事は、必要があると認めるときは、開館時間若しくは休館日を変更し、又は臨時に休館することができる。

(平 18 規則 27・一部改正)

(観覧券等の交付)

第 5 条 博物館の長（以下「館長」という。）は、条例第 3 条の規定による観覧料若しくは条例第 4 条の規定による特別観覧料を納めた者又は条例第 9 条の規定により観覧料若しくは特別観覧料を免除された者に対し、観覧券を交付するものとする。

(平 18 規則 27・平 20 規則 16・一部改正)

(研修室等の使用手続)

第 6 条 条例第 6 条第 1 項の規定により、博物館の研修室又は講堂（以下「研修室等」という。）の使用又は使用の変更の許可を受けようとする者は、別記第 1 号様式による申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項の規定による申請書の提出があつた場合において、研修室等の使用又は使用の変更が許可されたときは、申請者に通知するものとする。

3 前項の規定により使用又は使用の変更の許可の通知を受けた者（以下「施設使用者」という。）は、研修室等を使用するときは、同項の規定による通知書を係員に提示しなければならない。

4 施設使用者は、研修室等の使用の取消しをしようとするときは、別記第 2 号様式による届出書を館長に提出しなければならない。

(平 18 規則 27・一部改正)

(施設使用者の遵守事項)

第 7 条 施設使用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。ただし、第 3 号及び第 4 号に掲げる事項については、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(1) 使用目的以外の目的に使用しないこと。

(2) 使用する権利を他の者に譲渡し、若しくは担保に供し、又は使用する研修室等を他の者に使用させないこと。

(3) 現状を変更しないこと。

(4) 前 3 号に掲げるもののほか、館長が定める事項

(平 18 規則 27・一部改正)

(観覧料等の免除)

第 8 条 条例第 9 条の規定により、観覧料及び特別観覧料（以下この項において「観覧料等」という。）を免

除することができる場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程並びに特別支援学校の小学部及び中学部の児童及び生徒が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合 当該児童及び生徒の引率者の観覧料等の全額
- (1) の 2 県内に所在する高等学校、中等教育学校の後期課程、高等専門学校及び特別支援学校の高等部の生徒が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合 当該生徒及びその引率者の観覧料等の全額
- (2) 児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）第 7 条第 1 項に規定する児童福祉施設のうち、児童養護施設、障害児入所施設、児童発達支援センター及び児童自立支援施設に入所し、又は通っている者（以下「入所者等」という。）が当該施設の活動として観覧する場合 当該入所者等及びその引率者の観覧料等の全額
- (3) 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条に規定する身体障害者手帳（以下「身体障害者手帳」という。）の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
- (4) 療育手帳制度要綱（昭和 48 年 9 月 27 日付け厚生省発児第 156 号厚生事務次官通知）に規定する療育手帳（以下「療育手帳」という。）の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 45 条に規定する精神障害者保健福祉手帳（以下「精神障害者保健福祉手帳」という。）の交付を受けた者が観覧する場合 その者の観覧料等の全額
- (6) 車いす等の補装具を使用している障害者基本法（昭和 45 年法律第 84 号）第 2 条第 1 号に規定する障害者（以下「補装具を使用している障害者」という。）の介助者が観覧する場合 当該介助者（障害者 1 人につき 1 人に限る。次号から第 9 号までにおいて同じ。）の観覧料等の全額
- (7) 身体障害者手帳に第 1 種身体障害者（身体障害者に対する旅客鉄道株式会社等の旅客運賃の割引について（昭和 57 年 1 月 6 日付け社更第 4 号厚生省社会局長・児童家庭局長通知）に規定する第 1 種身体障害者をいう。）として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
- (8) 療育手帳に第 1 種知的障害者（知的障害者に対する旅客鉄道株式会社等の旅客運賃の割引について（平成 3 年 9 月 24 日付け児発第 811 号厚生省児童家庭局長通知）に規定する第 1 種知的障害者をいう。）として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
- (9) 精神障害者保健福祉手帳に障害等級 1 級（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和 25 年政令第 155 号）第 6 条第 3 項に規定する障害等級 1 級をいう。）として記載されている者の介助者が観覧する場合 当該介助者の観覧料等の全額
- (10) 第 3 号から第 5 号までに規定する者又は補装具を使用している障害者が団体（それらの者が 20 人以上であるものに限る。）として観覧する場合において当該団体に随行する医療担当者（医師、看護師等をいう。）が観覧するとき 当該医療担当者（2 人以内に限る。）の観覧料等の全額

2 条例第 9 条の規定により、施設使用料を免除することができる場合及びその額は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 博物館の設置の目的の達成に資するものとして県が後援し、又は賛助する事業（営利を目的としないものに限る。）を行うために使用する場合 施設使用料の全額
 - (2) 新潟県の歴史又は民俗に関する研究活動又は普及活動を行うことを目的とする団体が当該目的のために使用する場合（営利を目的としない場合に限る。）施設使用料の 2 分の 1 に相当する額
- 3 前 2 項に定めるもののほか、知事は、公益上必要があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は施設使用料の全部又は一部を免除することができる。

（平 14 規則 146・平 19 規則 15・平 20 規則 16・平 23 規則 39・平 24 規則 19・平 28 規則 26・令 2 規則 24・一部改正）

（観覧料等の免除手続）

第 9 条 前条第 1 項の規定による免除（同項第 1 号、第 1 号の 2、第 2 号又は第 10 号に係るものに限る。）を受けようとする者は、あらかじめ別記第 3 号様式による申請書を館長に提出しなければならない。

2 前条第1項の規定による免除（同項第3号から第9号までに係るものに限る。）を受けようとする者は、これらの規定のいずれかに該当することを示す身体障害者手帳その他の書類を館長に提示しなければならない。ただし、館長が当該書類を提示する必要がないと認めるときは、この限りでない。

（平14規則146・平18規則27・平20規則16・一部改正）

附 則

この規則は、平成12年8月1日から施行する。

附 則（平成14年規則第146号）

この規則は、平成14年10月1日から施行する。

附 則（平成18年規則第27号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年規則第15号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年規則第16号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第8条第1項第2号の改正は、公布の日から施行する。

附 則（平成23年規則第39号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年規則第19号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成28年規則第26号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（令和2年規則第24号）

この規則は、令和2年4月1日から施行する

別記

第1号様式（第6条関係）

研修室等 使用変更 許可申請書

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒

氏 名

（法人又は団体にあつては、
名称及び代表者の氏名）

電 話

担当者

下記のとおり研修室等を使用をしたいので申請します。
の使用の変更をしたい

なお、使用に際しては、新潟県立歴史博物館条例及びこれに基づく規則に従います。

記

区 分		使 用 の 内 容 (使用の変更の場合は、変更前の内容)	変 更 す る 内 容
使用する施設 及び使用日時	研 修 室	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 半面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 半面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで
	講 堂	年 月 日 時から 年 月 日 時まで	年 月 日 時から 年 月 日 時まで
使用の目的 (催事の名称)			
使用予定人員		人	人
参加料の有無		有 (円) 無	有 (円) 無
施設使用料の 免除申請		<input type="checkbox"/> する (理由:新潟県立歴史博物館規則第8条第2項第 号該当) <input type="checkbox"/> しない	
※施設使用料	円	※使用 条件	
※免除額	円		
※納付する額	円		

注 ※印欄は、記入する必要はありません。

第2号様式（第6条関係）
 （平18規則27・旧第3号様式繰上）

研修室等使用取消届出書

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒
 氏 名
 （法人又は団体にあつては、
 名称及び代表者の氏名）
 電 話
 担当者

下記のとおり研修室等の使用の取消しをしたいので届け出ます。

記

使用許可通知の年月日 及 び 番 号	年 月 日 第 号	
使用許可を受けた 施設及び使用日時	研 修 室	<input type="checkbox"/> 全面使用 <input type="checkbox"/> 半面使用 年 月 日 時から 年 月 日 時まで
	講 堂	年 月 日 時から 年 月 日 時まで
許可を受けた使用目的 （催 事 の 名 称）		
使用の取消しの理由		

第3号様式（第9条関係）

（平18規則27・旧第4号様式繰上、平20規則16・一部改正）

観覧料等免除申請書

新潟県知事 様

年 月 日

住 所 〒

氏 名

（法人又は団体にあつては、
名称及び代表者の氏名）

電 話

担当者

下記のとおり 観覧料
特別観覧料 の免除を受けたいので申請します。

記

申 請 の 理 由	新潟県立歴史博物館規則第8条第1項第 号該当
観 覧 年 月 日	年 月 日 時 分頃から 時 分頃まで
対 象 及 び 人 数	生徒 人 医療担当者 人 入所者又は通所者 人 引率者 人 合 計 人
観覧の際の責任者の氏名	
その他参考となるべき事項	

新潟県立歴史博物館年報 第24号
—令和5年度—

令和7年3月25日発行

編集・発行 新潟県立歴史博物館

〒940-2035

新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂 2247 番 2

TEL 0258(47)6130

FAX 0258(47)6136

HP <https://nbz.or.jp>

メールアドレス office@nbz.or.jp
